

平成30年度 浜松市文化財調査報告

平成30年度の文化財保護・活用事業の要点

第1部 文化財年報

第1章 文化財保護事業報告

第2章 市内指定文化財等の動向

1 新指定

(1) 亀塚古墳

2 文化財の主な整備・保存修復事業

(1) 宝林寺 木造広目尊天菩薩・持国尊天菩薩美術工芸品 保存修理等事業

(2) 瑞雲院 鐘楼建造物保存修理事業

(3) シブカワツツジ群落整備事業

3 文化財の継承事業

4 浜松地域遺産の認定

第3章 浜松市地域遺産センター年報

第2部 埋蔵文化財調査報告

第1章 埋蔵文化財調査の概要

第2章 本発掘調査概要

第3章 試掘・確認・立会等調査報告

第4章 詳細報告

1 日晩遺跡 12次調査報告

2 天王遺跡 9次調査報告

3 中屋遺跡 14次調査報告

2020

浜松市教育委員会



1 亀塚古墳全景

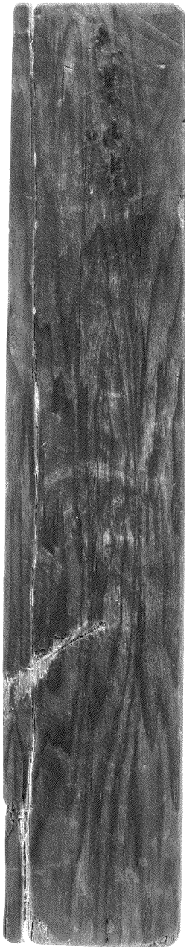


2 光明山古墳群 10 次調査 葺石・埴輪出土状況

卷頭図版 2



1 梶子遺跡 23 次調査 大溝全景



2 梶子遺跡 23 次調査出土 木簡『筆墨納櫃』



3 梶子遺跡 23 次調査出土 墨書土器『主政川前』



4 梶子遺跡 23 次調査 木製品出土状況



浜松城跡 24 次調査 天守曲輪内側の石墨と瓦出土状況



1 広日尊天菩薩 修理後



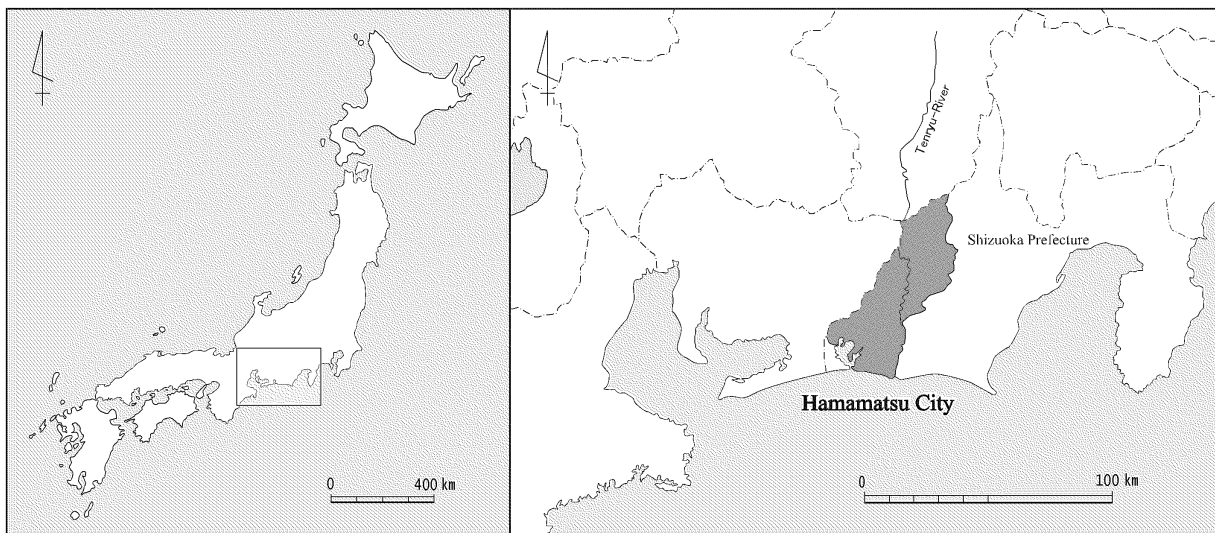
2 持国尊天菩薩 修理後



3 シブカワツツジ群落整備後

例 言

1. 本書は、浜松市教育委員会（市民部文化財課が補助執行）が平成 30（2018）年度に実施した市内における文化財調査や保護事業等の報告集である。
2. 第 1 部の文化財年報では、平成 30（2018）年度に実施した市内文化財の保存・活用事業等について報告しており、第 1 章には、市内文化財の保護事業報告、第 2 章には、新たに指定された文化財の概要、文化財の主な整備・保存修復事業や継承事業の概要、新たに認定された浜松地域遺産の一覧、第 3 章には浜松市地域遺産センターの概要及び実施した業務内容を掲載している。
第 2 部の埋蔵文化財調査報告では、平成 30（2018）年度に実施した埋蔵文化財調査について報告しており、第 1 章には、埋蔵文化財調査の概要及び一覧、第 2 章には、本発掘調査の概要、第 3 章には、試掘・確認調査・工事立会・踏査の報告、第 4 章には、小規模本発掘調査や重要な成果が得られた試掘・確認調査について詳細な報告を掲載した。
3. 試掘・確認調査は、国の補助金を得て実施した調査、市単独費で実施した調査、原因者負担で実施した調査があり、その全てを掲載した。
4. 本書の編集は、安川あや（浜松市市民部文化財課）が行い、渡邊三恵（同）、山崎明日香（同）が補佐した。執筆は浜松市市民部文化財課職員が分担して行い、第 2 部第 4 章のみ文責を文末に記した。
5. 本書にかかわる遺跡の調査記録と出土遺物は、浜松市地域遺産センターで保管している。



浜松市の位置

平成 30 年度 浜松市文化財調査報告

目 次

巻頭図版

例 言

平成 30 年度の文化財保護・活用事業の要点 1

【第 1 部 文化財年報】

第 1 章 文化財保護事業報告 5

第 2 章 市内指定文化財等の動向 17

1 新指定 17

2 文化財の主な整備・保存修復事業 19

3 文化財の継承事業 27

4 浜松地域遺産の認定 29

第 3 章 浜松市地域遺産センター年報 33

【第 2 部 埋蔵文化財調査報告】

第 1 章 埋蔵文化財調査の概要 41

調査位置図 41

調査一覧表 43

第 2 章 本発掘調査概要 45

第 3 章 試掘・確認・立会等調査報告 49

第 4 章 詳細報告 109

1 日晩遺跡 12 次調査報告 109

2 天王遺跡 9 次調査報告 111

3 中屋遺跡 14 次調査報告 113

平成 30 年度の文化財保護・活用事業の要点

1 文化財保護法の改正

平成 30 年度には、文化財保護法が改正され、交付された（施行は平成 31 年 4 月 1 日）。改正の骨子については事前に協議内容が公開され、特に文化財の保存と活用については意見が寄せられたところだった。平成 30 年 6 月以降は文化庁からの通知や、年を明けてからの政令や省令まで矢継ぎ早に交付された。さらに、平成 31 年 3 月 4 日には、「文化財保護法に基づく文化財保存活用大綱・文化財保存活用地域計画の策定等に関する指針」が策定されて、文化庁次長名で通知された。これらにより、文化庁が今回の改正で目指すところが示されている。

改正文化財保護法の要点は、まず、都道府県に対して域内の文化財の保存と活用に関する総合的な施策の大綱を定めることができることとしたことである（改正文財保護法第 183 条の 2 第 1 項）。これを受けて静岡県は「静岡県文化財保存活用大綱」を策定すると言明した。大綱には文化財の保存及び活用に関する広域的な方針や保存活用のための措置、域内の市町村への支援の方針、防災・災害発生時の対応、文化財の保存及び活用の推進体制などが示される。

次に、市町村に対しては（県の文化財大綱が示されている時はそれを勘案して）当該市町村の区域における文化財の保存及び活用に関する総合的な計画を作成し、文化庁長官の認定を申請することができることとした（同法第 183 条の 3 第 1 項）。これを受けて、静岡県の大綱策定の動向とも歩調を合わせ、浜松市も「浜松市文化財保存活用地域計画」の作成に取り掛かることとした。平成 30 年度には、本市文化財課が市都市整備部土地政策課とともに、国土交通省・農林水産省・文化庁の三省庁共管事業である「歴史的風致維持向上計画」の策定を開始しており、これらをいずれも関連するものと位置づけている。

三点目として、市町村の区域内に存する法人等で文化財の保存及び活用を図る事業を行うものを文化財保存活用支援団体として指定することができることになる（同法第 192 条の 2 及び第 192 条の）。所有者や行政だけではなく、民間を含めた多様な主体が文化財の次世代継承に向けて連携していくことが期待される。

さらに、個別の国指定文化財、国登録文化財等について、所有者・管理団体等が文化財保存活用計画を作成し文化庁長官の認定を申請できることが明文化された（同法第 53 条の 2 第 1 項等）。本市では、平成 29 年度の二俣城跡及び鳥羽山城跡の国史跡指定を契機に、改正保護法のもとでの個別文化財保存活用計画の嚆矢となるよう、両城跡の保存活用計画の策定が進行中である。今後も国指定のみならず、県・市指定文化財、国登録文化財それぞれに適応した計画が策定できるよう順次進めていきたいところである。

いずれも、文化財の次世代継承に向けて、従来のように所有者による管理を第一義としてきた体制から急速に変化する家族や地域の関係性を認め、社会総がかりで文化財の継承を果たしていこうという表れである。文化財はそれが創造された本来の意味の通りに継承されていくのが理想の姿で、そのためには創造した主体が健全に運営されていなければならない。文化財は地域が潤っていく中核を担う媒体となりうる。ただ、文化庁もしきりに「保存と活用は両輪である」と表明するように、我々の世代で貴重な文化財を消耗させただけになっては本末転倒である。

2 指定文化財・登録文化財の顕彰

平成30年度は、新たな浜松市指定文化財として、西区呉松町の前方後円墳である亀塚古墳を史跡として指定した。なお、静岡県は、浜北区根堅の中屋遺跡から出土した黒漆塗瓜文鞍、木簡、ヤダケ(17点)を静岡県指定有形文化財(考古資料)として指定した。現在は出土品を静岡県が所管するため、浜松市内の文化財の件数に関わるものではないが、市内から出土した文化財の新指定であり、浜松市地域遺産センターと市民ミュージアムでパネル展示をしたほか、地元の団体が再顕彰している。

平成29年度に国指定史跡となった二俣城跡及び鳥羽山城跡については国指定記念シンポジウム「徳川・武田争奪の城」を開催し、大勢の市民の関心を集めた。静岡県指定有形文化財・龍潭寺霊屋では、修理工事の進捗に合わせて、文化財修復の現場を案内する見学会を開催した。

無形民俗文化財では、横尾歌舞伎(静岡県指定)がロシア・サハリンでの海外公演を成功させ、西浦田楽(国指定)が国立劇場での民俗芸能公演「春むかえ 田峯と西浦の田楽」に出演した。さらに、三遠南信道の延伸開通を記念して、地元の川合花の舞(静岡県指定)が東栄インターチェンジで舞を披露するなど、積極的な対外公演が目立った。東栄町は奥三河に伝わる花祭りの本願地であり、川合花の舞を見た地元の方がたが、「花祭りと同じだ」との感想をもらったように、谷を越えた交流を継続していくことが重要だという一例となった。

3 浜松地域遺産の認定

平成30年度も、市内の団体からの推薦を募集し「浜松地域遺産」(浜松市認定文化財)を新たに50件認定した。初年度の平成28年度から3年間の累計は242件となった。この年度では、「文化的景観」の種別に天竜区と北区の棚田が認定された。

令和2年度以降も募集を継続し、各年度末に認定を予定している。今後も、市内の団体とともに推薦していく制度として、できるだけ多くの地域資源を顕彰することを期待していく。

4 埋蔵文化財

開発行為に先立つ市内の遺跡照会の件数は、平成30年度に6000件を超えた。工事立会、試掘調査なども前年度に対比して年々増加している。

本発掘調査では、浜松城跡天守曲輪での調査で、かつての石塁の状況と瓦溜りの発見が特筆される(報告書刊行済)。史跡指定に合わせた亀塚古墳の測量調査、整備工事と合わせた光明山古墳(静岡県指定史跡)の墳丘測量、試掘調査でも大きな成果を得た(いずれも報告書刊行済)。

5 地域遺産センターの展開

大河ドラマ以降も、井伊谷の歴史景観へのビジターセンターとしての機能も持たせた地域遺産センターでは、市内の発掘調査の速報展、また前年度に認定された市認定文化財の概要を紹介する文化財展など、文字通り「地域遺産」を顕彰する施設として事業を展開している。

【第 1 部 文化財年報】

第1章 文化財保護事業報告

1 文化財の調査と顕彰

(1) 浜松地域遺産の認定

地域での貴重な文化資源を指定文化財とは別の枠組みで「浜松地域遺産」として認定し顕彰することで、後世への保存継承と地域活性化への活用により、個性ある地域の創造への寄与を期待するもの。平成30年度は推薦52件のうち50件を認定した。区別及び分類別の認定数は右記のとおり。

※詳細は第2章(29頁)に掲載。

区 別	
中区	10
東区	3
西区	4
南区	1
北区	4
浜北区	12
天竜区	16
合計	50

分類別			
建造物	1	名勝	2
絵画	2	天然記念物	0
彫刻	1	有形民俗	13
工芸品	0	無形民俗	7
書籍・典籍	0	文化的景観	2
古文書	0	伝統的建造物群	0
歴史資料	9	伝承地・近代化遺産	0
史跡	13	合 計	50



水窪の祇園 (H30 認定文化財)



久留女木の棚田 (同左)

(2) 指定文化財等の現状調査

適切な保護事業の推進及び新たな文化財指定の検討材料とするため、下記の指定文化財及び指定文化財候補等について調査、情報収集を行った。

区 分	種 別	文化財の名称	所在地
市指定	有形	山住神社山門	天竜区水窪町山住
市指定	有形民俗	初生衣神社織殿	北区三ヶ日町岡本
県指定	史跡	光明山古墳	天竜区山東
市指定	史跡	亀塚古墳	西区呉松町
県指定	天然記念物	シブカワツツジ群落	北区引佐町渋川
県指定	天然記念物	春野スギ	天竜区春野町花島
市指定	天然記念物	奥山のムクノキ	北区引佐町奥山
市指定	天然記念物	細江神社のクス	北区細江町気賀
国指定	無形民俗	川名のひよんどり	北区引佐町川名
国指定	無形民俗	寺野のひよんどり	北区引佐町渋川
国指定	無形民俗	懐山のおくない	天竜区懐山
国指定	無形民俗	西浦の田楽	天竜区水窪町奥領家
県指定	無形民俗	呉松の大念仏	西区庄内町

区分	種別	文化財の名称	所在地
県指定	無形民俗	滝沢の放歌踊	北区滝沢町
県指定	無形民俗	川合花の舞	天竜区佐久間町川合
県指定	無形民俗	横尾歌舞伎	北区引佐町横尾・白岩
市指定	無形民俗	遠州大念仏	中区鹿谷町ほか
市指定	無形民俗	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町中川
未指定	有形	光明寺美術工芸品	天竜区山東
未指定	有形	井伊家霊屋裏貼文書	北区引佐町井伊谷
未指定	無形民俗	水窪の念仏踊〈神原の虫送り〉	天竜区水窪町
未指定	無形民俗	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町浦川
未指定	無形民俗	息神社の田遊祭	西区雄踏町
未指定	無形民俗	神沢のおくない	天竜区神沢
未指定	無形民俗	雄踏歌舞伎万人講	西区雄踏町

2 文化財の保護と継承

(1) 文化財保護審議会の開催

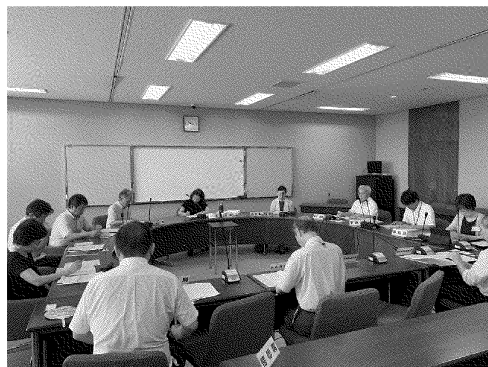
文化財保護法第190条第1項の規定に基づき設置する附属機関（浜松市文化財保護条例第43条）。教育委員会の諮問に応じて、浜松市内の文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、これらの事項に関して教育委員会に建議した。

審議会委員 任期：平成29～30年の2箇年

分野	氏名	所属・役職等	備考
社会学	笹原 恵	静岡大学情報学部教授	会長 1期目
歴史（文献史学）	坪井 俊三	浜松市史編集執筆委員	副会長 2期目
天然記念物（植物）	塚本 こなみ	浜松市花みどり振興財団理事長	2期目
有形文化財（建造物）	中村 利夫	静岡県文化財建造物監理士	2期目
教育・文化財活用	野尻 護	元天竜市教育委員会教育長	2期目
民俗	中山 正典	県立磐田南高等学校副校長	1期目
歴史（考古学）	篠原 和大	静岡大学人文社会科学部教授	1期目
歴史（文献史学）	小木 香	元春野町史執筆委員	1期目

審議会開催状況

回	開催日	内容
第1回	平成30年8月8日	平成29年度の実績報告、平成30年度の事業計画ほか
第2回	平成30年12月17日	浜松地域遺産の申請状況報告、亀塚古墳視察ほか
第3回	平成31年2月4日	亀塚古墳の市指定、浜松地域遺産の認定に関する意見聴取



審議会の様子



亀塚古墳（西区）

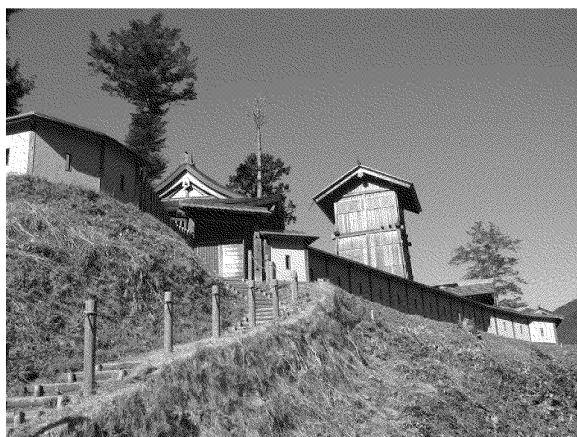
(2) 文化財の管理

文化財等の維持管理・整備 市内の文化財等の保存状態や見学的环境を整えるため、除草、清掃、設備の保守点検など日常的な維持管理を行ったほか、臨時的な修繕や整備等を実施した。主な事業は以下の通り。

区	実施状況
中区	追分一里塚（市史跡）及び住吉南古墳（市史跡）の除草及び清掃
東区	蛭子森古墳（市史跡）の除草及び清掃
南区	米津台場（市史跡）の除草及び清掃
西区	入野古墳（市史跡）及び火穴古墳（市史跡）の樹木伐採、東大山一里塚（市史跡）及び東海道の松並木（市史跡）の除草及び清掃、中村家住宅（国有形）及び舞坂宿脇本陣（市有形）の修繕
北区	【細江町】滝峯才四郎谷銅鐸公園（原史跡）、伝堀川城跡（市史跡）、井伊直親の墓及び文化財倉庫の除草及び清掃 【引佐町】三岳城跡（国史跡）、涓伊神社境内遺跡（県史跡）、シブカワツツジ群落（県天然記念物）、北岡大塚古墳（市史跡）、馬場平古墳（市史跡）及び白山1号墳（市史跡）の除草及び清掃 【三ヶ日町】凌苔庵跡（市史跡）、本坂一里塚（市史跡）、宇志北大里遺跡（市史跡）、姫街道、千頭ヶ峯城跡（県史跡）及び西山古墳（市史跡）の除草及び清掃
浜北区	山の神古墳（市史跡）の樹木伐採、内野古墳群パンフレット刊行、北浜の大カヤノキ（国天然記念物）の樹幹部治療・土壌改良、二本ヶ谷積石塚群（県史跡）の史跡公園維持管理、赤門上古墳（県史跡）・向野古墳（市史跡）等の除草及び清掃
天竜区	旧王子製紙製品倉庫（県指定）、高根城跡（市史跡）、ヒラシロ遺跡（市史跡）史跡公園の維持管理、高瀬のニッケイ（市天然記念物）の除草及び清掃



北浜の大カヤノキ（浜北区）



高根城跡（天竜区）

現状変更等への対応 指定文化財及びその指定地内で行われる現状変更や所在地変更などの各種申請・届出等については、法令に基づき事務処理を行った。件数は以下のとおり。

区分	種別	内容	件数	文化財名称（数の記載がないものは1件）
国指定	記念物	現状変更	2	二俣城跡及び鳥羽山城跡、北浜の大カヤノキ
		滅失	7	ニホンカモシカ×7
		き損	2	二俣城跡及び鳥羽山城跡×2
	有形文化財	き損	3	宝林寺、方広寺×2
県指定	記念物	現状変更	4	浜名湖×2、将軍スギ×2
		損傷	3	大居城跡、春野スギ、将軍スギ
	有形文化財	現状変更	2	龍潭寺伽藍のうち井伊家御霊屋×2
		損傷	1	旧王子製紙製品倉庫
市指定	記念物	現状変更	5	浜松城跡、アカウミガメ×2、姫街道の松並木、東海道の松並木
	有形文化財	滅失	1	秋葉神社社叢
		き損	1	秋葉神社神門

(3) 文化財保存事業に対する補助金

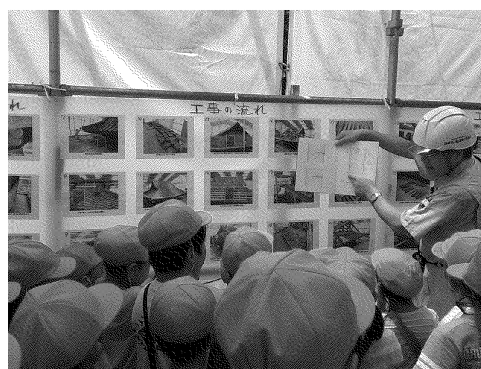
文化財の管理者が修理や保護、維持管理等に必要とする費用について、国や県とともに補助金を交付したほか、国や民間の補助・助成制度の活用についても促した。

文化財の保存修理に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
県指定	建造物	龍潭寺伽藍のうち井伊家御霊屋保存修理事業	宗教法人龍潭寺	7,233千円
県指定	史跡	光明山古墳保存修理事業	宗教法人光明寺	192千円
県指定	美術工芸品	宝林寺二十四善神立像保存修理事業	宗教法人宝林寺	1,898千円
市指定	建造物	瑞雲院鐘楼保存修理事業	宗教法人瑞雲院	14,277千円



龍潭寺御霊屋修理見学会の様子



瑞雲院鐘楼修理見学会の様子

記念物の保護に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
県指定	名勝	実相寺庭園管理事業	宗教法人実相寺	22千円
県指定	天然記念物	将軍杉保存修理事業	下百古里武速神社	231千円

文化財の管理事業に対する補助金

区分	種別	事業名	交付先	市交付額
国指定	建造物	宝林寺仏殿・方丈管理事業	宗教法人宝林寺	62千円
国指定	建造物	方広寺七尊菩薩堂管理事業	宗教法人方広寺	12千円
国指定	建造物	濱名惣社神明宮本殿管理事業	宗教法人濱名惣社神明宮	30千円
県指定	史跡	陣座ヶ谷古墳管理事業	陣座ヶ谷古墳管理者	30千円
市指定	有形民俗	初生衣神社織殿管理事業	初生衣神社	30千円
市指定	史跡	伝橋逸勢墓管理事業	本坂自治会	30千円
市指定	史跡	伝井伊共保出生井管理事業	宗教法人龍潭寺	30千円

無形民俗文化財の保存伝承・活用に対する補助金

区分	事業名	交付先	市交付額
国指定	寺野のひよんどり保存伝承・活用等事業	寺野伝承保存会	70千円
国指定	遠江のひよんどりとおくない保存伝承・活用等事業	川名ひよんどり保存会	209千円
国指定	川名のひよんどり保存伝承・活用等事業	川名ひよんどり保存会	70千円
国指定	懐山のおくない保存伝承・活用等事業	懐山おくない保存会	70千円
国指定	西浦の田楽保存伝承・活用等事業	西浦田楽保存会	120千円
県指定	滝沢の放歌踊保存伝承・活用等事業	滝沢放歌踊保存会	70千円
県指定	川合花の舞保存継承・活用等事業	川合花の舞保存会	70千円
県指定	今田花の舞保存伝承・活用等事業	今田花の舞保存会	30千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	219千円
県指定	横尾歌舞伎保存伝承・活用等事業	横尾歌舞伎保存会	70千円
市指定	勝坂神楽保存伝承・活用等事業	勝坂神楽保存会	70千円
市指定	犬居つなん曳保存伝承・活用等事業	犬居自治会龍勢社	90千円
市指定	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存伝承・活用等事業	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存会	70千円
その他	天竜地域無形民俗文化財保存伝承・活用等事業	清竜中学校郷土芸能伝承活動実行委員会	70千円

国・民間からの補助金・助成金

補助・助成元の名称	事業名	補助・助成先	補助・助成額
国（文化芸術振興費補助金）	浜松市中山間地域の文化遺産活用推進事業	浜松市中山間地域の文化遺産活用実行委員会	11,874千円
一般財団法人伊豆屋伝八文化振興財団（文化財修理保存等助成事業）	宝林寺山門保存修理事業	宗教法人宝林寺	150千円
	瑞雲院鐘楼保存修理事業	宗教法人瑞雲院	150千円
	龍潭寺霊屋保存修理事業	宗教法人龍潭寺	150千円
公益財団法人住友財団	宝林寺二十四善神立像美術工芸品保存修理事業	宗教法人宝林寺	189千円
公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	瑞雲院鐘楼保存修理事業	宗教法人瑞雲院	500千円

3 文化財等の公開

（1）文化財建造物の公開

以下の文化財建造物を公開し、必要な維持管理等を実施した。

区分	施設名	所在地	事業内容	入場者数
国指定有形文化財	鈴木家住宅	北区引佐町的場	燻蒸、消防設備保守点検等	143人
国指定有形文化財	中村家住宅	西区雄踏町宇布見	警備、植栽管理、施設修繕等	1,642人
市指定有形文化財	舞坂宿脇本陣	西区舞阪町舞阪	警備、消防設備保守点検等	5,250人
国登録有形文化財	田代家住宅	天竜区二俣町鹿島	耐震工事に先立つ地盤調査等	3,316人



中村家住宅



舞坂宿脇本陣

（2）賀茂真淵記念館の運営

国学者賀茂真淵の業績及び関係資料を紹介するため、展示や講座等を開催した。なお、（一社）浜松史蹟調査顕彰会が指定管理者として施設の運営を行った。入館者数：7,467人。



賀茂真淵記念館



同展示室

(3) 内山真龍資料館の運営

国学者内山真龍の業績を紹介するため特別展1回、常設展3回を開催したほか、施設の維持管理を行った。入館者数：2,031人。



資料館外観



展示室

(4) 浜松市地域遺産センターの運営

埋蔵文化財をはじめとする市内の文化財に関する保存・活用事業を行う施設である浜松市地域遺産センターの運営・管理を行った。入館者数 11,259人。※詳細は第3章(33頁)に掲載。

4 文化財の災害対策

(1) 普及啓発

将来予想される災害に際して文化財の被災の可能性や減災、救済の必要性を案内する講座や講演会、フィールドワーク等を開催した。

文化財防災ボランティア養成講座 修了者は静岡県文化財等救済支援員に登録することができる講座を開催し、修了した14名が登録した。開催状況は以下のとおり。

回	日	内容	受講者数
1	2月16日	県文化財等救済支援員について、浜松の災害古記録	14人
2	2月23日	文化財の梱包方法(実技)	13人
3	3月2日	文化財の修復方法(実技)、市内の文化財保護の課題について	12人

フィールドワーク ボランティア養成講座のフォローアップとして以下のとおり開催した。

日	タイトル	内容	受講者数
6月3日	現地見学会「へりさんぼ14回浜松城の最新の調査と整備」	浜松城の最新の調査成果と整備状況について現地をめぐる説明会	350人
6月30日	現地見学会「引間宿と天竜川」	天竜川と船越、引間宿、八幡界隈を解説付きで歩く	18人

(2) その他の災害対策

文化財防火デー訓練 文化財防火デーである1月26日とその前後で重要文化財中村家住宅(西区雄踏町)、長楽寺(北区細江町/県指定名勝の庭園、県指定工芸品の梵鐘、市指定彫刻の木造馬頭観音坐像)、庚申寺(浜北区宮口/市指定絵画板地著色二十四孝図)等で消防訓練を実施した。

文化財防災物品の備蓄 災害発生時の文化財救済作業で使用する中性紙封筒などの物品を購入し、地域遺産センター等へ備蓄した。

5 地域と連携した文化財の保存と活用

(1) 市指定天然記念物「アカウミガメ」の保護

遠州灘海岸でアカウミガメの保護に努めているNPO法人サンクチュアリとの相互連携や業務委託によって、以下の事業を実施した。

保護監視と生態調査 指定区域内のアカウミガメ及びその産卵地の保護監視、生態及び産卵状況の調査等を行い、72の産卵巣を確認し、8,463個の卵を保護した。

親と子のウミガメ教室 文化財や自然保護への理解を深めるため、ウミガメ講座、海岸ウォッチング、早朝の産卵調査、子ガメの放流会等の教室を3回開催した。実施状況は右記のとおり。

開催日	大人	子ども	合計
7月21日	141人	151人	292人
7月28日	133人	146人	279人
8月26日	124人	132人	256人
合計	398人	429人	827人



ウミガメ教室の様子



産卵した卵

(2) 地域資源散策コース「遠州山辺の道」の整備と活用

浜北区内で設定している地域資源散策コース「遠州山辺の道」について、地域住民が参加している市民団体「遠州山辺の道の会」との相互連携や業務委託により、月1回のワークショップの開催、ウォーキングイベントの開催、案内看板の整備、ベンチの設置、ボランティアガイドの派遣等を行った。



ウォーキングイベントの様子

(3) 無形民俗文化財の活性化

市内各所で無形民俗文化財を伝承している各地域の保存団体の自主的な取組を支援することにより、民俗芸能の確実な伝承と地域の活性化を図った。

浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会事務局の運営 各保存団体の相互連携や情報交換を図るために設置されている連絡会の事務局として運営補助・調整等を行った。

- ・理事会 平成 30 年 3 月 16 日（金）会場：天竜区役所
 - ・総 会 平成 30 年 3 月 25 日（日）会場：熊ふれあいセンター
- ※開催地の都合により、前年度中に理事会及び総会を開催した。

参加団体

団体名称	文化財名称	所在地	指定区分
寺野伝承保存会	遠江のひよんどりとおくない（寺野のひよんどり）	北区引佐町	国指定
川名ひよんどり保存会	遠江のひよんどりとおくない（川名のひよんどり）	北区引佐町	国指定
懐山おくない保存会	遠江のひよんどりとおくない（懐山のおくない）	天竜区懐山	国指定
西浦田楽保存会	西浦の田楽	天竜区水窪町	国指定
遠州大念仏呉松組	呉松の大念仏	西区呉松町	県指定
滝沢放歌踊り保存会	滝沢の放歌踊	北区滝沢町	県指定
横尾歌舞伎保存会	横尾歌舞伎	北区引佐町	県指定
川合花の舞保存会	川合花の舞	天竜区佐久間町	県指定
西浦の念仏踊保存会	西浦の念仏踊	天竜区水窪町	県指定
遠州大念仏保存会	遠州大念仏	中区鹿谷町	市指定
妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講保存会	妙功庵観音堂の百万遍念仏と念仏講	北区細江町	市指定
大居自治会	大居つなん曳	天竜区春野町	市指定
勝坂神楽保存会	勝坂神楽	天竜区春野町	市指定
滝沢おくない保存会	滝沢のシシウチ行事	北区滝沢町	国選択
今田花の舞保存会	今田花の舞	天竜区佐久間町	県選択
神沢おくない継承同好会	神沢おくない	天竜区神沢	未指定
東久留女木地区	東久留女木のおくない	北区引佐町	未指定
雄踏歌舞伎保存会万人講	雄踏歌舞伎「万人講」	西区雄踏町	未指定
浦川歌舞伎保存会	浦川歌舞伎	天竜区佐久間町	未指定
有玉神社流鏝馬神事保存会	有玉神社流鏝馬神事	東区有玉南町	未指定
雄踏息神社田遊祭	田遊祭	西区雄踏町	未指定



川名のひよんどり



川合花の舞

情報の発信 無形民俗文化財広報誌「山と里の民俗」（第 11 号）を発刊し、関係各所にて配布した。
発行部数：4,000 部

出場激励金の交付 大会やイベント等へ参加した団体に以下のとおり激励金を交付した。

団体名称	大会等名称	開催地	金額
西浦田楽保存会	国立劇場公演 春むかえ「田峯と西浦の田楽」	東京都	150 千円
横尾歌舞伎保存会	ロシアにおける日本年 2018 ユジノサハリンスクにおける歌舞伎公演	ロシア	150 千円
川合花の舞保存会	三遠南信自動車道佐久間川合 I C～東栄 I C 開通記念イベント	愛知県	150 千円
川合花の舞保存会	三遠南信自動車道佐久間川合 I C～東栄 I C 開通式	市内（天竜区）	100 千円
浦川歌舞伎保存会	ザ・山フェス	市内（中区）	100 千円



西浦田楽国立劇場公演



横尾歌舞伎ロシア公演

三遠南信ふるさと歌舞伎交流下條大会の開催 平成 30 年 12 月 16 日（日）に長野県下伊那郡下條村の文化交流センターにおいて開催した。入場料は無料で約 500 人の来場があった。出演団体及び演目は以下のとおり。

団体名	地域	演目
大鹿歌舞伎保存会	長野県下伊那郡大鹿村	玉藻前旭袂 道春館の段
下條歌舞伎保存会	長野県下伊那郡下條村	奥州安達原 袖萩祭文の段
豊橋素人歌舞伎保存会	愛知県豊橋市	元禄忠臣蔵南部坂雪の別れの場
湖西歌舞伎保存会	静岡県湖西市	神霊矢口渡 頼兵衛住家の場
雄踏歌舞伎保存会万人講	浜松市西区雄踏町	身替座禅
浦川歌舞伎保存会	浜松市天竜区佐久間町	信州川中島合戦 輝虎配膳

次世代への継承 無形民俗文化財の保存継承に関わっている地域の NPO 等への業務委託により、学校と地域の連携による次世代への継承事業（民俗芸能の体験等）を実施した。

地域団体名	学校名	内容
NPO 法人川名の里 ほぐせんぼ	井伊谷小学校 引佐南部中学校 浜松学院大学ほか	川名のひよんどり、横尾歌舞伎の歴史について、歴史の学習、舞の所作や演奏の練習、楽器や道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を本番や校内発表会で披露した。
清竜中学校郷土芸能 伝承活動実行委員会	清竜中学校	懐山のおくない、神沢のおくないについて、歴史の学習、舞の所作や演奏の練習、楽器や道具類の管理や手入れについての体験などを行い、その成果を本番や校内発表会で披露した。

(4) 城跡等史跡の整備活用

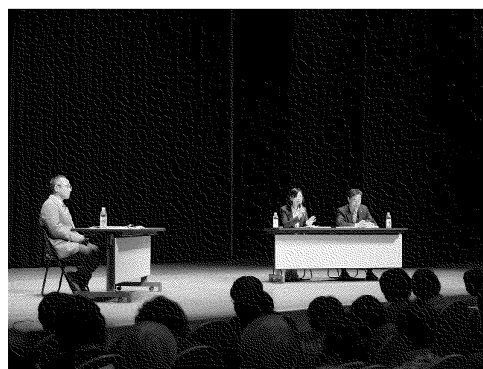
「徳川・武田争奪の城」として全国的に知られる天竜川流域の戦国時代城郭群を歴史・文化資源、観光資源として有効に活用するため、調査研究を進めた。平成 29 年度に二俣城跡及び鳥羽山城跡が国史跡に指定されたことを記念し、シンポジウムを開催するとともに、両城の保存活用計画の策定に着手した。また、光明山古墳の発掘調査など、二俣地区の歴史情報を広く収集した。

発掘調査 二俣城跡と同じ地域に所在する市内最大の前方後円墳である光明山古墳の墳丘確認調査を実施し、詳細な構造の探索を行った。

シンポジウムの開催 天竜壬生ホール（天竜区二俣）にて、「二俣城跡及び鳥羽山城跡 国史跡指定記念シンポジウム」を開催した。千田嘉博氏（奈良大学教授／城郭考古学）による記念講演（演題：二俣城・鳥羽山城の歴史的意義）、千田氏と山村亜希氏（京都大学准教授（現教授）／歴史地理学）によるトークショー（コーディネーター：浜松市文化財課 鈴木一有）、アトラクションとして「遠州天竜太鼓龍勢組」による和太鼓演奏及び福原徹氏による笛の演奏を行い、約 420 人の来場があった。



記念講演



トークショー

保存活用計画の策定 「二俣城跡及び鳥羽山城跡保存活用計画」の策定にあたり、有識者による「二俣城跡及び鳥羽山城跡保存活用検討会」を設置した。平成 30 年度は検討会を 2 回開催し、文化財課が提示した計画案について、専門的な見地から協議を行った。検討会は、来年度も継続して開催する。

二俣城跡及び鳥羽山城跡保存活用検討会名簿

分野	氏名	所属等
建築学	寒竹 伸一	静岡文化芸術大学副学長兼大学院デザイン研究科教授
考古学	北野 博司	東北芸術工科大学歴史遺産学科教授
城郭考古学	千田 嘉博	奈良大学文化財学科教授
遺跡整備・庭園史	高瀬 要一	琴ノ浦温山荘園理事長
地域史	坪井 俊三	元浜松市史編纂執筆委員・元市文化財保護審議会委員
歴史地理学	山村 亜希	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
公開活用	山下 治子	株式会社アム・プロモーション常務取締役・「ミュゼ」編集長

※五十音順／所属等は平成 31 年 4 月現在

環境整備 二俣城跡・鳥羽山城跡の石垣や堀切、曲輪を見学しやすくするために草刈や伐採を行った。また、光明山古墳の墳丘の一部についても草刈・伐採を行った。

6 埋蔵文化財の保存と活用

(1) 調整・管理

埋蔵文化財の照会対応 民間開発事業者及び市役所内部からの照会に対して対応した。

照会地	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区	全市合計
件数	1,617件	1,087件	753件	729件	554件	736件	141件	5,617件
前年度比	101%	113%	114%	108%	102%	111%	92%	107%

土木工事等への対応 埋蔵文化財包蔵地内において土木工事等の計画を有する事業者等との間で遺跡への適切な措置が図られるよう協議を行った。また、民間事業者から提出される文化財保護法第93条に基づく届出を受理し指示を行う（179件、前年度比106%）とともに、市役所の各部署から公共事業に伴い静岡県教育委員会へ提出される同法第94条に基づく通知については、進達・副申・伝達を行った（33件、前年度比97%）。

埋蔵文化財包蔵地の管理 発掘調査等の結果、範囲等の変更を要する埋蔵文化財包蔵地については、静岡県教育委員会に内容変更を求める協議書を提出した（12件）。

出土遺物の管理 発掘調査等により遺物を発見した際には、発見地の所管警察署へ文化財保護法第100条に基づく文化財の発見通知書を提出した（30件）。

(2) 調査

遺跡の状況を把握するための試掘・確認調査や現地踏査、記録保存のための本発掘調査や工事立会等を実施した（調査の詳細は第2部を参照）。

(3) 公開・活用

調査成果の整理と報告書の刊行 前年度より引き続き、郷ヶ平6号墳（北区都田町）出土埴輪の整理作業を進めた。また、平成29年度に測量調査を行った亀塚古墳（西区呉松町）や、平成29・30年度に範囲確認調査を行った光明山古墳（天竜区山東）の調査記録や出土遺物の整理作業を進め、それぞれ調査報告書を刊行した。

展示会 地域遺産センターを中心に、考古資料を活用した展示会を開催した。

会期	名称	会場	来場者数
4月13日～5月6日	「浜松城跡発掘調査速報展」	地域遺産センター	1,384人
6月1日～6月28日	「新都田地区の原始・古代」	都田図書館	未計測
9月8日～11月4日	「グレーな埴輪たち」	地域遺産センター	2,278人
11月1日～18日	郷ヶ平6号墳出土巫女形埴輪スポット展示	地域遺産センター	895人
12月4日～1月14日	郷ヶ平6号墳出土猪形埴輪スポット展示	地域遺産センター	1,028人
3月31日	旧大通院境内遺跡の発掘調査成果展示	大通院	未計測

見学会 発掘調査の現地説明会や遺跡の見学会を実施して調査成果の公開に努めた。

開催日	名称	来場者数
4月28日	天白磐座遺跡見学会	65人
4月29日	光明山古墳発掘調査現地説明会	610人
5月1日	光明山古墳発掘調査見学（光明小学校）	65人
5月14日	浜松城跡現地見学（市民団体）	42人
5月19日	半田山古墳群現地見学会	215人
6月3日	浜松城跡石垣整備状況見学会	356人
6月16日	北岡古墳群現地見学会	83人

開催日	名 称	来場者数
7月7日	宿藪寺大澤家墓所見学会	40人
8/17・9/2・10/7	浜松城跡公開発掘調査	1,350人
9月27日	浜松城跡発掘調査見学（観光ボランティア）	89人
10月18日	浜松城跡発掘調査見学（浜名協働センター）	20人
11月3・4日	浜松城跡発掘調査現地説明会	875人
11月11日	二俣城跡・鳥羽山城跡見学会	189人
11月23日	光明山古墳発掘調査現地説明会	483人
1月28日	浜松城跡現地見学（観光ボランティア）	40人
2月17日	亀塚古墳見学会	130人
3月3日	梶子遺跡発掘調査現地説明会	120人

講座・シンポジウム 主催・共催事業のほか、依頼を受けて担当者を講師として派遣した。

開催日	講座名称	講 師	会 場	来場者数
4月30日	浜松城跡発掘調査成果報告会	市担当者	引佐協働センター	103人
5月6日	「二俣城跡・鳥羽山城跡について」	市担当者を派遣	二俣協働センター	34人
5月10日	「浜松城跡の発掘調査」	市担当者を派遣	富塚協働センター	28人
6月9日	シンポジウム「東海の地方官衙と木簡」	木簡学会等と共催	静岡文化芸術大学	250人
6月14日	「浜松市の文化財と観光」	市担当者を派遣	名古屋市自然史博物館	125人
6月17日	「浜松城跡最新の発掘調査成果」	市担当者を派遣	松江市興雲閣	89人
6月23日	「新都田地区の今と昔」	市担当者を派遣	都田図書館	21人
7月12日	「浜松の遺跡」	市担当者を派遣	雄踏図書館	40人
7月26日	「浜松の遺跡発掘」	市担当者を派遣	茶町集会所	13人
9月8日	ギャラリートーク「グレーな埴輪たち」	北島未貴氏（袋井市教委）	地域遺産センター	148人
9月29日	シンポジウム「グレーな埴輪とその仲間たち」	穂積裕昌氏（三重県埋文C） 日高慎氏（東京学芸大学）	引佐協働センター	106人
10/16・23・30	「郷土の歴史講座」	市担当者を派遣	引佐多目的研修センター	36人
11月11日	「二俣城跡・鳥羽山城跡国史跡指定記念シンポジウム」	千田嘉博氏（奈良大学） 山村亜希氏（京都大学）	天竜壬生ホール	420人
11月15日	「浜松城跡の発掘調査」	市担当者を派遣	地域情報センター	87人
12月24日	お城EXPO「浜松城跡最新発掘調査」	市担当者を派遣	パシフィコ横浜	83人
1月8日	「佐鳴湖周辺の歴史」	市担当者を派遣	佐鳴台協働センター	43人
3月2日	「光明山古墳の発掘調査成果」	市担当者を派遣	細江図書館	28人
3月9日	「まちの再生と文化財」	市担当者	引佐協働センター	46人
3月14日	「光明山古墳の発掘調査成果」	市担当者を派遣	二俣協働センター	30人

イベント・ワークショップ 埋蔵文化財への興味を促すための普及啓発事業を開催した。

開催日	名 称	概要・趣旨	参加者数
5月3～6日	GWキッズイベント	発掘体験、整理作業体験など	204人
7/21～8/26	夏休み体験イベント「井伊谷夏の陣」	古墳キョウガやトバックづくり、バックボードツアーなど	512人
9/8～11/4	イノベーション「はにわのことは」	埴輪に関する書道作品の制作と体感型展示	54人
10月6日	ワークショップ「ハニッキーをつくろう」	円筒埴輪形クッキーの制作体験と技法の学習	20人
11月10・11日	展示&体験「おおむかしの人形」	人形・動物形埴輪の展示とミニ埴輪づくりなど	216人
1月27日	ワークショップ「銅鏡チョコをつくろう」	チョコを用いた画文帯神獣鏡等の鋳造模擬体験	22人

第2章 市内指定文化財等の動向

1 新指定

(1) 亀塚古墳

員数 1基

所有者 個人

所在地 浜松市西区呉松町地内

種別 市指定史跡

年代 6世紀前葉

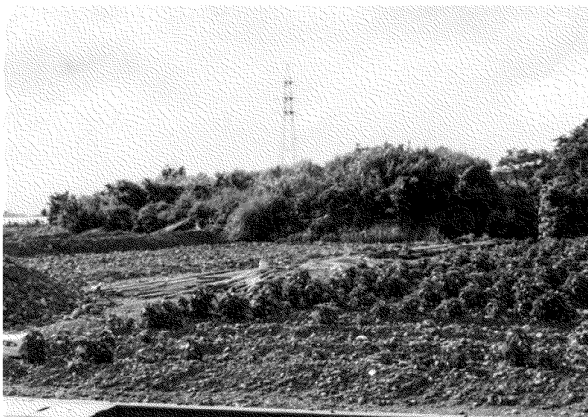
区分 史跡

指定日 平成31年2月25日

概要 亀塚古墳は、墳裾や墳丘斜面を中心に現代の耕作等による部分的な削平が認められるが、墳丘の上面は築造当時の形態を概ね反映した良好な状態で残存していると捉えられる。

古墳の規模は、現地表面における計測値で全長は23.6m、後円部径は東西13.8m、残存する墳丘高は後円部で最大2.2m、前方部で最大1.4mであることが明らかになった。また、測量調査の結果をもとに亀塚古墳の復元を行うと、全長約24m、後円部径14mの規模に復元可能である。また、墳丘の表面には須恵器や数多くの埴輪が散布している。須恵器や埴輪は6世紀前半の特徴をもつもので、古墳の築造時期を示しているものと捉えられる。

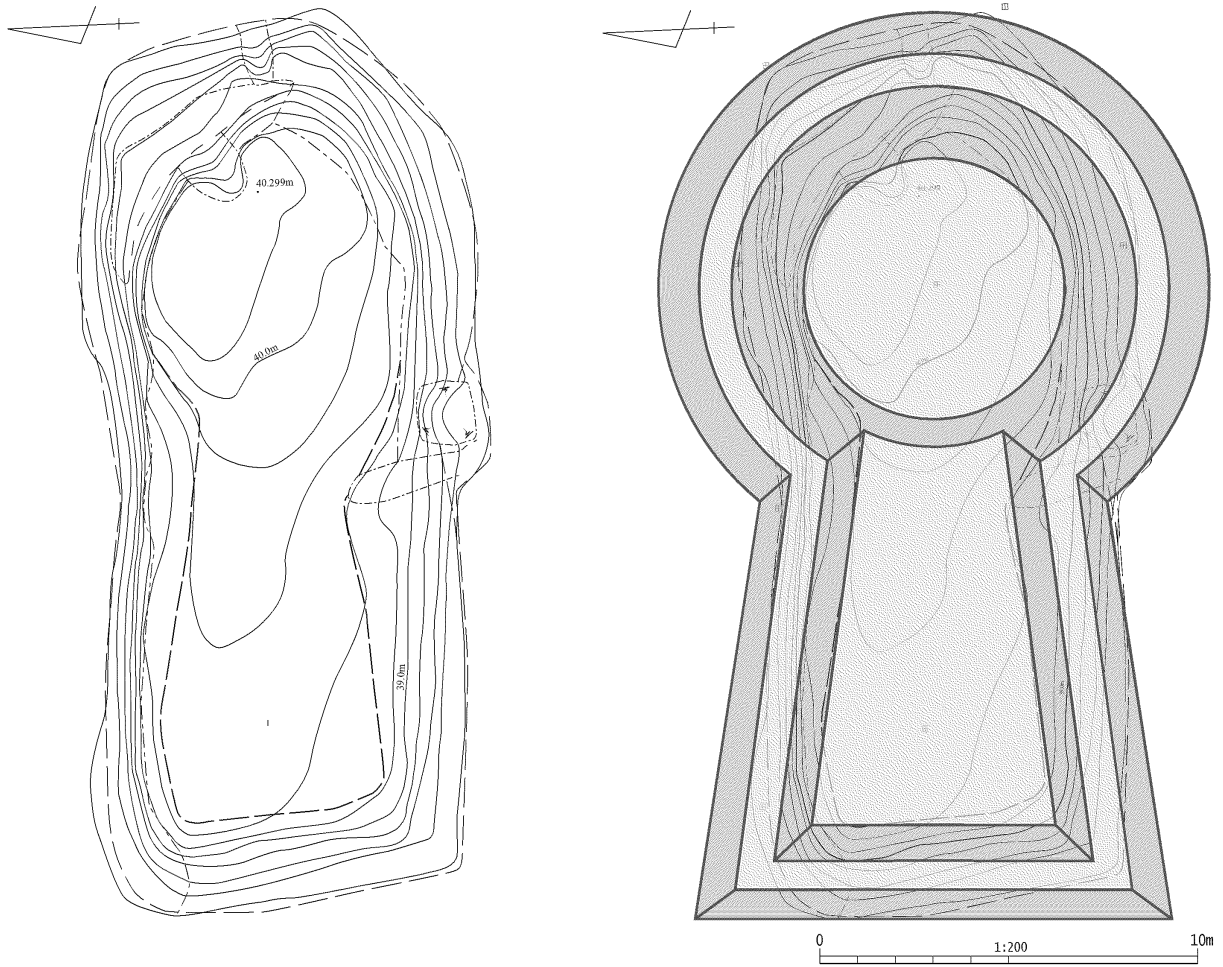
前方後円墳は、古墳時代の首長層にのみ許された古墳の一形式で、全国で4000基ほどが確認されている。市内における前方後円（方）墳は、20基が知られており、亀塚古墳はこのうち12番目の大きさに位置づけられる。さらに、亀塚古墳は西区にある唯一の前方後円墳でもある。亀塚古墳を除く市内の前方後円（方）墳は、県もしくは市の指定史跡や県立の施設用地（三方原学園）地内で保護がはかられているか、発掘調査後全域もしくは大部分が消滅しているか、のいずれかである。西区における唯一の前方後円墳である希少性と良好に残存する墳丘などから築造時の状況を整理することによって、古墳時代の政治的動向をうかがうことができ、地域の歴史を語る上で欠かせない重要遺跡といえる。



亀塚古墳写真（南東から：1981撮影）



亀塚古墳全景（南西から）



亀塚古墳墳丘測量図及び墳丘復元図



亀塚古墳主要採集遺物

2 文化財の主な整備・保存修復事業

(1) 宝林寺 木造広目尊天菩薩・持国尊天菩薩美術工芸品保存修理等事業

区分	有形文化財
種別	彫刻
造像年代	江戸時代
作者	康祐（または康祐工房）
指定日	平成23年12月2日
補助事業者	宗教法人 宝林寺
所在地	浜松市北区細江町中川65-2
事業期間	平成30年4月17日から平成31年3月22日まで
施工期間	平成30年5月14日から平成31年3月22日まで（1年度間）
施工	本軀：公益財団法人 美術院（紙製納入品：株式会社 松鶴堂）
保存修理の経緯	約350年前に造像され部材脱落や塗りの剥落など損傷が著しい状態であったため、適切な保存ができるよう保存修理を実施した。

像の概要

[広目尊天菩薩]

像高106.2cm。桧材。漆箔及び彩色。頭軀は別材。頭軀各前後二材矧ぎ。両肩・両手首先別材矧ぎ付け。天衣遊離部及び持物は別材。台座は木製、漆箔及び彩色、方形の上框と下框の間に四方隅束を立て、側板を嵌め込む。正面側板に菊花唐草文様（彩色仕上げ）透彫を施す。下框の下方に廻り脚（四方組み付け）を設ける。



広目尊天菩薩 修理前



持国尊天菩薩 修理前

[持国尊天菩薩]

像高 119.4cm。桧材、寄木造。漆箔及び彩色。頭軀は別材、頭軀各前後二枚矧ぎ。両肩・両手首先別材矧ぎ付け。天衣遊離部は別材製。台座は正面の透彫を蓮華唐草文様（彩色仕上げ）とする他、広目尊天菩薩と同様。



広目尊天菩薩 解体状況



持国尊天菩薩 解体状況

修理前の状況

[広目尊天菩薩]

- (1) 経年の埃が付着している。
- (2) 各所で漆箔・彩色が浮き上がり、剥落が進行中。面相部に金箔が指の形で剥落する箇所が点々とみられる。
- (3) 数材を繋いで形成する天衣後方翻り部の接合が不安定になっている。
- (4) 別保存される左垂下天衣の矧ぎ目に緩みがあり、右方天衣が亡失する。
- (5) 右手持物（戟）の柄上部の折損や曲がりが見られる。柄下部の亡失、柄長が短い状態となっている。
- (6) 台座正面透彫り部が脱落している。

[持国尊天菩薩]

- (1) 経年の埃が付着する。
- (2) 各所で漆箔・彩色が浮き上がり、剥落進行している。特に面相部の額部・左頬・右顎の剥落が著しく、尊容を害している。
- (3) 兜側面の火焰装飾の取り付けが不安定となっている。
- (4) 後方に翻る天衣の取り付けが離れ、現状では首に掛けられている。
- (5) 天衣と腰ひもの結び部が脱落している。
- (6) 左沓先端の小材矧ぎ付けが亡失し、矧ぎ目が露出している。
- (7) 台座廻脚に虫蝕跡が見られる。
- (8) 台座下框の上の羽目板押さえ木の正面分が亡失している。

修理の内容

[広目尊天菩薩・持国尊天菩薩]

- (1) 埃を刷毛・筆等で清掃を行った。
- (2) 漆箔・彩色の浮きは樹脂等で剥落止を行った。
- (3) 矧ぎ目の弛む箇所は取り離し後、膠及び漆で接合した（広目天：後方に翻る天衣、及び、左垂下天衣／持国天：後方に翻る天衣）。髀幹部の矧ぎ目は点検の上、必要に応じて取り離し、必要に応じ矧ぎ目を補強し再組立した。
- (4) 欠失・亡失箇所は、修理時知見により、構造上必要な箇所、あるいは根拠が得られる場合は補足、その他は修理時知見により検討した。（広目天：右垂下天衣は別保存部材の適合するものを元の位置に取り付け、但し天衣先は亡失のまま補足無し。右手持物は折損部を接合し柄を桧で補足／持国天：左火焰装飾の欠損部は右火焰に倣い桧で補足、左杳先端の小材、房飾り、腰甲正面左下縁、右手首外側と第三指先を桧で補足）
- (5) 各台座（礼盤座）は強い接着剤が使用されており部材を傷める危険があるため解体せずに、像が立つために必要な補強のみを行った。漆箔浮きは樹脂等で剥落止めし、正面透彫が脱落するものは元位置に復位、亡失・欠損する箇所は痕跡を元に桧材で補足した。
- (6) 脱離し別保存される部材は、精査し元の位置に復位した。（広目天：左垂下天衣、台座正面透彫／持国天：天衣、腰紐との結び部）
- (7) 各修理箇所は古色仕上げを行った。
- (8) 持国天の台座廻脚の虫喰は、樹脂を含浸して材質強化をはかり、虫喰孔はタブ粉木屎で虫穴詰めを行った。
- (9) 広目尊天菩薩の納入品は加湿の上プレスを行い、強度を保つための虫喰のつくろいや、紙の継ぎ目のはがれに対する糊付けを行った。各本紙、包紙を元通りに折り畳み、渋紙製の包み紙及び紙繕りを作製し全体を包んだ。



広目尊天面部 修理前



広目尊天面部 修理後



広目尊天裳正面 修理前



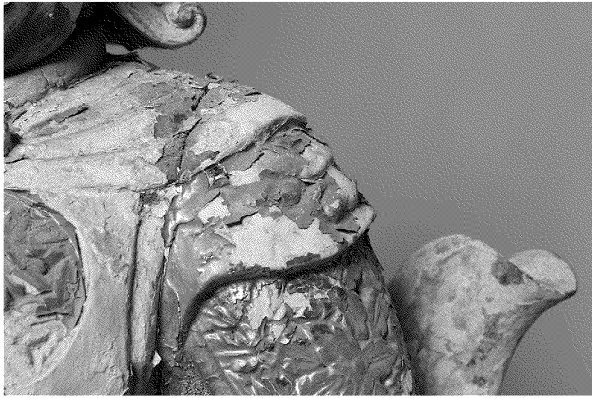
広目尊天裳正面 修理後



持国尊天面部 修理前



持国尊天面部 修理後



持国尊天左肩 修理前



持国尊天左肩 修理後



持国尊天右肩 剥面の嵌木調整



持国尊天 腐食銹（かすがい）の除去

修理中の知見

広目尊天菩薩と持国尊天菩薩の頭部が緩んでいたため、取り外して修理を行ったところ、両像頭部の内刳内部より納入品として和紙が確認された。広目尊天の納入品は別途修理を要することが判明した。持国尊天の納入品は制作当時の状況を示す固定状態で修理の必要性もなく、今回は無理な取り外しをすべきではない状態が確認された。

〔像内納入品〕

広目尊天の納入品（本紙4点、包紙2点、紙縫り1点）について、保存に必要な処置を行った。

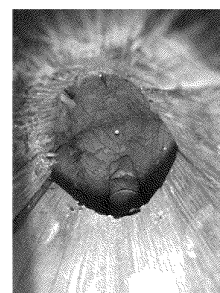
- (1) 本紙を湿紙に挟んで緩やかに加湿し、折皺等をの伸ばした上でプレスを行った。
- (2) 虫損等による欠失が見られた箇所のうち本紙保存に支障となる箇所について、本紙と同質の補修紙より補修した。補修紙は、工房製の楮紙で天然染料にて染色したものを使用した。
- (3) 紙継ぎが離れている箇所は小麦澱粉糊を用いて仕立て直しを行った。
- (4) 各本紙、包紙を元通りに折畳み、渋紙製の包み紙及び紙縫りを作製して全体を包んだ。



広目尊天菩薩 納入品



広目尊天菩薩 納入品取り出し



持国尊天菩薩 納入品



広目尊天菩薩 修理完了



持国尊天菩薩 修理完了

*本稿の内容は施工した美術院および松鶴堂の補助事業に際しての報告によります

(2) 瑞雲院 鐘楼建造物保存修理事業

区分 有形文化財
種別 建造物
指定日 平成2年1月24日
補助事業者 宗教法人瑞雲院
所在地 浜松市天竜区春野町堀之内992-1
事業期間 平成29年5月から令和元年7月まで
工事期間 平成29年8月29日から平成31年3月31日まで(2年度間)



修理後

設計監理 静岡県伝統建築技術協会
施工 株式会社 天峰建設

保存修理の経緯 江戸時代中期の建てで、二百数十年経過し、老朽化による部材の腐朽が著しいため、良好な状態で保存できるよう保存修理を実施し、修理工事報告書を作成した。

修理公開 見学会 平成30年7月18日、市立犬居小学校3～6年生及び教員27人
報告書 『浜松市指定有形文化財 瑞雲院鐘楼保存修理工事報告書』2019年、瑞雲院平成27年度の建物調査により、上層・下層とも腐朽が著しいため、部分修理による対応が不可能であることから全解体修理を実施した。
工事概要 素屋根を設置後、全解体を行い、礎石の補強、木部調査、各部材修理及び組み立て、屋根工事、建具工事を行った。



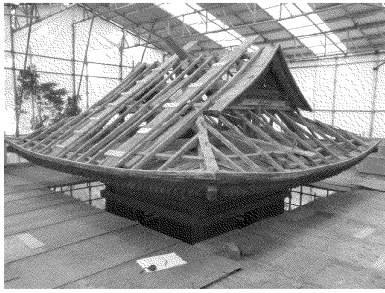
修理前 (全景南東面)



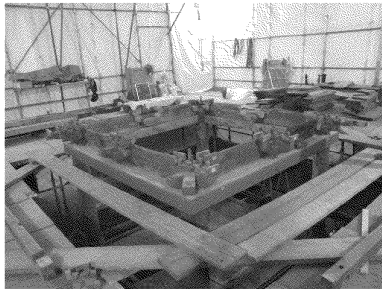
修理前 (北面屋根)



修理前 (袴腰)



修理経過（屋根解体）



修理経過（上層解体）



修理経過（下層床解体）



修理経過（礎石）



修理経過（礎石・補強コンクリート打設）



耐震対策（仕口ダンパー）

<耐震対策>

地震にそなえ、建物への入力エネルギーを抑制する耐震対策工事を行った。仕口ダンパーを楔の効力を配慮しながら下層柱と横架材（貫）へ専用ビスで取り付けました。



竣工（北面）



竣工（西面）

写真提供 静岡県伝統建築技術協会

(3) シブカワツツジ群落整備事業

区 分	静岡県指定天然記念物
種 別	天然記念物
指定日	昭和 33 年 9 月 2 日 (昭和 46 年 8 月 3 日追加指定)
補助事業者	浜松市
所在地	浜松市北区引佐町渋川
施工期間	平成 30 年 10 月 29 日から平成 31 年 3 月 29 日
施 工	引佐町森林組合

保存修理の経緯 シブカワツツジ群落の位置する渋川地区は、蛇紋岩が多く見られる地質である。蛇紋岩は、地表に露出しているため土壌が形成されにくく、土地が痩せて乾燥しやすいため、一般的に植物の生育が悪い環境である。そのため痩せた土壌でも育つツツジ類やアカマツを主とする独特の植生を形成している、ここに群生しているシブカワツツジは、名の示す通り渋川地域で発見されたジングウツツジの変種とされる貴重な植物である。

近年、当該地点では雑木が繁茂しており、またそれらが放置された結果、雑木から発生する落ち葉等により腐葉土が作り出され、本来植生していた植物の育成に適さない富栄養化した厚い土壌が形成されつつあったほか、繁茂した雑木により風通しが悪くなり、本来風通しが良い場所を好むシブカワツツジの根が湿気により腐る事態となっていた。そのため、早急にシブカワツツジ周辺に繁茂する雑木を伐採する必要があった。

概 要 シブカワツツジ群落の指定地のうち、昭和 46 年に追加指定を受けた約 5,000 m²の範囲でシブカワツツジを除く中低木の伐採をおこなった。なお、伐採に当たっては、事前に静岡県文化財審議会委員よりシブカワツツジとその他雑木の見分け方や作業方法に関する指導と、一部シブカワツツジへのマーキングを行った上で実施した。

また、当該地点には市指定天然記念物であるギフチョウが生育しており、ギフチョウの幼虫の食草であるヒメカンアオイが自生している。そのため、施工の際にはヒメカンアオイを傷つけることがないように注意を払いつつ行った。

本事業によってシブカワツツジへの日差しや風通しが改善されたほか、繁茂する雑木から発生していた落ち葉の数が減ったため腐葉土が発生し難い状況となり、指定地本来の植生であるシブカワツツジや赤松の生育に望ましい状況に近づいた。



シブカワツツジ (施工前)



シブカワツツジ (施工後・開花状況)

3 文化財の継承事業

(1) 無形民俗文化財の外部公演

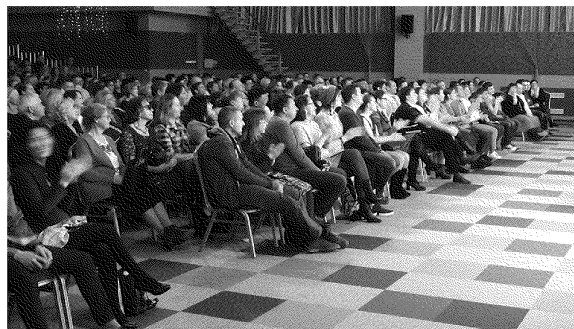
横尾歌舞伎「ロシア・サハリン公演」 日露の人的交流を目的とした「ロシアにおける日本年」行事の一環として、サハリンでは初となる歌舞伎公演（主催：在ユジノサハリンスク総領事館）に県指定無形民俗文化財・横尾歌舞伎が出演した。日程は平成30年11月10日（土）と11日（日）の2日間で、ユジノサハリンスク市内のイベントホール「スタリツア」での単独公演であった。

プログラムは横尾歌舞伎の紹介と紹介映像の後に「菅原伝授手習鑑 車曳きの場」を字幕付きで上演、上演後には役者へのインタビューとフォトセッションという構成であった。地元メディアの取材を数社から受けるなど注目を集め、来場者は2日間で約1,200名（主催者発表）にのぼり、両日とも上演後には拍手喝采を受けた。また、主催者側の要望で行った上演後の役者と来場者とのフォトセッションでは撮影希望者の列が途切れない好評ぶり、21年ぶりの海外公演を無事成功させ、日本の伝統芸能に親しみ日露両国の相互理解を促進させる目的を果たした。

公演後には在ユジノサハリンスク総領事公邸での慰労会で現地のスタッフとの交流を深め、最後に感謝状の贈呈を受け、参加した団員全員が無事帰国した。



「菅原伝授手習鑑 車曳きの場」上演の様子



観客席の様子



上演後のインタビュー



来場者とのフォトセッション



来場者とのフォトセッション



団員及び関係者による集合写真

西浦の田楽「国立劇場公演」平成31年1月26日（日）東京の国立劇場（小劇場）で行われた第133回民俗芸能公演「春むかえ 田峯と西浦の田楽」に国指定重要無形民俗文化財・西浦の田楽が出演した。西浦の田楽の国立劇場での公演は1985年（昭和60年）7月以来2度目となった。

この公演は、寺院で年の始めに多幸を祈る修正会に由来する「田楽」の芸能であり、地方に伝播する中で各地の風土の影響を受けて変容していくうち、新たな春を迎える民俗行事となった芸能を上演するという趣旨の元、「田峯田楽」と共に昼・夜2部構成（田峰田楽とは別公演）で上演された。国立劇場により、楽堂とその脇で焚かれる松明、月の出や朝焼けの空が演出され、夜を徹して行う現地の雰囲気がよく伝わる舞台上、地能から「庭ならし」「御子舞」「高足」「高足のもどき」「麦つき」「水口」「鳥追い」「惣とめ」「田楽舞」「のたさま」を、はね能から「しんたい」「梅花」「猩々」「弁慶」の計14演目を約2時間かけて上演した。

公演前日には日本経済新聞に記事が掲載され、西浦の田楽の魅力为全国に発信した。



上：公演ポスター
下：楽屋の様子

公演の様子：上から「御子舞」「高足のもどき」「しんたい」（写真：国立劇場提供）

4 浜松地域遺産の認定

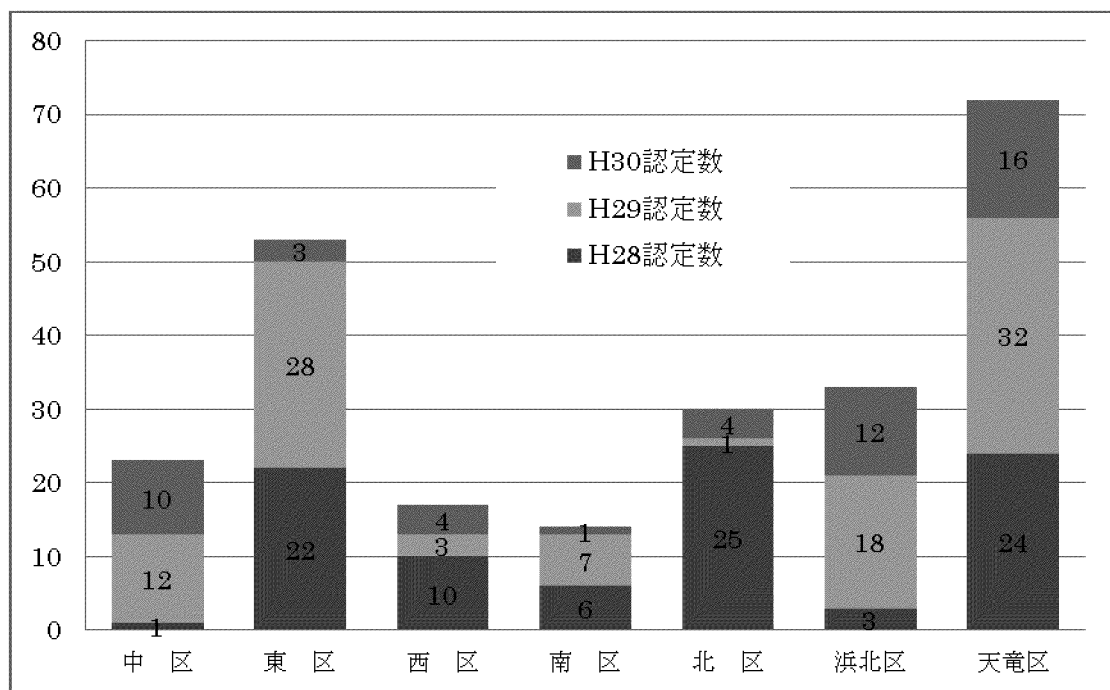
(1) 浜松地域遺産認定制度の概要と経過

浜松地域遺産認定制度の概要 浜松市は、平成28年度から、従来の国・静岡県・浜松市の指定文化財、また国の登録文化財という従来の文化財保護制度とは別に、地域とともにゆるやかな保護・活用をはかる制度として「浜松地域遺産」の認定を開始した。毎年度、地域の団体からご推薦をいただき、年度中に浜松市教育委員会が認定する。まだ指定文化財ほどには知られていないとしても、それぞれの地域で長く親しまれ愛護されてきた貴重な歴史文化資源を、地域から推薦いただくことにより認定し、「地域の宝（地域遺産）」として顕彰する制度である。指定文化財と同様の種別を対象とするが、近代化遺産や伝承地なども取り上げて、幅広く認定するゆるやかな制度としている。認定を契機に、所有者と地域団体が協力して「わが町の宝」に注目した地域活性化が展開されることを期待している。また、幅広く認定した文化財のうちから、将来の新たな指定文化財候補が見出されることは十分にありうる。

令和元年度からは、改正文化財保護法を受けて、浜松市も文化財保存活用地域計画の策定に着手している。また先行して歴史的風致維持向上計画の策定も進行しており、地域遺産の認定は、両計画のための市内の未指定文化財の悉皆調査にも反映されている。

浜松地域遺産認定制度の経過 平成28年度の7月から10月まで募集した第1期には、年度末に91件を認定した。ついで29年度も同時期を募集期間とし、同年度末に101件を新たに認定した。

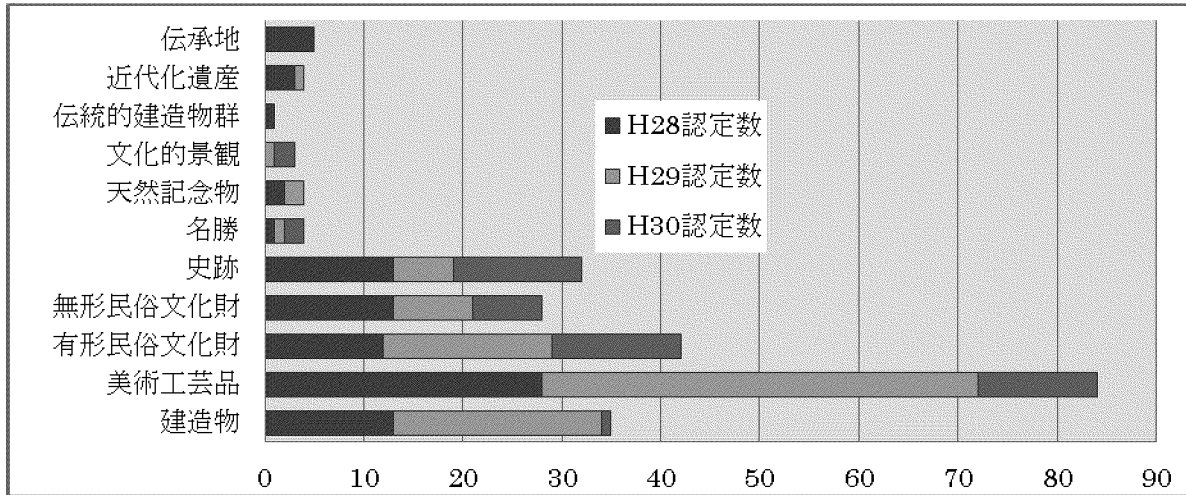
平成30年度も7月1日から10月31日を募集期間とし、自治会や郷土史研究会を中心に地域の団体からの推薦を受けて、50件を31年2月18日の教育委員会で報告し新たに認定した。これにより、3年間の総数は、242件となった。今年度以降も募集と認定を継続する予定である。



各区の認定文化財件数（3年間の累計）

(2) 認定した地域遺産の特徴と今後の課題

これまでの認定文化財の特徴 地域ごとに見れば、3年間で各区から二桁の認定を得ることができ、指定や国の登録ではない地域の埋もれた文化財を顕彰する制度として累積してきたと言える。指定・登録を合わせて430件余の文化財に対し、将来の指定候補またバッファゾーンとしての機能も期待していくとなると、さらに多くの認定が望まれる。市内にはそれだけの潜在的な地域遺産があると認識している。



種別ごとの認定文化財件数 (3年間の累計)

種別ごとに見れば、「伊豆石の蔵」をはじめとする近代の建造物、地域の寺院の仏像や石造文化財、地域ごとの祭り、城跡や境内など、有形文化財（建造物、美術工芸品）、無形民俗文化財、史跡が過半を占めている。これに対し、指定文化財では市内にまだ事例がない文化的景観（棚田など）や伝統的建造物群（東海道の町並み）が推薦され認定に至ったのは、当初の目論見に沿ったところである。認定文化財のみの種別である近代化遺産や伝承地も認定を得ることができた。しかしながら、保持者の死去によってしばらく指定件数が0となっている無形文化財は、認定文化財の種別にあっても推薦がまだない。

今後の課題 認定された地域遺産は、翌年度に浜松市地域遺産センター（北区引佐町）にて概要を紹介してきた。広報紙上で一部は掲載し、本誌でも報告している。ただ、242件という個々の特色を十分に紹介できるところに至っていない。指定文化財も含め、市内の文化財の全体をご紹介できる機会を早急に設けていかなければならない。

認定文化財は、指定文化財と異なり、直接補助金の対象としていない。市や各区の地域力向上事業やみんなの浜松創造プロジェクトなど、認定文化財を核とした地域の事業を推奨している。実際に認定された無形民俗文化財の保護団体がそれを契機に保護団体連絡会に加入したり、地域力向上事業の助成を得て、祭事の詞章集を刊行したりするなどの新たな動きが生じている。祭礼のパンフレットに「浜松地域遺産認定」という文字を記入していただいてもいる。

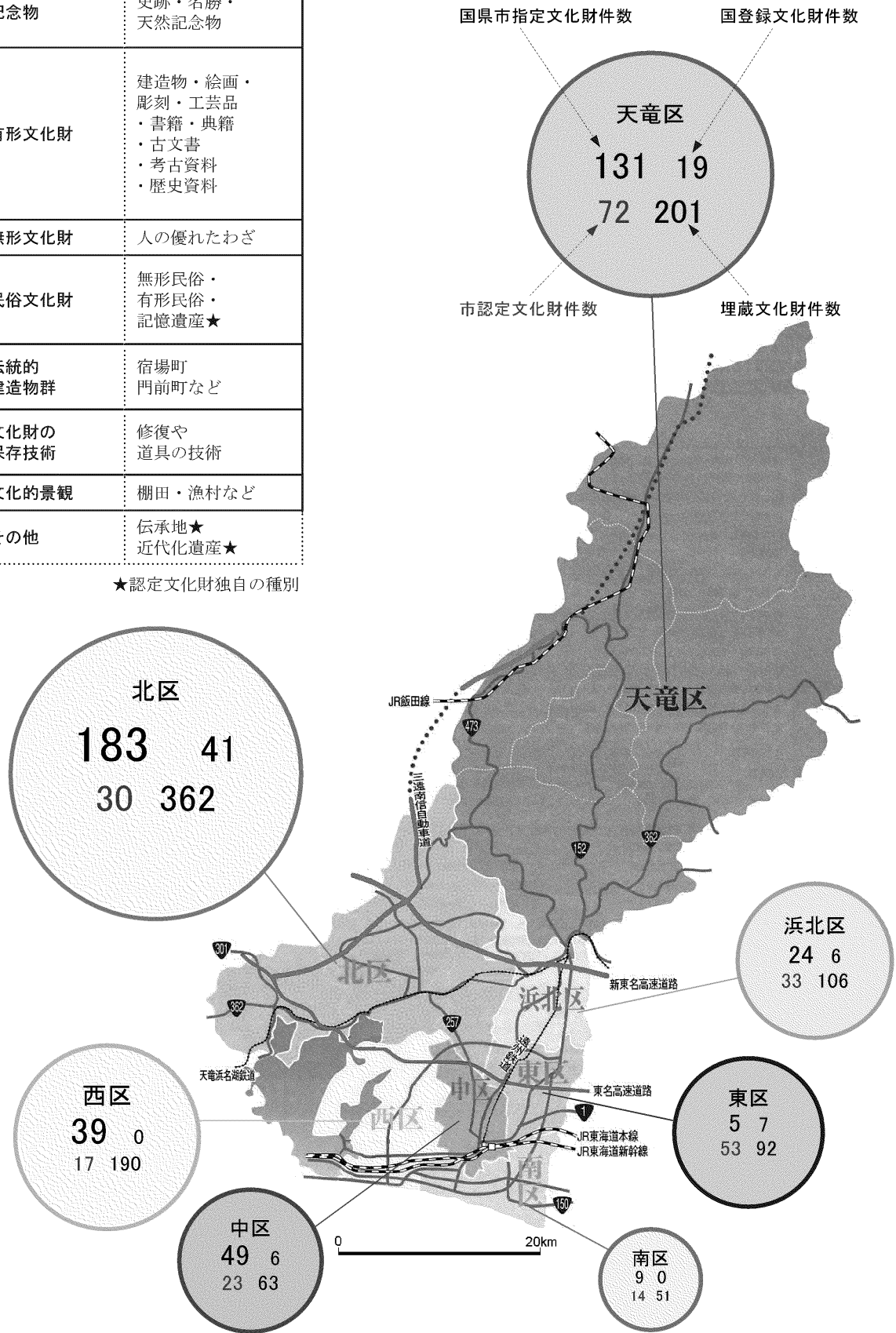
3年を経てどのような文化財が認定されるか事例が増えてきたとも言える。市内の各地域が事例を見て、さらに地域の歴史文化遺産を掘り起こし、今後も申請が継続されることを期待する。

申請の少ない種別については、文化財課や市文化財保護審議会からも積極的に照会し、しかるべき文化財の認定に向けて働きかけていく。

認定文化財の対象となる種別

記念物	史跡・名勝・ 天然記念物
有形文化財	建造物・絵画・ 彫刻・工芸品 ・書籍・典籍 ・古文書 ・考古資料 ・歴史資料
無形文化財	人の優れたわざ
民俗文化財	無形民俗・ 有形民俗・ 記憶遺産★
伝統的 建造物群	宿場町 門前町など
文化財の 保存技術	修復や 道具の技術
文化的景観	棚田・漁村など
その他	伝承地★ 近代化遺産★

★認定文化財独自の種別



浜松市内 各区别指定等文化財件数(令和元年7月19日現在)

平成 30 年度 「浜松地域遺産」 認定一覧

区	所在地等	名 称	種 別	説 明
中	1 富塚町	館山寺街道の道標	歴史資料	明治 37 年（1904）設置、高さ 1.38 m。
中	2 富塚町	宇布見街道の道標	歴史資料	上記 14 と同様、明治 37 年（1904）設置か。
中	3 富塚町	狐塚古墳	史跡	直径 20 m ほどの円墳。現地立入は不可。
中	4 利町	五社神社・諏訪神社の石垣	史跡	徳川家光の時代に建設された切石の石垣。
中	5 利町	五社・諏訪神社の手水鉢	歴史資料	寛永 15 年（1638）年、浜松城主高力忠房寄進。
中	6 利町	五社神社の光海霊神碑	歴史資料	賀茂真淵が師・森暉昌を記念して撰文した碑。
中	7 鍛冶町	黒田稲荷境内	史跡	享保年間の浄鏡院の尼僧が勧請したと伝わる。
中	8 栄町	金山神社境内	史跡	浜松城下の鍛冶職が勧請、元和年間に現位置。
中	9 中沢町	賀茂真淵夫妻の墓	史跡	教興寺にあった墓が移転。真淵は明和 6 年没。
中	10 元城町	旧元城尋常小学校校長像台座	歴史資料	戦時中の金属供出により台座だけが残る。
東	11 薬師町	金原明善翁顕彰碑	歴史資料	大正 7 年（1918）建立、金原明善の業績を示す。
東	12 笠井町	笠井町春日神社の神輿渡御	無形民俗	神社からお仮屋（天満宮）まで神輿が往復する。
東	13 笠井町	笠井町春日神社の神輿	有形民俗	渡御のご神体を載せる、明治 15 年（1882）建造。
西	14 雄踏町	息神社の金的中額	有形民俗	弓術で奉納、最古のものは寛延元年（1748）。
西	15 雄踏町	雄踏町西ヶ崎の館車	有形民俗	明治 25 年（1892）建造、知多の大工が製作。
西	16 雄踏町	雄踏町田端の館車	有形民俗	昭和 11 年（1936）建造、知多の大工が製作。
西	17 雄踏町	山崎の秋葉山常夜灯鞘堂	有形民俗	明和 5 年（1768）建造、中に常夜灯を納める。
南	18 堤町	堤町馬頭観音堂の手水鉢	歴史資料	宝暦 7 年（1757）、西国同行二十三人とある。
北	19 引佐町奥山	馬門の神楽	無形民俗	半僧坊と奥山神社で奉納、1700 年頃から伝わる。
北	20 引佐町奥山	奥山の手筒花火	無形民俗	富幕、西四村、中村に保存会がある手筒花火。
北	21 引佐町小斎藤	「小組」の屋台行事とお囃子	無形民俗	子どもたちが生き人形として神社まで曳き回す。
北	22 引佐町	久留女木の柵田	文化的景観	日本の柵田百選。井伊家が開墾したという。
浜北	23 寺島	寺島の道祖神	有形民俗	道標を兼ねて置かれた舟形の道祖神。
浜北	24 寺島	寺島山王の秋葉山常夜灯	有形民俗	明和 5 年（1768）建設、龍燈が鞘堂となっている。
浜北	25 寺島	西隠寺椿薬師像	彫刻	椿の傍らの堂に 2 体がある。拝観は要連絡。
浜北	26 根堅	岩水寺伽藍	建造物	創建が古代に遡る古刹、多くの建物が並ぶ。
浜北	27 根堅	地安坊（大権現）境内	史跡	「根の方詣り」の中心となり、信仰を集めた。
浜北	28 根堅	根堅祭りの神輿	有形民俗	神仏混交の祭りで使用される大小の神輿。
浜北	29 根堅	岩水寺白山神社境内	史跡	坂上田村麻呂伝承に関わる俊光將軍を祀る。
浜北	30 尾野	金刀比羅神社境内	史跡	安永 6 年（1777）の火災以降に現在地に移転。
浜北	31 尾野	金刀比羅神社格天井絵	絵画	嘉永年間の制作、62 面それぞれ寄進者がある。
浜北	32 尾野	金刀比羅神社巫女神楽	無形民俗	安政 3 年（1856）から継続している巫女神楽。
浜北	33 尾野	高根神社境内	史跡	背後に磐座がある社殿、文龜 2 年（1502）建立。
浜北	34 尾野	尾野の塹壕	史跡	昭和 19 年頃に本土決戦に備えた塹壕。
天竜	35 二俣町二俣	清瀧寺涅槃図	絵画	制作年不詳ながら奈良型の構図として希少。
天竜	36 二俣町二俣	清瀧寺信康廟	史跡	二俣城で自刃した信康をまつ。延宝 6 年建立。
天竜	37 熊	熊市場の時計台台座	歴史資料	大正後期の時計台の台座。
天竜	38 熊	熊の鏡石	史跡	円形の岩。向きを変えたという伝承がある。
天竜	39 熊	熊の黒滝	名勝	上下 2 段の滝、付近に不動尊をまつ。
天竜	40 神沢	神沢の庚申塔	有形民俗	文政 4 年（1821）、青面金剛を精緻に彫る。
天竜	41 神沢	荒沢不動の滝	名勝	枯山の裾にある男滝、女滝と称する 2 本の滝。
天竜	42 神沢	大日山守護神堂	有形民俗	延徳 3 年（1491）の棟札が残る。神と仏をまつ。
天竜	43 神沢	大日山浄水井戸	史跡	通称「水の口」にある井戸跡。大日詣での入口。
天竜	44 大栗安	大栗安の柵田	文化的景観	標高 450 m 前後の 2 か所に展開する柵田。
天竜	45 春野町田黒	高札（五榜の掲示第五札）	歴史資料	慶応 4 年明治政府の高札のうち。個人宅で保管。
天竜	46 春野町田河内	田河内の秋葉山常夜灯鞘堂	有形民俗	江戸時代の創建と伝わる。川根からの街道沿い。
天竜	47 春野町堀之内	龍勢社屋台幕	有形民俗	明治末期に京都から購入した「双竜」の屋台幕。
天竜	48 水窪町	水窪の祇園祭り	無形民俗	6 月 14・15 日の祇園に限り、花火を上げる。
天竜	49 水窪町奥領家	山王岩峰の仏像	有形民俗	明和元年（1764）、役行者の木造と石仏を納める。
天竜	50 水窪町奥領家	水窪の削り花	無形民俗	小正月（1 月 14・15 日）に木の枝を削って飾る。

第3章 浜松市地域遺産センター年報

1 施設の概要

(1) 施設の概要

地域遺産センターは、埋蔵文化財の調査や整理事業を行うほか、歴史・文化的な資料の保管、文化財全般の普及啓発、情報発信などを担う文化財保護の拠点施設である。市施設の再編によって空きが生じることとなった3階建ての建物の1・2階を改修して平成29年1月に開館しており、市文化財課の職員が常駐している。

また、施設の所在する北区引佐町井伊谷は、遺跡も多く、NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」の舞台となった歴史豊かな地域であり、周辺に残る三岳城跡（国史跡）、涓伊神社境内遺跡（県史跡）、井伊谷城跡（市史跡）など豊富な文化財をめぐる上でのサイトミュージアム的な役割も担っている。

(2) 施設の構造・設備

構造 本体：鉄筋コンクリート造 地上3階建

トラックヤード棟：鉄骨造 平屋建

面積 建築面積 1,239.91 m²、延床面積 3,115.71 m²

収蔵庫 24時間の温湿度管理を行い、資料を安定的に保管する。

トラックヤード・荷捌場 4tトラックが入庫可能である。

展示室 各種資料の展示を行う。開館時間中の温湿度管理を行うことができる。

ガイダンスコーナー 大型スクリーンを備えており、映像の放映、講座、小～中規模の展示等多目的な事業を行うことができる。

ロビー 休憩スペース、案内カウンター、ショップ、キッズコーナー、図書閲覧コーナー、VR体験コーナー等を備え、夏休み等には期間限定でクラフト等の体験スペースにも利用される。

エントランスホール 顔出しボードや紙製甲冑を常設したフォトコーナーのほか、飲料自動販売機、コインロッカー、アンケートコーナー等を備える。

事務室・作業室 職員が常駐して施設運営業務と埋蔵文化財保護業務を行うほか、埋蔵文化財の整理作業（遺物の復元、実測、写真撮影等）を行う。

駐車場 64台（隣接する引佐協働センターと共用）

エレベーター 1基

便所 1階に1箇所、2階に2箇所（うち1箇所は多目的トイレ）

授乳室 おむつ交換台、給湯可能な洗面台を備える。



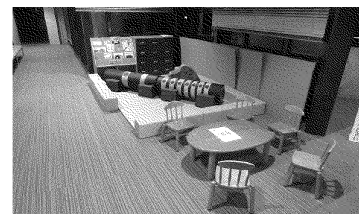
施設外観



展示室



ガイダンスコーナー



ロビーのキッズコーナー

2 管理運営業務

(1) 運営体制

浜松市地域遺産センターの運営は、文化財課職員が埋蔵文化財業務を行いながら直営で実施した。展示公開エリアの案内・販売・日常清掃等は（公社）浜松市シルバー人材センターへ委託し、設備保守管理等は民間業者へ委託した。また、館内外の案内はボランティアガイドにご協力いただいたほか、地元高等学校の協力を得て、高校生がSNSでの情報発信やイベント補助を行った。



館内の案内を行うスタッフとボランティアガイド

(2) 開館日時・観覧料等

開館時間 午前9時から午後5時（最終入館午後4時30分）

休館日 毎週月曜日（祝日の場合翌日）、年末年始、展示更新・設備点検に伴う臨時休館

観覧料 無料（ただし、体験事業等で材料を必要とする場合には参加料を徴収）

(3) 建物・設備の保全

当施設は竣工から35年以上が経過した建物を改修しているため、各所に老朽化が目立っている。4月には受水槽から高架水槽へ揚水するポンプに不具合が発生したため1台を更新したほか、消防設備等の修繕工事を実施した。また、建物の長寿命化を図る対策の一つとして、11月～3月には外壁および屋上床面の大規模修繕工事を実施した。その他、3月にはガイダンスコーナーの照明設備改良工事を実施し展示の環境を向上させた。

(4) 図書やグッズの販売

2階の受付カウンター付近に販売コーナーを設け、文化財課で制作した刊行物のほか、旧引佐町時代に発行された刊行物、浜松市博物館の図録など図書を販売した。また、浜松の伝統産業である綿織物製品や注染染めの手ぬぐい、歴史関連の文具や雑貨などもあわせて販売した。



販売コーナー

3 埋蔵文化財保護業務

2階の事務室・作業室にて埋蔵文化財の調整・調査・整理作業等の業務を行った。（詳細は第1部第1章6及び第2部を参照）



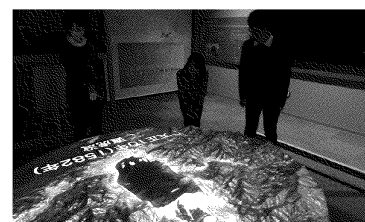
整理作業の様子

4 公開普及業務

(1) 展示

常設展「戦国の井伊谷」

展示室にて、戦国時代を中心とした中世の井伊氏や井伊谷にか



「戦国の井伊谷」会場

かわる展示を継続して行った。ジオラマへのプロジェクションマッピングと音声で解説する「井伊谷戦国絵巻」や、触れることのできる井伊氏ゆかりの石塔や笛のレプリカなどでは、体感しながら学習することができる。また、井伊谷へ史跡見学等に訪れる方のガイドンス機能も果たしている。

企画展「浜松の文化財 2017」（5月29日～7月13日）

平成29（2017）年度に浜松市内で行われた文化財保護の取り組みの成果や出来事を紹介するため、ガイドンスコーナーで開催した。新指定・登録文化財、文化財の修理事業や普及啓発事業、市認定文化財「浜松地域遺産」に認定された文化財の紹介のほか、同時開催「浜松市発掘調査速報展」では、芝本・東原遺跡（浜北区於呂・新原）、梶子遺跡（中区南伊場町）、浜松城跡（中区元城町）などの出土遺物を展示した。期間中観覧者1,216人。6月2日にはギャラリートークを開催して40人の参加を得た。

企画展「グレーな埴輪たち」（9月8日～11月4日）

郷ヶ平6号墳出土の埴輪を中心に、市内及び周辺地域（静岡県・愛知県）から出土している須恵質埴輪を借用した展覧会をガイドンスコーナーにて開催した（期間中観覧者2,278人）。また、関連事業として以下の事業を行った。

関連事業1：オープニングセレモニー・ギャラリートーク

開催日9月8日（土） 参加者数148人

ギャラリートーク講師：北嶋未貴氏（袋井市教育委員会）

- ・資料借用自治体の歴史系マスコットキャラクターが出演するオープニングセレモニーや、ギャラリートークを開催。

関連事業2：シンポジウム「グレーな埴輪とその仲間たち」

開催日9月29日（土） 参加者数106人

講師：穂積裕昌氏（三重県埋蔵文化財センター）

「東海の埴輪と埴輪を見る視点」

講師：日高 慎氏（東京学芸大学）「形象埴輪の意味を探るー埴輪は誰のために置いたのかー」

- ・埴輪研究者による講演と、市担当者による郷ヶ平6号墳の発掘調査成果報告を行い、「埴輪とは何かを考える」と題した座談会を開催。

関連事業3：ワークショップ

「埴輪形クッキー（ハニッキー）を作ろう」

開催日10月6日（土） 参加者数18人

- ・円筒埴輪形のクッキーを作りながら埴輪の製作技法を学習する体験型ワークショップを開催。

関連事業4：参加型インスタレーション「はにわのことは」

開催日9月8日（土）～11月4日（日） 参加者数54人

- ・埴輪に関する用語や名称を参加者が毛筆にしたため、それを館内に吊り下げて展示した。



「浜松の文化財 2017」チラシ



「グレーな埴輪たち」チラシ



オープニングセレモニー



シンポジウム



「ハニッキーを作ろう」



出来上がった「ハニッキー」



インスタレーション

企画展「ひよんどりとおくない～中世から受け継がれる民俗芸能～」(12月1日～1月25日) 国指定重要無形民俗文化財「遠江のひよんどりとおくない」を構成する「川名のひよんどり」「寺野のひよんどり」「懐山のおくない」を中心とした正月のおこない行事を、面や道具、古文書などの展示品や写真・映像などを用いて紹介した。また、平成28年度に制作した川名のひよんどりと寺野のひよんどりの面のレプリカを触ることができるように展示した。

会場はガイダンスコーナーで、期間中の入館者は1,437人であった。関連事業は、次のものを実施した。

関連事業1：ギャラリートーク 12月1日(土) 参加者10人

関連事業2：現地見学会「川名～ひよんどりの里を訪ねる～」

開催日 12月16日(日) 参加者36人

保存会の案内により、川名のひよんどりを行う薬師堂や、シン打ちを行う六所神社などを見学。

関連事業3：現地見学会「寺野～ひよんどりの里を訪ねる～」

開催日 1月20日(日) 参加者60人

面打ち師である保存会の方の案内により、面打ちの作業所などを見学。屋外見学は雨天中止。

その他の展示

小規模なコーナー展・スポット展を開催したほか、外部への出張展示も行った(一部再掲)。

会期	名称	概要	観覧者数
4月13日～5月6日	コーナー展「浜松城跡発掘調査速報展」	天守曲輪の調査成果を速報展示	1,384人
6月1日～6月28日	出張展示「新都田地区の原始・古代」	都田図書館で開催	未計測
11月1日～18日	巫女形埴輪スポット展示	郷ヶ平6号墳出土埴輪修復元の成果	895人
11月12日～21日	出張展示「東区の文化財」	東区役所で開催	未計測
12月1日～1月25日	コーナー展「ヒトかと思ったらワニだった」	ヤゲワニ研究会による化石の展示	1,437人
12月4日～1月14日	猪形埴輪スポット展示	千支にちなんだ郷ヶ平6号墳出土品	1,028人
2月1日～3月10日	コーナー展「こどもたちの郷土学習」	小中学生による郷土学習成果の展示	656人
3月31日	出張展示「旧大通院境内遺跡」	大通院落慶記念の展示	未計測



「ひよんどりとおくない」チラシ



現地見学会(川名)

(2) 講座

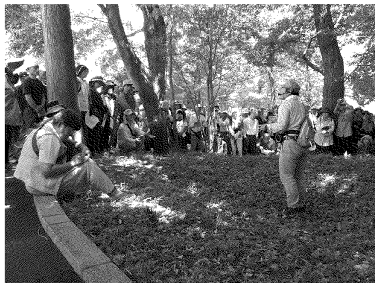
地域遺産センターは講座室を有していないため、隣接する引佐協働センター等を利用して開催したほか、依頼に応じて外部へ講師を派遣した。詳細は第1章6を参照いただきたい。

(3) 現地見学会

市内の文化財等の地域遺産を訪ねて歩く見学会「へりさんぽ ～Heritage Walk～」を9回開催した。

地域の片隅に残されている地域遺産をわかりやすく紹介する目的で実施し、幅広い年代層にさまざまなジャンルの地域遺産を見学していただくことを意識した。地元の方に案内人をお願いしたほか、事前準備や調整でも地域の協力を得ながら実施した。詳細は以下の通り（一部再掲）。

日程	回数・タイトル	内容・参加者数
4月28日	12 天白磐座遺跡とその周辺	地域遺産センターから県史跡涇伊神社境内遺跡（天白磐座遺跡）までを歩きながら周辺の遺跡や社寺、地形などを案内。65人。
5月19日	13 半田山古墳群をめぐる	浜松医科大学構内に保存されている半田山古墳群を大学の協力のもとで散策。215人。
6月3日	14 浜松城最新の調査と整備	浜松城天守曲輪や本丸周辺の発掘調査成果を現地で紹介しながら、整備が完了した本丸南側石垣を見学。356人。
6月16日	15 北岡大塚古墳とその周辺	市内唯一の前方後方墳である市史跡北岡大塚古墳や、北岡2号墳、ワニ化石出土地などを散策。83人。
10月13日	16 奥山線の廃線跡をめぐる （ちゃりさんぽ）	引佐町井伊谷～奥山に残る軽便鉄道奥山線の廃線跡を自転車で辿りながら、中世石塔群など周辺の歴史遺産を見学。40人。
11月11日	17 二俣城跡・鳥羽山城跡を歩く	国指定記念シンポジウムに合わせて開催。189人。
12月16日	18 川名～ひよんどの里を訪ねる～	企画展に合わせて開催。36人。
1月20日	19 寺野～ひよんどの里を訪ねる～	企画展に合わせて開催。60人。
2月17日	20 亀塚古墳とその周辺	市指定記念に開催。他に曾許乃御立神社を見学。130人。



13 半田山古墳群をめぐる



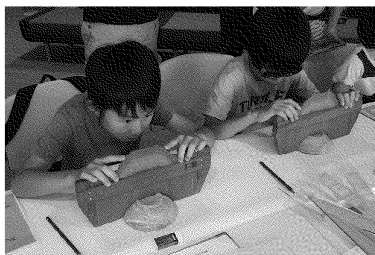
16 奥山線の廃線跡をめぐる



17 二俣城跡・鳥羽山城跡を歩く

（4）体験事業・その他イベント

ゴールデンウィークや夏休み、隣接する引佐協働センターで行われる「いなさ人形劇まつり」当日などに、こども向けのクラフト体験やクイズラリー、発掘や整理作業の模擬体験、バックヤードツアーなどを開催した。また、若年層や女性をターゲットとして、スイーツの調理を通じて考古資料の製作技法を学ぶ体験事業を開催した。実施状況は第1章6や本項（1）を参照いただきたい。



キッズ&ジュニア考古学体験



夏休みイベント「涼み処井伊ノ屋」



銅鏡チョコをつくろう

（5）情報発信

チラシ・広報誌等の紙媒体 展示やイベント等を周知するためにポスター・チラシを作成し、市内外の公共施設や学校、観光施設等に掲出を依頼したほか、「広報はままつ」を有効に活用した。

インターネット 市ホームページ、フェイスブック、ツイッターを活用したほか、外部のウェブサイトにも施設やイベント等の情報の掲載を依頼した。

マスメディア等 事業の開催情報を提供することで、TV、ラジオ、新聞等に取り上げられた。

5 利用状況

(1) 入館者数と傾向

平成30年度の入館者数は前年度から大幅減となった。地域遺産センターの所在する井伊谷を舞台とした大河ドラマの放送終了に伴うもので、やむを得ない面もある。

アンケートボードにより測定した入館者の年代別比率は、前年度とほとんど変わらず、40～50代が全体の4割弱を占めた。地域別比率も昨年度同様で、中部圏が全体の66%を占めたが、市内の来館者は前年度20%から34%にやや増加した。

平成30年度入館者数の推移

単位(人)

	平成30年度		前年度		前年比	
	入館者	1日平均	入館者	1日平均	入館者	%(1日平均)
4月	1,203	48	8,201	273	-6,998	18%
5月	1,236	46	10,860	350	-9,624	13%
6月	987	35	8,388	280	-7,401	13%
7月	459	23	6,249	202	-5,790	11%
8月	1,160	41	10,035	324	-8,875	13%
9月	1,216	53	7,777	259	-6,561	20%
10月	973	37	6,705	216	-5,732	17%
11月	1,337	61	8,822	294	-7,485	21%
12月	839	35	4,506	161	-3,667	22%
1月	598	32	3,959	264	-3,361	12%
2月	353	15	1,589	66	-1,236	23%
3月	898	33	1,880	70	-982	48%
計	11,259	38	78,971	230	-67,712	17%
累計	111,690		100,431			

(2) 団体利用・資料熟覧等

学校をはじめ団体等の利用や視察の依頼があり、説明等の対応を行った。

月日	団体名・人数・目的等	月日	団体名・人数・目的等
5月16日	静岡DC関連視察35人	10月7日	積石塚渡来人研究会見学27人
5月21日	金指小学校見学30人	10月11日	北区女性団体「きたっこ」見学30人
6月4日	井伊谷小学校見学54人	10月16日	伊佐見小学校50人・北浜中学校6人見学
7月31日	千葉県教職員研修42人	10月19日	井伊谷小学校13人見学
8月8日	山県市議会視察12人	12月18日	井伊谷小学校52人見学
8月24日	全国史跡整備市町村協議会視察28人	1月16日	井伊谷小学校26人見学
9月7日	京都府立大学見学13人	1月24日	井伊谷小学校30人見学

6 今後の課題

少子高齢化・過疎化・コミュニティの希薄化等が進行する現代社会において、行政機関や文化財所有者(個人・団体・地域)のみでは、文化財の保存・活用は困難になりつつある。そうした状況の中で、地域遺産センターには、調査研究・保護業務をベースとしながらも、そこで得られた成果をさまざまな公開普及事業によって広く周知していくことで、市民の中から文化財保護の理解者や担い手を増やしていくような継続的取り組みが求められる。

今後は、幅広い層に訴求する魅力的な活用事業や情報発信、積極的な地域との連携事業を進めていくことで、市民と共に文化財の保存・活用を行う開かれた施設としての認知度の向上を目指していく必要がある。

【第 2 部 埋藏文化財調査報告】

第1章 埋蔵文化財調査の概要

浜松市では、平成30年度に本発掘調査をはじめとした、埋蔵文化財発掘調査に係る事業を実施した。各事業における実施件数は、以下のとおりである。

(1) 埋蔵文化財本発掘調査事業

開発に伴う事前の発掘調査 5件（内訳は次のとおり）

- ・民間委託による本発掘調査 1件 梶子遺跡 23次（中区南伊場町）
- ・市の直営による本発掘調査 4件 日晩遺跡 12次（南区増楽町）ほか

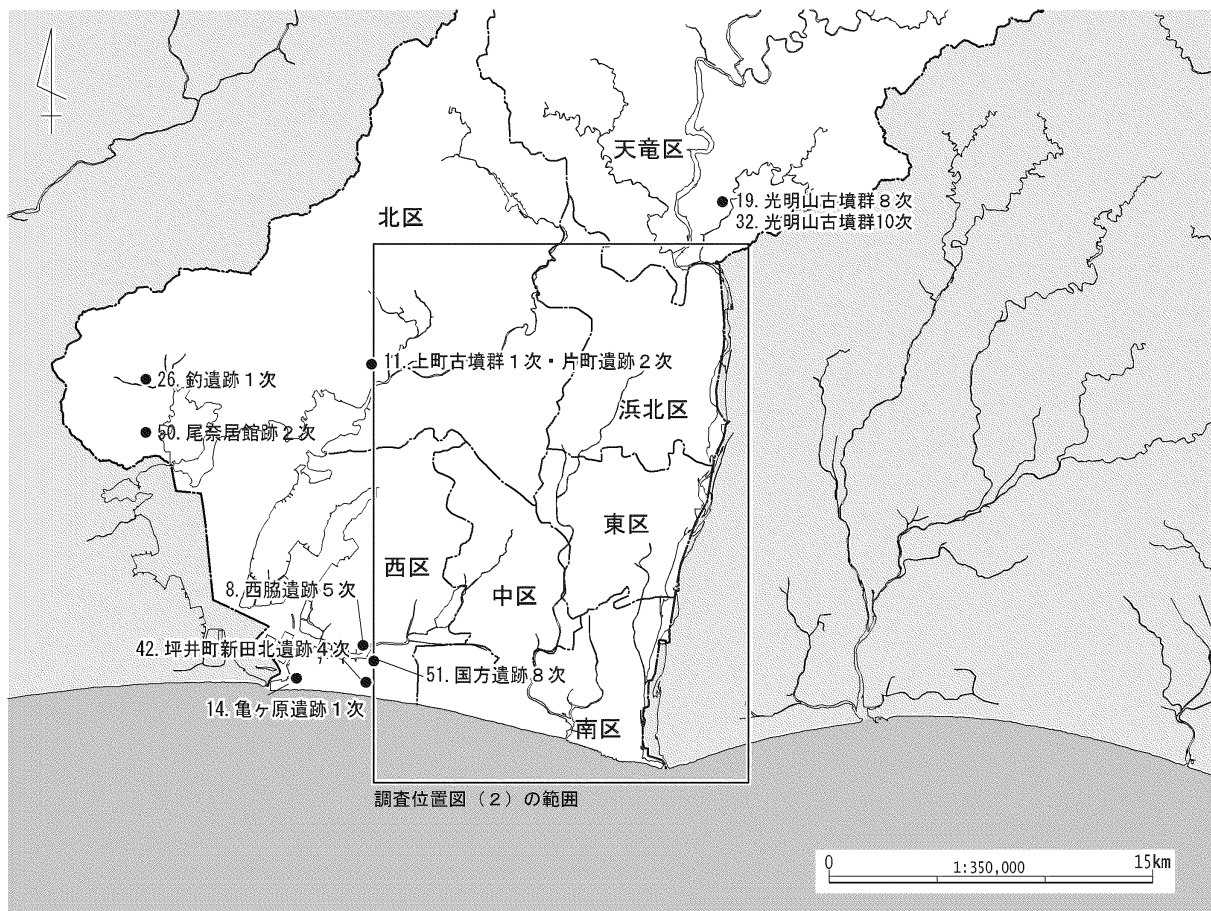
(2) 埋蔵文化財試掘・確認調査、工事立会等発掘調査事業

①試掘確認調査 53件（内訳は次のとおり）

- ・開発に伴う試掘確認調査 51件 恒武西宮遺跡 23次（東区恒武町）ほか
- ・保存目的の確認調査 2件 浜松城跡 24次（中区元城町）ほか

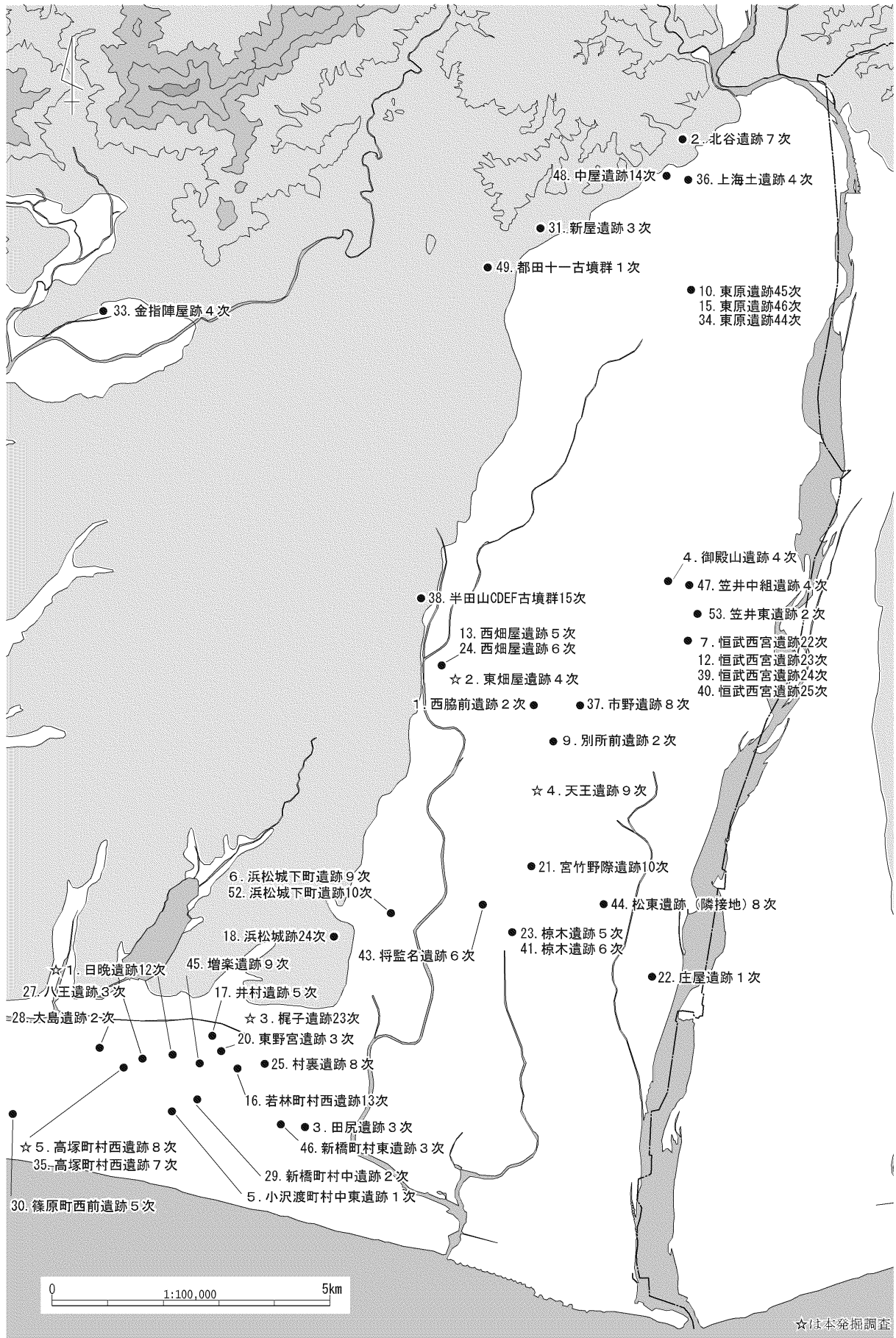
②開発に伴う工事立会 63件 浜松城跡 25次（中区元城町）ほか

③踏査 4件 大島遺跡（南区高塚町）ほか



調査位置図（2）の範囲

調査位置図（1）



調査位置図 (2)

平成 30 年度本発掘調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査月日	調査原因	区分	調査面積 (約㎡)	掲載頁
1	日晩遺跡 12 次	南区増楽町	2018 年 7 月 10 日	店舗建設	現地作業	10	46・109
2	東畑屋遺跡 4 次	東区有玉南町	2018 年 10 月 22 日～29 日	宅地造成	現地作業	65	46
3	梶子遺跡 23 次	中区西伊場町	2018 年 12 月～2019 年 3 月	宅地造成	現地作業	720	47
4	天王遺跡 9 次	東区天王町	2019 年 1 月 25 日～29 日	鉄塔建替	現地作業	29	48・111
5	高塚町村西遺跡 8 次	南区高塚町	2019 年 3 月 11 日～12 日	集合住宅建設	現地作業	104	48

平成 30 年度試掘・確認調査一覧

No.	遺跡名	所在地	調査月日	調査原因	調査面積 (約㎡)	掲載頁
1	西脇前遺跡 2 次	東区市野町	2018 年 4 月 6 日	ガス管敷設	2	49
2	北谷遺跡 7 次	浜北区根堅	2018 年 4 月 23 日	個人住宅建設	8	50
3	田尻遺跡 3 次	南区法枝町	2018 年 5 月 14 日	個人住宅建設	8	50
4	御殿山遺跡 4 次	東区笠井町	2018 年 5 月 21 日	集合住宅建設	10	51
5	小沢渡町村中東遺跡 1 次	南区小沢渡町	2018 年 5 月 24 日	個人住宅建設	10	51
6	浜松城下町遺跡 9 次	中区野口町	2018 年 5 月 24 日	下水道管理設	2	52
7	恒武西宮遺跡 22 次	東区貴平町	2018 年 5 月 28 日	個人住宅建設	8	52
8	西脇遺跡 5 次	西区志都呂町	2018 年 5 月 29 日	宅地分譲	16	53
9	別所前遺跡 2 次	東区市野町	2018 年 6 月 4 日	店舗建設	24	53
10	東原遺跡 45 次	浜北区新原	2018 年 6 月 12 日	個人住宅建設	8	54
11	上町古墳群 1 次・片町遺跡 2 次	北区細江町気賀	2018 年 6 月 12 日	排水路改良	4	54
12	恒武西宮遺跡 23 次	東区貴平町	2018 年 6 月 21 日	老人ホーム建設	44	55
13	西畑屋遺跡 5 次	東区有玉南町	2018 年 6 月 27 日	個人住宅建設	8	57
14	亀ヶ原遺跡 1 次	西区舞阪町舞阪	2018 年 6 月 28 日	宅地分譲	40	57
15	東原遺跡 46 次	浜北区新原	2018 年 7 月 26 日	個人住宅建設	9	59
16	若林町村西遺跡 13 次	南区若林町	2018 年 7 月 30 日	個人住宅建設	16	59
17	井村遺跡 5 次	南区若林町	2018 年 8 月 1 日	宅地分譲	14	60
18	浜松城跡 24 次	中区元城町	2018 年 8 月 1 日～12 月 21 日	公園整備	50	60
19	光明山古墳群 8 次	天竜区山東	2018 年 8 月 6 日、7 日	太陽光発電所設置	266	61
20	東野宮遺跡 3 次	南区若林町	2018 年 8 月 8 日	個人住宅建設	9	61
21	宮竹野際遺跡 10 次	東区宮竹町	2018 年 8 月 20 日	道路改良	13	62
22	庄屋遺跡 1 次	南区新貝町	2018 年 8 月 22 日	宅地分譲	12	62
23	椋木遺跡 5 次	東区子安町	2018 年 9 月 11 日	ガス管敷設	2	63
24	西畑屋遺跡 6 次	東区有玉南町	2018 年 9 月 19 日	個人住宅建設	16	64
25	村裏遺跡 8 次	南区東若林町	2018 年 9 月 27 日	個人住宅建設	8	65
26	釣遺跡 1 次	北区三ヶ日町釣	2018 年 9 月 28 日	浄化槽設置	2	66
27	八王遺跡 3 次	南区高塚町	2018 年 10 月 5 日	下水道管理設	3	66
28	大島遺跡 2 次	南区高塚町	2018 年 10 月 17 日	事務所建設	24	67
29	新橋町村中遺跡 2 次	南区新橋町	2018 年 10 月 22 日	個人住宅建設	9	67
30	篠原町西前遺跡 5 次	西区篠原町	2018 年 10 月 25 日	下水道管理設	5	68
31	新屋遺跡 3 次	浜北区宮口	2018 年 10 月 30 日	水路改良	24	68
32	光明山古墳群 10 次	天竜区山東	2018 年 11 月 1 日～11 月 30 日	保存目的	284	69
33	金指陣屋跡 4 次	北区引佐町金指	2018 年 11 月 2 日	宅地造成	53	69
34	東原遺跡 44 次	浜北区新原	2018 年 11 月 5 日	浄化槽設置	1	70
35	高塚町村西遺跡 7 次	南区高塚町	2018 年 11 月 5 日	集合住宅建設	12	71
36	上海土遺跡 4 次	浜北区於呂	2018 年 11 月 15 日	個人住宅建設	27	72
37	市野遺跡 8 次	東区市野町	2018 年 11 月 19 日	駐車場造成	40	72
38	半田山 CDEF 古墳群 15 次	東区半田山一丁目	2018 年 11 月 21 日	校舎増築	13	73
39	恒武西宮遺跡 24 次	東区恒武町	2018 年 11 月 26 日	宅地分譲	25	75
40	恒武西宮遺跡 25 次	東区貴平町	2018 年 11 月 28 日	個人住宅建設	14	77
41	椋木遺跡 6 次	東区子安町	2018 年 12 月 3 日	個人住宅建設	4	78
42	坪井町新北遺跡 4 次	西区坪井町	2018 年 12 月 3 日	個人住宅建設	12	78
43	将監名遺跡 6 次	東区神立町	2018 年 12 月 5 日、7 日、10 日、11 日	水路改良	17	79
44	松東遺跡（隣接地） 8 次	東区天竜川町	2018 年 12 月 25 日	駅前広場整備	15	81
45	増楽遺跡 9 次	南区増楽町	2018 年 12 月 25 日、26 日 2019 年 1 月 12 日、13 日	校舎建替	63	81
46	新橋町村東遺跡 3 次	南区新橋町	2018 年 12 月 26 日	個人住宅建設	9	83
47	笠井中組遺跡 4 次	東区笠井町	2019 年 2 月 18 日	汚染土除去	11	83
48	中屋遺跡 14 次	浜北区根堅	2019 年 2 月 26 日～28 日	宅地分譲	74	84・113
49	都田山十一古墳群 1 次	北区都田町	2019 年 3 月 8 日、20 日	道路改良	35	84
50	尾奈居館跡 2 次	北区三ヶ日町下尾奈	2019 年 3 月 13 日	個人住宅建設	13	85
51	国方遺跡 8 次	西区篠原町	2019 年 3 月 18 日	宅地造成	36	85
52	浜松城下町遺跡 10 次	中区野口町	2019 年 3 月 18 日、19 日	道路改良	36	86
53	笠井東遺跡 2 次	東区恒武町	2019 年 3 月 26 日	集合住宅建設	34	87

平成 30 年度工事立会一覧

No.	遺跡名	所在地	調査月日	検出遺構 / 出土遺物	掲載頁
1	恒武西宮遺跡	東区貴平町	2018年4月5日	須恵器、土師器	88
2	大屋敷遺跡	浜北区宮口	2018年4月9日	なし	88
3	将監名遺跡	東区神立町	2018年4月23日	なし	88
4	梶子遺跡	中区南伊場町	2018年5月11日	弥生土器、土師器(梶子19・20次成果と一緒に報告)	89
5	老ヶ谷遺跡	北区細江町気賀	2018年5月18日、6月14日	須恵器、灰釉陶器	89
6	石岡遺跡	北区細江町三和	2018年5月29日	なし	89
7	大橋前遺跡	南区芳川町	2018年6月1日	なし	90
8	恒武西宮遺跡	東区貴平町	2018年6月4日	須恵器、土師器、中世陶器	90
9	中村遺跡	北区引佐町奥山	2018年6月5日	なし	90
10	八ツ面遺跡	東区豊町	2018年6月6日	なし	90
11	上界土遺跡	天竜区青谷	2018年6月28日	なし	91
12	梶子遺跡	中区東伊場二丁目	2018年7月3日	なし	91
13	祝山遺跡	北区細江町中川	2018年7月4日	溝か / 土師器、灰釉陶器、山茶碗	91
14	恒武西宮遺跡	東区貴平町	2018年7月5日	土師器、古式土師器	91
15	八王遺跡	南区高塚町	2018年7月5日	なし	92
16	東原遺跡	浜北区新原	2018年7月9日	なし	92
17	熱口平遺跡	北区都田町	2018年7月12日	なし	92
18	浜松城跡(25次)	中区元城町	2018年7月18日	近代窯道具	92
19	恒武西宮遺跡	東区恒武町	2018年7月19日	なし	94
20	国方遺跡	西区篠原町	2018年7月25日	土師器細片	94
21	日比沢城跡	北区三ヶ日町日比沢	2018年7月27日	なし	94
22	隋国遺跡	東区笠井上町	2018年7月31日	土師器小片	94
23	芝本遺跡	浜北区於呂	2018年8月3日	なし	95
24	番剛寺遺跡	北区三ヶ日町三ヶ日	2018年8月8日	なし	95
25	浜松城跡	中区松城町	2018年9月5日、11月20日	なし	95
26	村裏遺跡	南区東若林町	2018年9月7日	なし	95
27	芝本遺跡	浜北区於呂	2018年9月7日	なし	96
28	海東遺跡	南区参野町	2018年9月14日	なし	96
29	中屋遺跡	浜北区根堅	2018年9月14日	なし	96
30	大島遺跡	南区高塚町	2018年9月18日	中世土師質土器細片	96
31	浜松城跡	中区元城町	2018年9月18日～2019年1月11日	なし	97
32	鳥居松遺跡(11次)	中区神田町	2018年10月9日	伊場大溝 / 土師器、須恵器、木製品、骨角器	97
33	芝本遺跡	浜北区於呂	2018年10月11日	なし	98
34	井伊谷遺跡	北区引佐町井伊谷	2018年10月18日	なし	98
35	山の神遺跡	東区和田町	2018年10月19日	弥生土器	98
36	釜下古窯跡2次 南屋敷遺跡1次(隣接地)	北区細江町三和	2018年10月19日～20日 2019年1月10日、30日、2月4日	土師器、初山焼	98
37	大屋敷古窯群(6次)	浜北区宮口	2018年10月22日～25日	灰釉陶器、旧石器か	100
38	篠原町仲村遺跡	西区篠原町	2018年10月25日	なし	100
39	中村遺跡	中区東伊場一丁目	2018年11月5日	なし	101
40	山寺野遺跡	南区飯田町	2018年11月12日	なし	101
41	宮前遺跡	東区豊町	2018年11月21日	土師器、須恵器、灰釉陶器	101
42	向野古墳群	浜北区根堅	2018年11月27日	なし	102
43	浜地遺跡	西区入野町	2018年11月27日	なし	102
44	井伊谷遺跡	北区引佐町井伊谷	2018年12月4日	なし	102
45	村裏遺跡	南区東若林町	2018年12月19日	なし	102
46	浜松城跡	中区元城町	2018年12月19日、2019年1月15日	なし	103
47	篠原町西前遺跡	西区篠原町	2018年12月21日	なし	103
48	万斛西遺跡	東区中郡町	2018年12月25日	なし	103
49	浜松城跡・浜松城下町遺跡	中区元城町、塩町	2018年12月25日～26日	なし	103
50	梶子遺跡	中区南伊場町	2019年1月8日	弥生土器(梶子19・20次成果と一緒に報告)	104
51	恒武西宮遺跡	東区恒武町	2019年1月10日	なし	104
52	浜松城跡	中区元城町	2019年1月16日	なし	104
53	万斛西遺跡	東区中郡町	2019年1月16日、1月23日、2月5日	小穴、溝 / かわらけ、挿鉢	104
54	若林町村西遺跡	南区若林町	2019年1月28日	土師器小片	105
55	棕木遺跡	東区子安町	2019年1月31日	土師器小片	105
56	村裏遺跡	南区東若林町	2019年1月31日	なし	105
57	天王中野遺跡	東区原島町	2019年2月1日	なし	106
58	榎池遺跡	浜北区宮口	2019年2月4日	なし	106
59	市野遺跡	東区市野町	2019年2月12日	なし	106
60	中屋遺跡	浜北区根堅	2019年2月21日	なし	106
61	笠井上組遺跡・中組遺跡	東区笠井町	2019年3月5日	なし	107
62	天上中野遺跡	東区天上町	2019年3月11日	なし	107
63	笠井上組遺跡	東区笠井町	2019年3月12日	なし	107

平成 30 年度踏査一覧

	遺跡名	所在地	調査月日	採集遺物など	掲載頁
1	大島遺跡	南区高塚町	2018年5月24日	須恵器、土師器、かわらけ	108
2	渋川地内(周知外)	北区引佐町渋川	2018年9月11日	石鏃	108
3	恩塚山古墳群	北区細江町中川・都田町	2018年9月11日	なし	108
5	館山寺町(周知外)	西区館山寺町	2019年2月17日・18日	なし	108

第2章 本発掘調査概要

1 梶子遺跡 19・20 次 (かじこいせき)

所在地 中区南伊場町

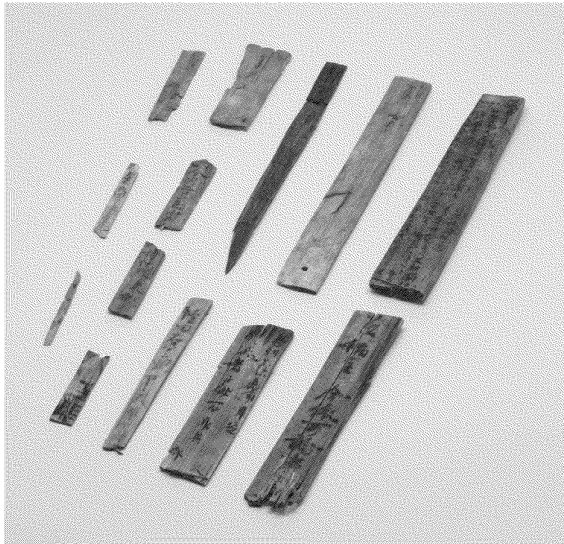
調査期間 2017年7月～2019年3月

調査原因 工場建替

作業内容 資料整理・報告書刊行作業

調査概要 平成28・29年度に現地調査を行った19・20次調査区の遺構・遺物について整理作業を実施した。古代の自然流路「伊場大溝」から出土した木簡や墨書土器など敷智郡家に関わる文字資料の豊富さが特筆される。

※詳細は『梶子遺跡 19・20 次』(2019年3月刊行)に掲載



主な出土木簡



主な出土遺物 (墨書土器)



伊場大溝Ⅷ層完掘状況

2 恒武西宮遺跡 21 次

(つねたけにしみやいせき)

所在地 東区恒武町

調査期間 2018年5月31日～10月31日

調査原因 民間企業社屋建設

作業内容 資料整理・報告書刊行作業

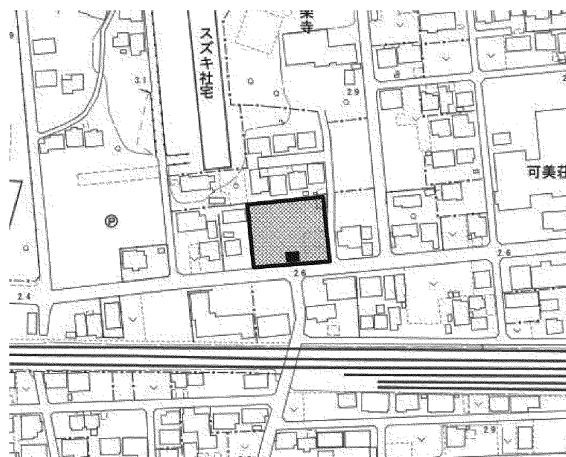
調査概要 平成29年度に現地調査を行った21次調査区の遺構・遺物について整理作業を実施した。須恵器・土師器・石製模造品・耳環などが出土しており、古墳時代を通じて居住域が展開していたことがうかがえる。※詳細は『恒武西宮遺跡 6』(2018年10月刊行)に掲載。



主な出土遺物

3 日晩遺跡 12 次 (ひばんいせき)

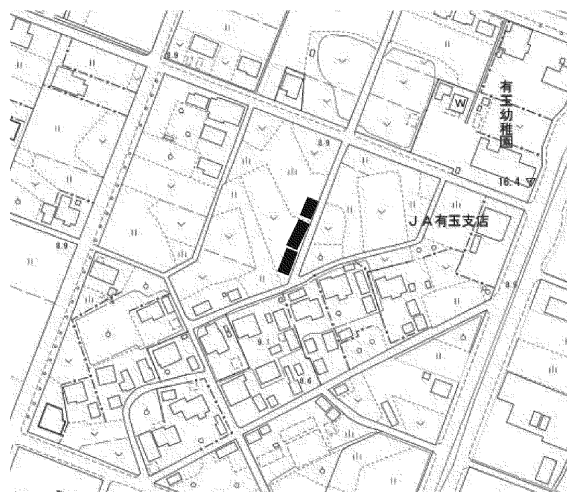
所在地 南区増楽町
調査期間 2018 年 7 月 10 日
調査原因 店舗看板建設
調査面積 9.9 m²
調査概要 遺構は、土坑 3 基と溝 2 条が検出された。遺物は、奈良時代の須恵器・土師器の破片が出土しており、調査区とその周辺に奈良時代の居住域が展開していたと考えられる。
※詳細は第 4 章 1 (109 頁) に掲載。



位置図 (2,500 分の 1)

4 東畑屋遺跡 4 次 (ひがしはたやいせき)

所在地 東区有玉南町
調査期間 2018 年 10 月 22 日～29 日
調査原因 宅地造成に伴う道路拡幅
調査面積 64.5 m²
調査概要 鎌倉時代を中心とした土坑 21 基、溝 1 条、小穴 28 基を検出した。出土遺物は、山茶碗・かわらけ・貿易陶磁器・灰釉陶器等である。当地域において出土例の少ない 13 世紀代のかわらけが一括で出土しており、そのすべてがロクロ成形によるものである点が特筆される。
※詳細は『東畑屋遺跡 2 - 4 次調査の成果-』(2019 年 3 月刊行) に掲載。



位置図 (2,500 分の 1)



調査区全景 (北から)



主な出土遺物

5 梶子遺跡 23 次 (かじこいせき)

所在地 中区西伊場町

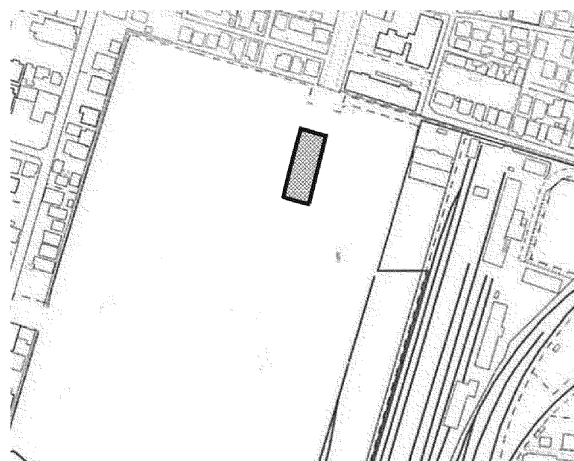
調査期間 2018 年 11 月～2019 年 3 月

調査原因 宅地造成に伴う道路建設工事

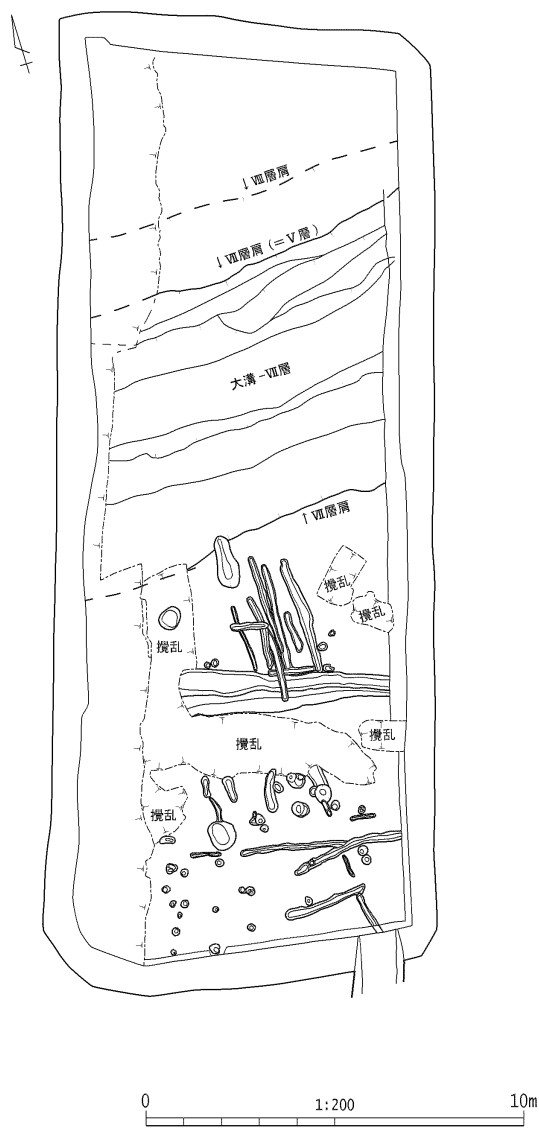
調査面積 720 m²

調査概要 古代の自然流路「伊場大溝」を検出し、これまでわかってきた最上流部よりさらに北西 300 m 以上延びることが明らかになった。伊場大溝からは木簡や墨書土器など古代敷智郡家関連の資料が出土したほか、さらに下層からは弥生時代の土器や木製品が大量に出土した。

※詳細は『梶子遺跡 23 次』(2020 年 3 月刊行予定) に掲載。



位置図 (5,000 分の 1)



調査区全体図



墨書土器『主政川前』



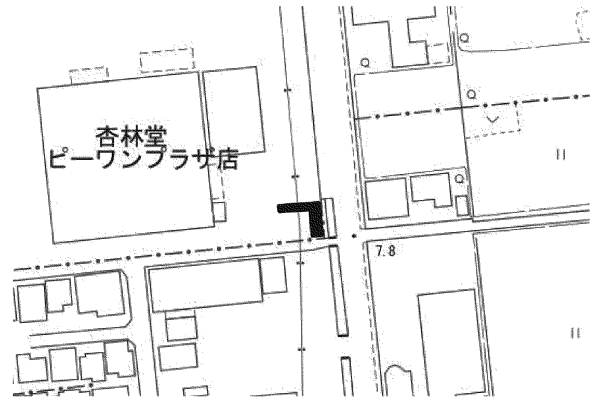
木簡『筆墨納櫃』

6 天王遺跡9次 (てんのういせき)

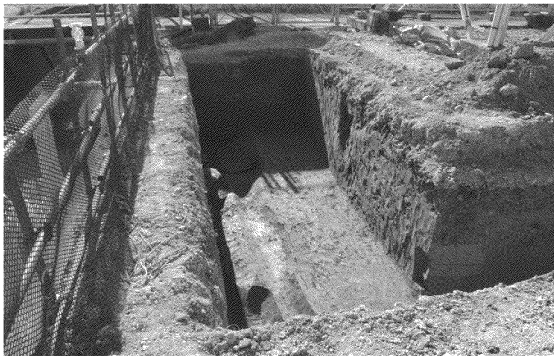
所在地 東区天王町字諏訪 1982 番 3
調査期間 2019年1月25日～1月29日
調査原因 鉄塔建替
調査面積 29 m²

調査概要 4条の溝と5基の小穴を確認した。遺構の帰属時期は、出土遺物から弥生時代後期と推定される。天王遺跡ではこれまでに具体的な遺構の検出事例に乏しかったことから、僅かな調査面積で遺構の検出に至ったことは成果といえる。

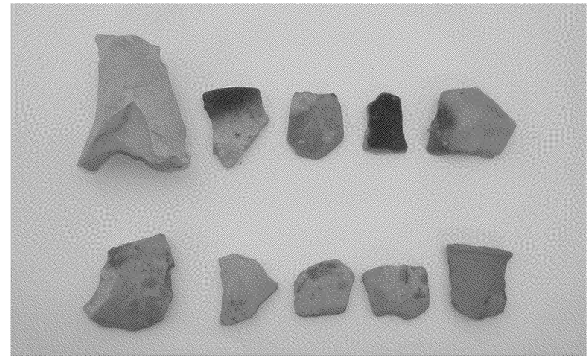
※詳細は第4章2 (111頁) に掲載。



位置図 (2,500分の1)



調査区東側全景 (北東から)



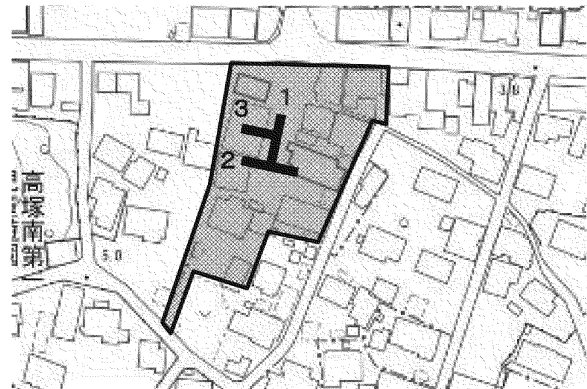
主な出土遺物

7 高塚町村西遺跡8次 (たかつかちょうむらにしせいせき)

所在地 南区高塚町
調査期間 2019年3月11日～12日
調査原因 集合住宅建設
調査面積 104 m²

調査概要 中世以前の遺構は確認されなかったが、奈良時代の須恵器・土師器、鎌倉時代の山茶碗などが出土した。

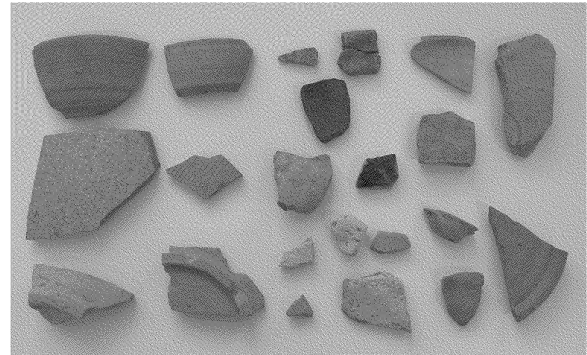
※詳細は『高塚町村西遺跡』(2019年12月刊行) に掲載。



位置図 (2,500分の1)



調査溝3 (南東から)



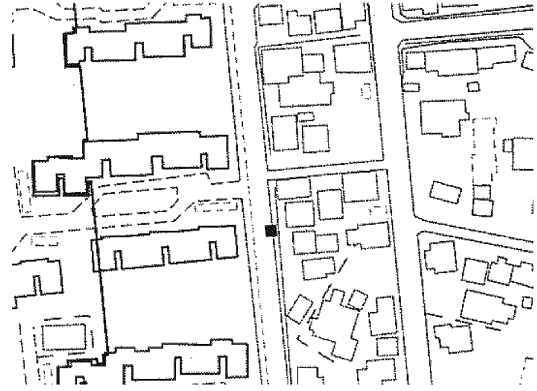
主な出土遺物

第3章 試掘・確認・立会等調査報告

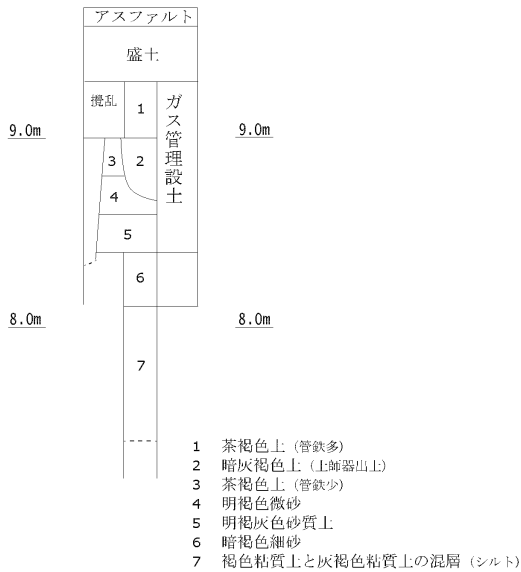
試掘・確認調査

1 西脇前遺跡2次 (にしわきまえいせき)

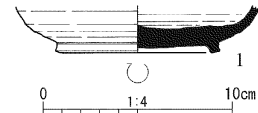
所在地 東区市野町 493 番 4 の西側市道
 調査期間 2018 年 4 月 6 日
 調査原因 ガス管敷設
 調査面積 2.25 m²
 検出遺構 小穴
 出土遺物 須恵器 (有台坏身)、土師器 (甕)
 調査結果 遺構面が残存する部分は僅かであったが、奈良時代の小穴が複数検出され、居住可能な微高地性の堆積層が確認できた。
 調査担当 鈴木敏則



位置図 (2,500 分の 1)

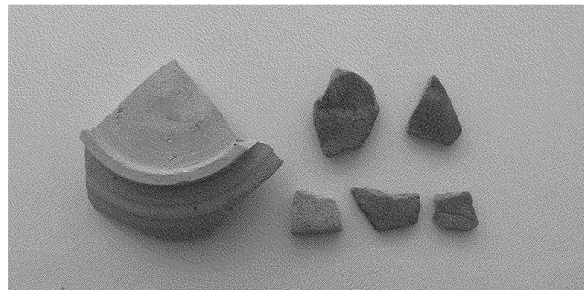


土層柱状図 (S=1/40)



1: 須恵器 (有台坏身)

出土遺物実測図 (S=1/4)



主な出土遺物



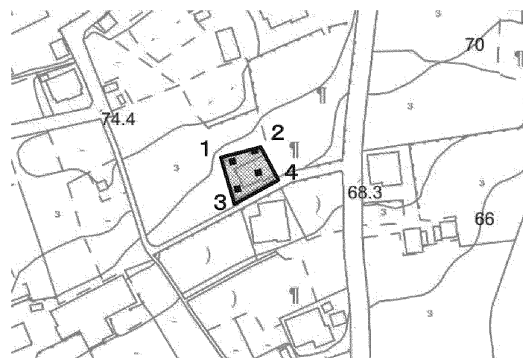
調査坑完掘状況



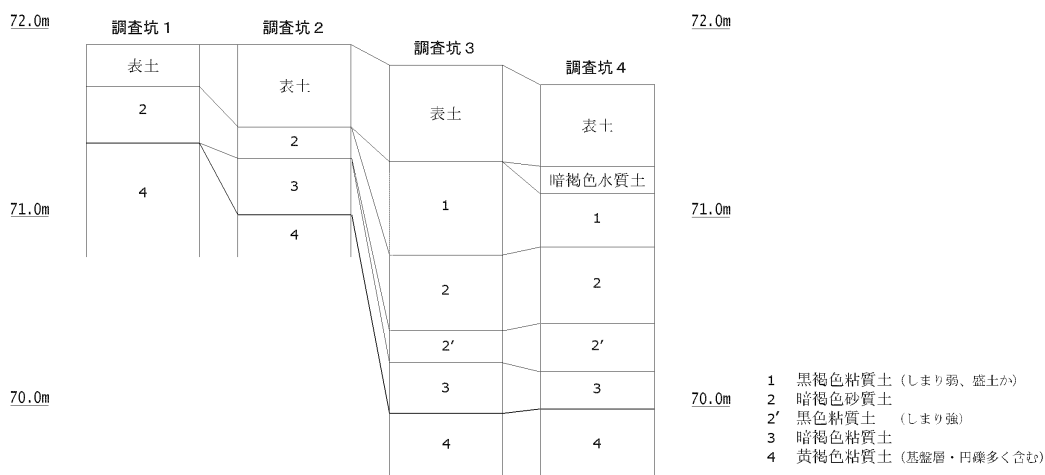
調査坑土層堆積状況

2 北谷遺跡 7次 (きただにいせき)

所在地 浜北区根堅 2036-2、2036-3
 調査期間 2018年4月23日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 8.5 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



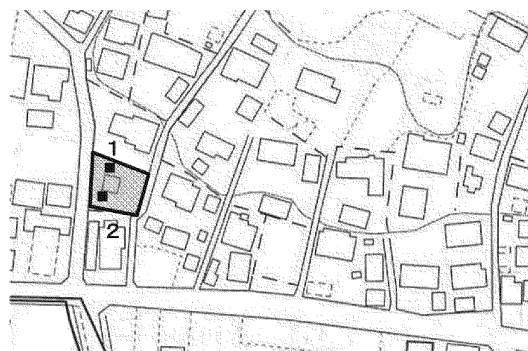
位置図 (2,500分の1)



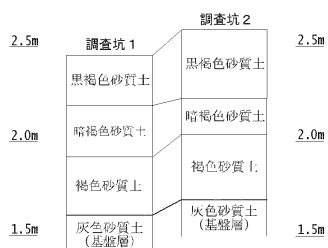
土層柱状図 (S=1/40)

3 田尻遺跡 3次 (たじりいせき)

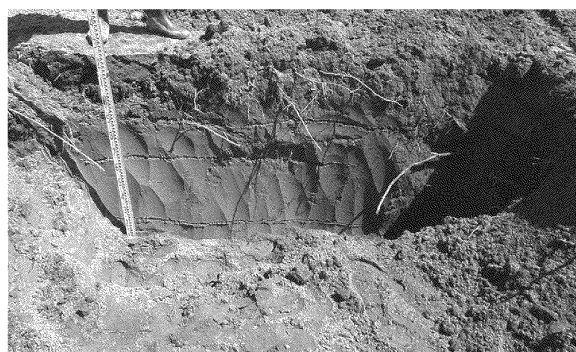
所在地 南区法枝町 527
 調査期間 2018年5月14日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 8 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



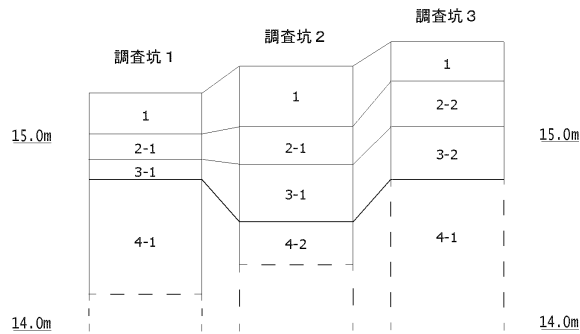
調査坑 2 土層堆積状況

4 御殿山遺跡4次 (ごてんやまいせき)

所在地 東区笠井町字広野 1080
 調査期間 2018年5月21日
 調査原因 集合住宅建設
 調査面積 10 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)

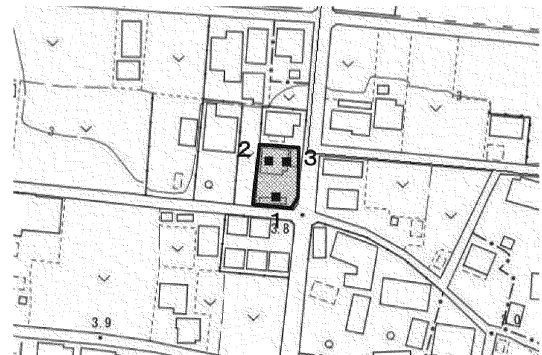


- 1 盛土
- 2-1 褐色砂質土 (しまり弱い)
- 2-2 暗褐色砂質土 (しまり弱い)
- 3-1 暗褐色シルト
- 3-2 褐色シルト
- 4-1 褐色砂礫 (礫を多く含む) (基盤層)
- 4-2 褐色砂 (基盤層)

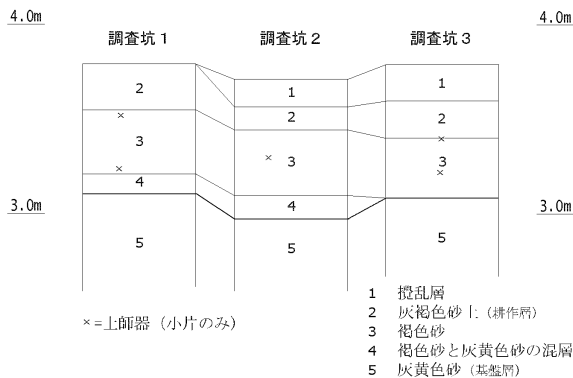
土層柱状図 (S=1/40)

5 小沢渡町村中東遺跡1次 (こざわたりちょうむらなかひがしいせき)

所在地 西区小沢渡町 419-1、419-2
 調査期間 2018年5月24日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 10 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器 (甕) 細片
 調査結果 わずかに遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 鈴木敏則



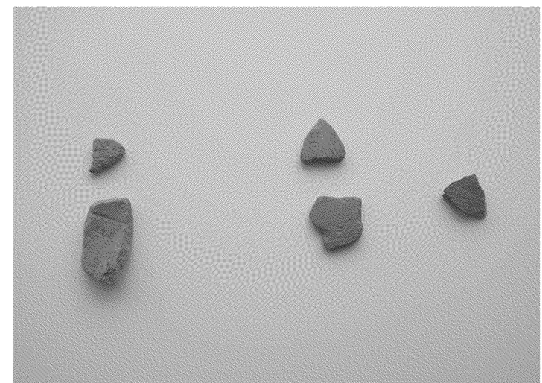
位置図 (2,500分の1)



x=土師器 (小片のみ)

- 1 攪乱層
- 2 灰褐色砂土 (耕作層)
- 3 褐色砂
- 4 褐色砂と灰黄色砂の混層
- 5 灰黄色砂 (基盤層)

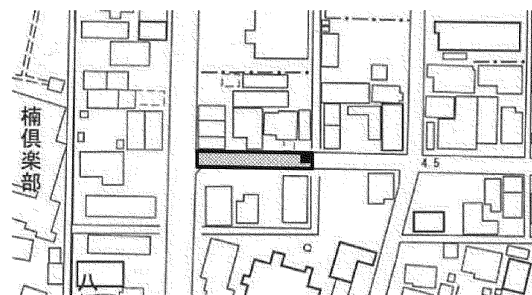
土層柱状図 (S=1/40)



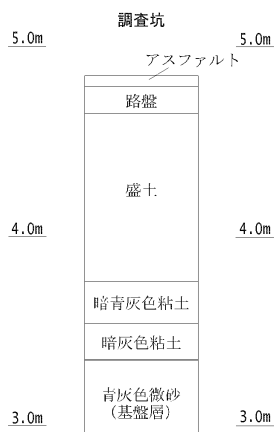
主な出土遺物

6 浜松城下町遺跡9次
(はままつじょうかまちいせき)

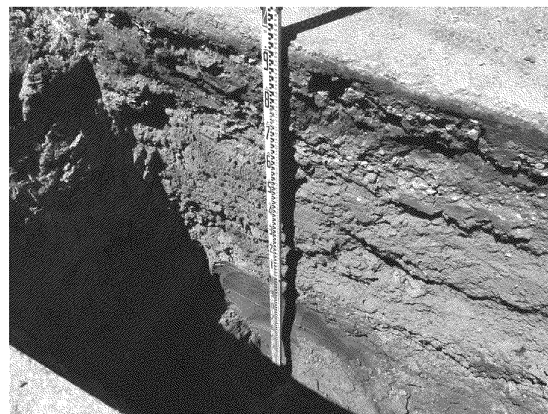
所在地 中区野口町地内
 調査期間 2018年5月24日
 調査原因 下水道管理設 調査面積 2 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



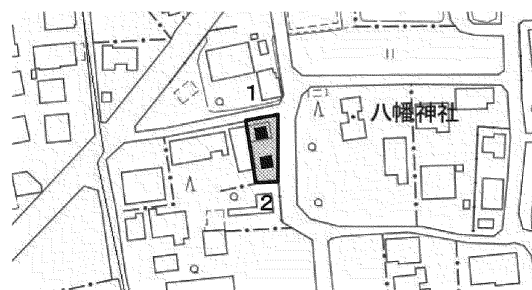
土層柱状図 (S=1/40)



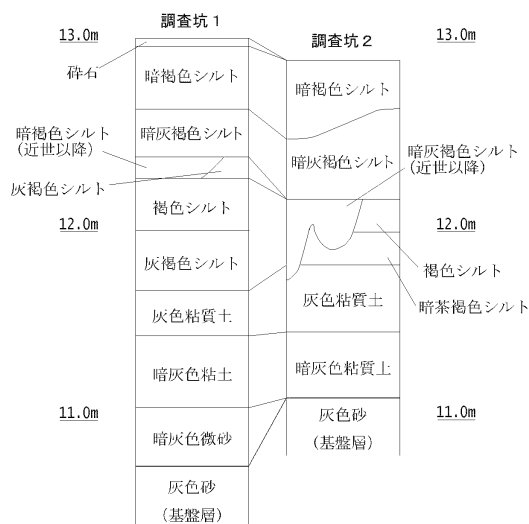
土層堆積状況

7 恒武西宮遺跡22次(つねたけにしみやいせき)

所在地 東区貴平町字西屋敷1701
 調査期間 2018年5月28日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 8 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 内耳鍋
 調査結果 わずかに遺物が出土したが、遺構は確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



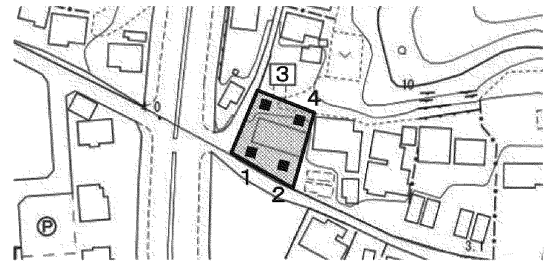
土層柱状図 (S=1/40)



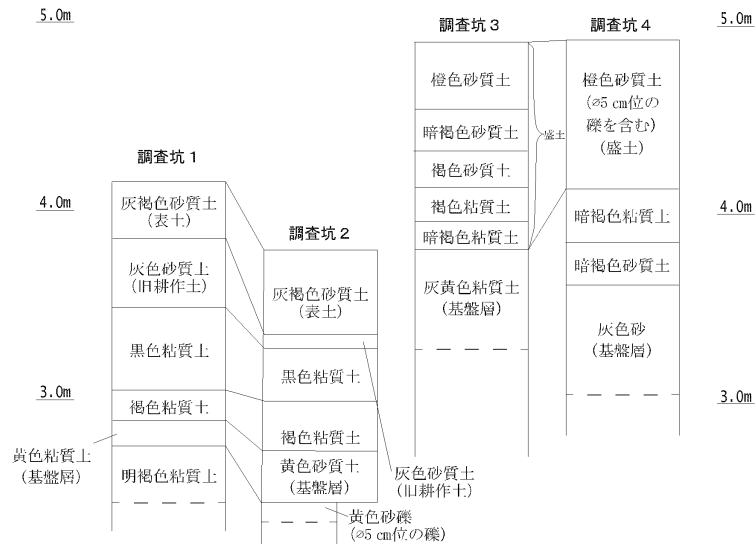
主な出土遺物

8 西脇遺跡5次 (にしわきいせき)

所在地 西区志都呂町 1570-1、1570-2
 調査期間 2018年5月29日
 調査原因 宅地分譲 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 鈴木敏則



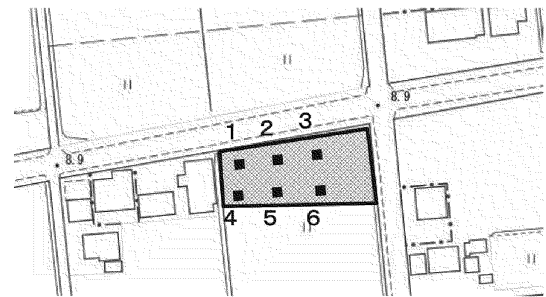
位置図 (2,500分の1)



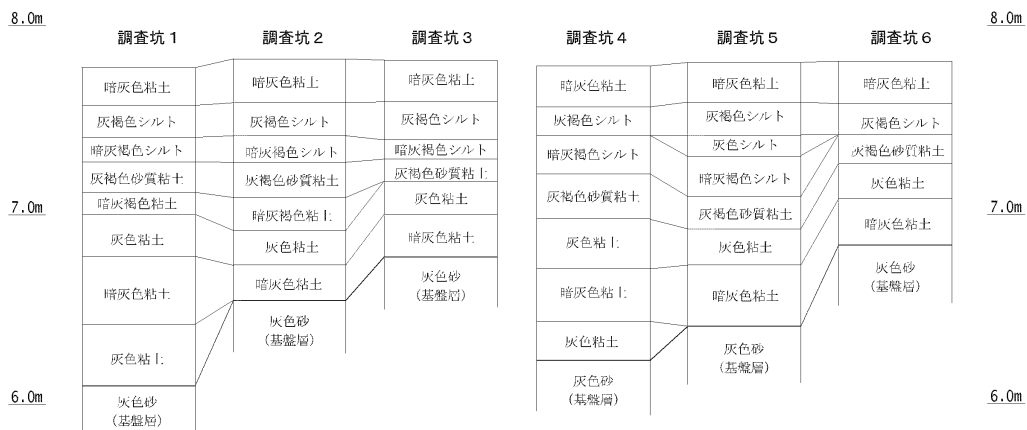
土層柱状図 (S=1/40)

9 別所前遺跡2次 (べっしょまえいせき)

所在地 東区市野町 2453-1 外
 調査期間 2018年6月4日
 調査原因 店舗建設 調査面積 24 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 井口智博



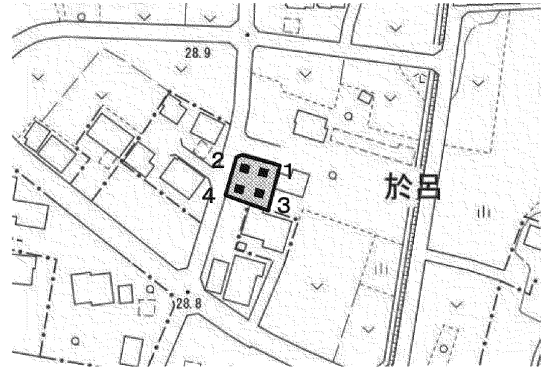
位置図 (2,500分の1)



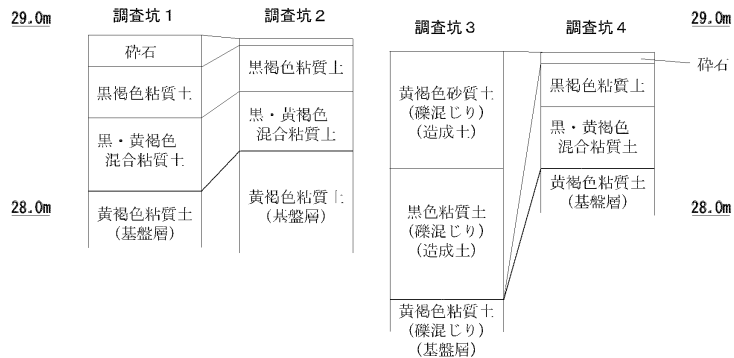
土層柱状図 (S=1/40)

10 東原遺跡 45 次 (ひがしばらいせき)

所在地 浜北区新原 5404-1
 調査期間 2018 年 6 月 12 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 8.25 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 山中美歩



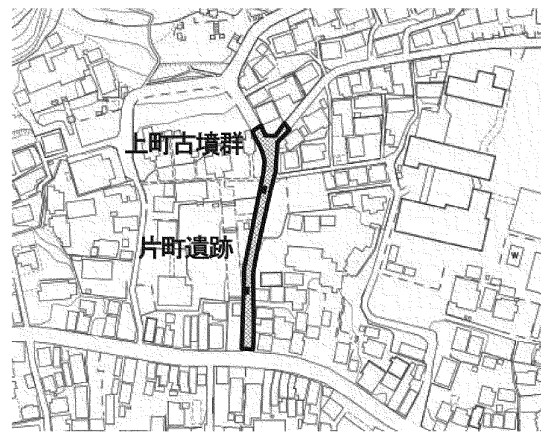
位置図 (2,500 分の 1)



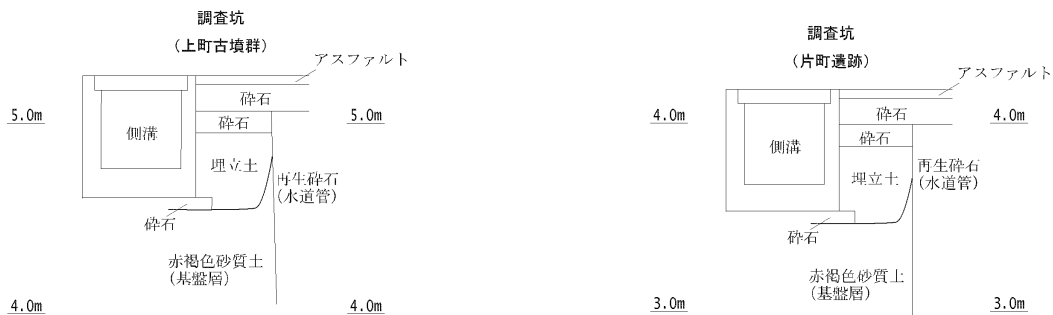
土層柱状図 (S=1/40)

11 上町古墳群 1 次・片町遺跡 2 次
 (かみまちこふんぐん・かたまちいせき)

所在地 北区細江町気賀地内
 調査期間 2018 年 6 月 12 日
 調査原因 排水路改良
 調査面積 4 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 既設の埋設物によって攪乱を受けており、遺構や遺物は確認できなかった。遺跡の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



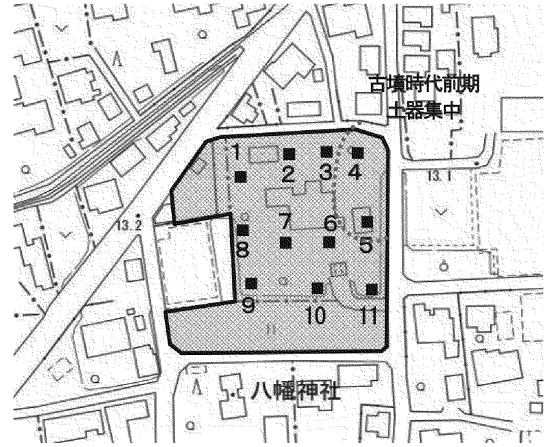
位置図 (5,000 分の 1)



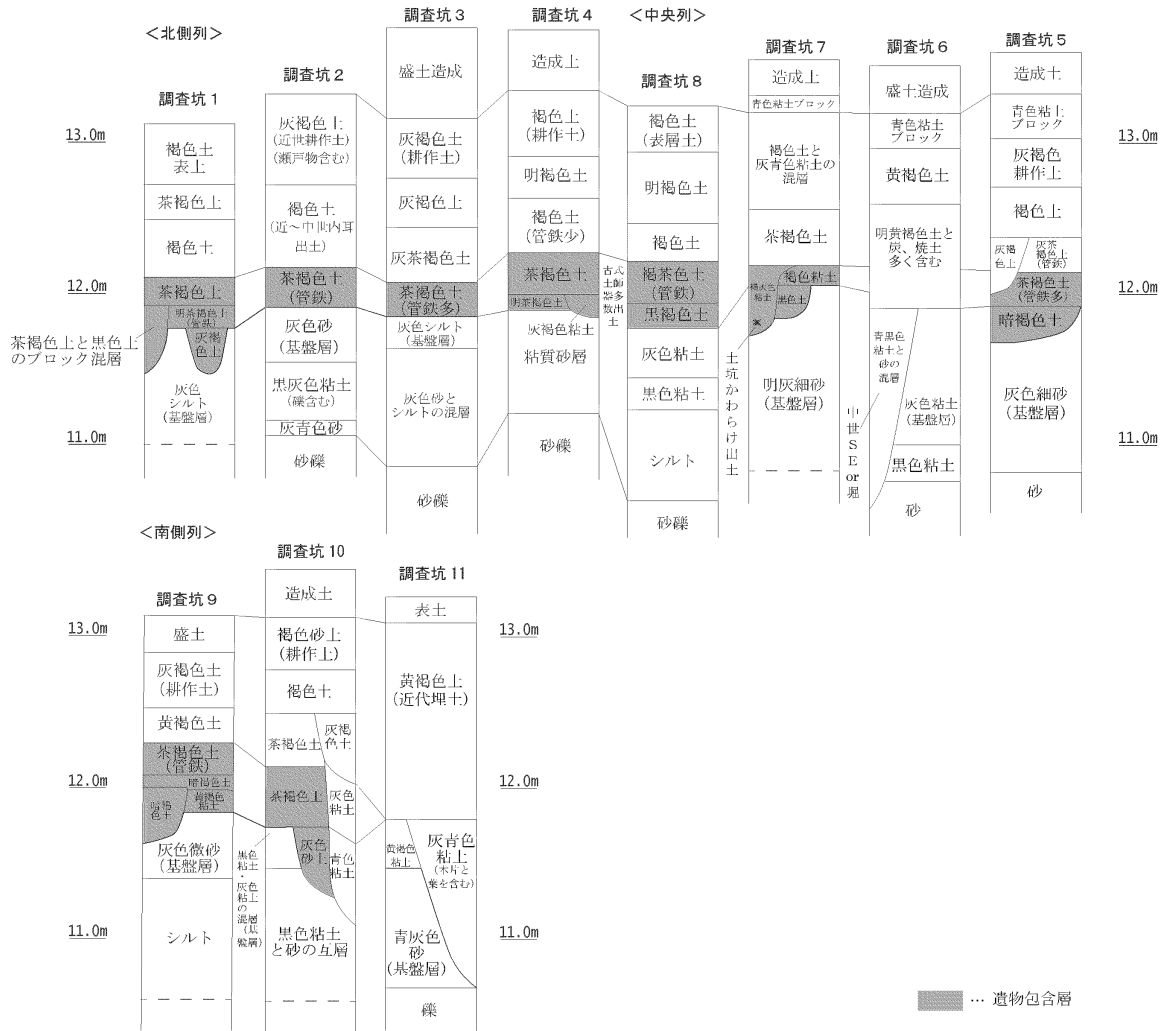
土層柱状図 (S=1/40)

12 恒武西宮遺跡 23 次(つねたけにしみやいせき)

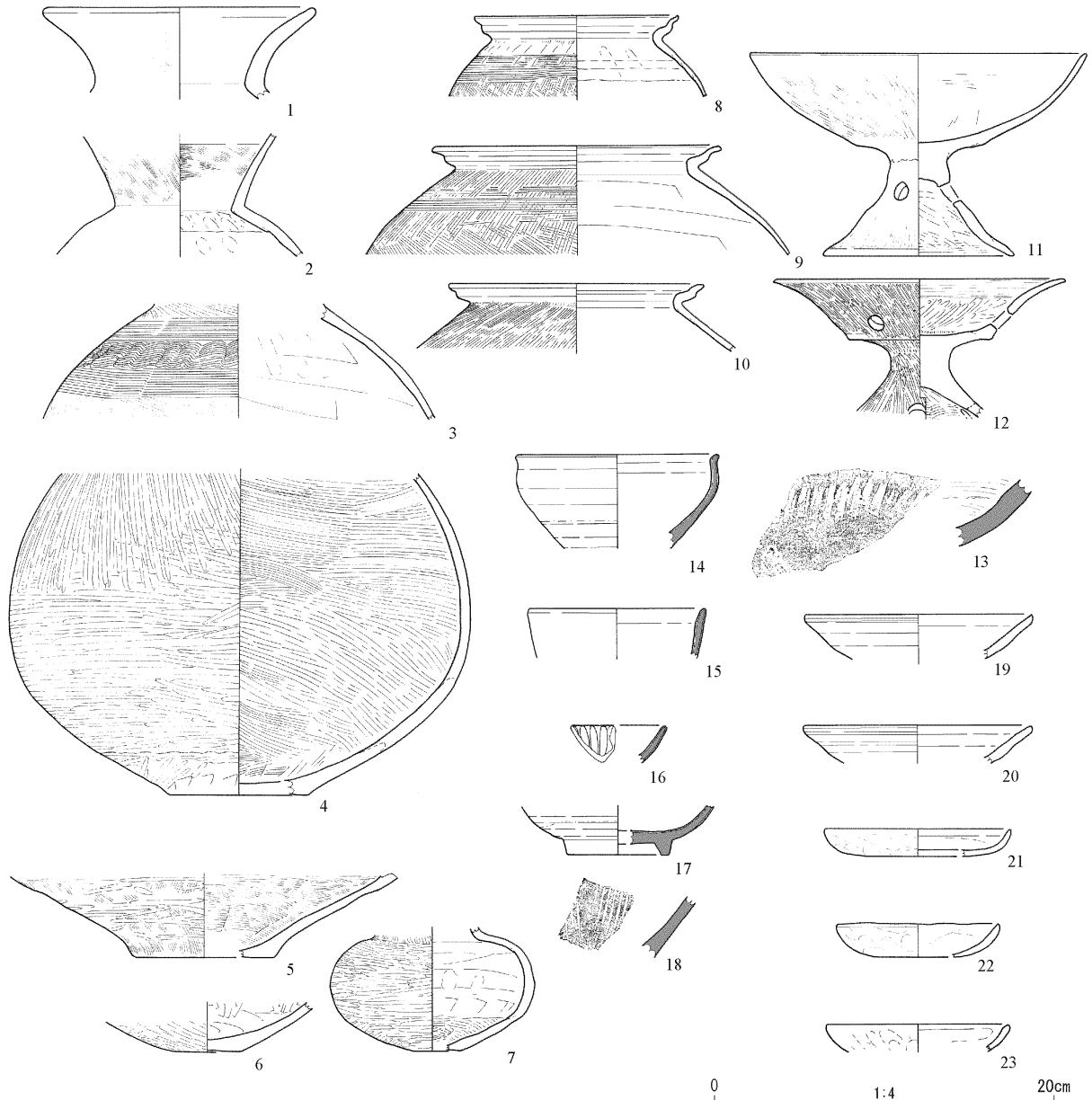
所在地 東区貴平町 1678 番外
 調査期間 2018 年 6 月 21 日
 調査原因 老人ホーム建設
 調査面積 44 m²
 検出遺構 小穴、堀、溝、土坑
 出土遺物 古式土師器、須恵器、土師器、山茶碗、
 内耳鍋、かわらけ、天目茶碗、播鉢
 調査結果 古墳時代前期の遺構や遺物(古式土師器)
 を確認した。また、中世末~近世の遺構
 や遺物(かわらけなど)も確認した。
 調査担当 鈴木敏則



位置図 (2,500 分の 1)

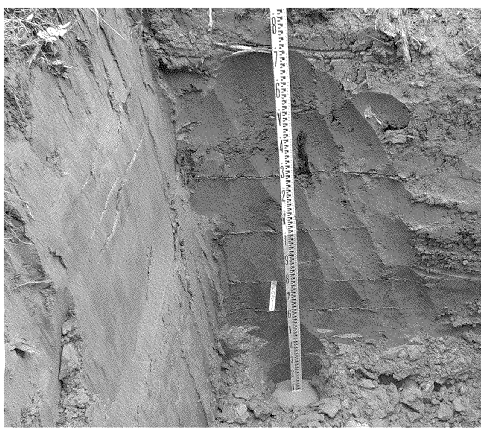


土層柱状図 (S=1/50)

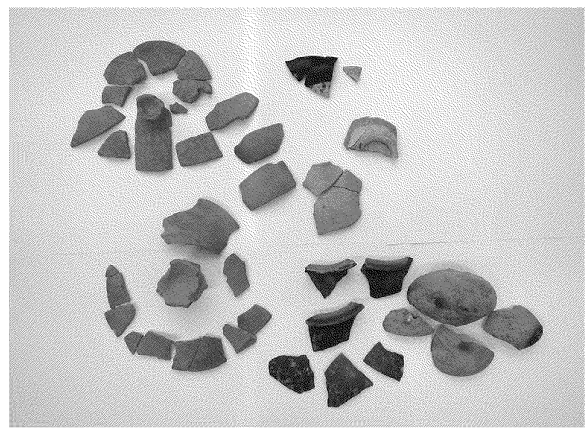


1～7: 土師器 (壺) 8～10: 古式土師器 (S字甕) 11・12: 土師器 (高坏) 13: 中世陶器 (甕) 14～17: 施釉陶器 (碗) 18: 挿鉢 19～23: かむらけ

出土遺物実測図 (S=1/4)



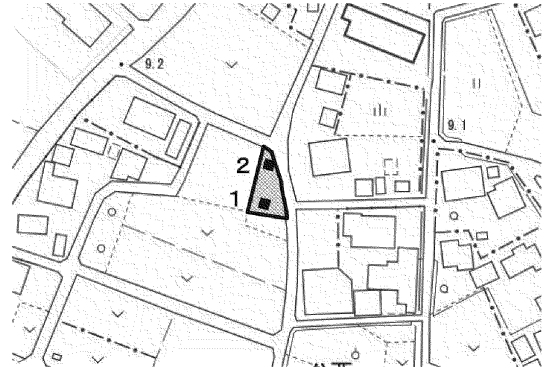
調査坑4土層堆積状況



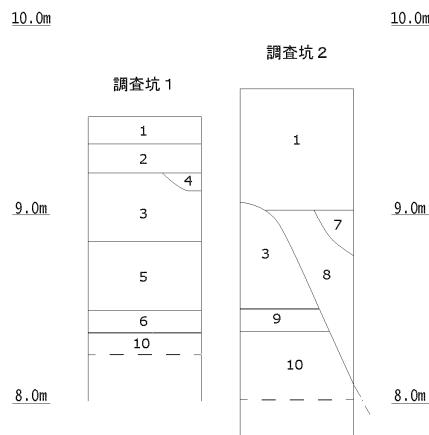
主な出土遺物

13 西畑屋遺跡5次 (にしはたやいせき)

所在地 東区有玉南町 1055
 調査期間 2018年6月27日
 調査原因 個人住宅建築
 調査面積 8 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)

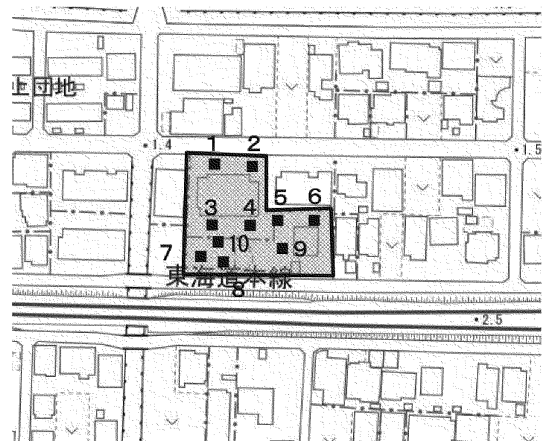


- 1 表土
- 2 灰色シルト
- 3 黄褐色粘質土
- 4 灰色粘質土
- 5 灰褐色粘土
- 6 黄褐色粘土
- 7 黄褐色砂質土 (φ3~5cmの礫・現代の瓦を含む)
- 8 黄褐色砂質土 (φ3~5cmの礫・現代の瓦を含む)
- 9 灰色砂礫 (φ3~5cmの礫) (基盤層)
- 10 灰褐色砂礫 (φ3~5cmの礫) (基盤層)

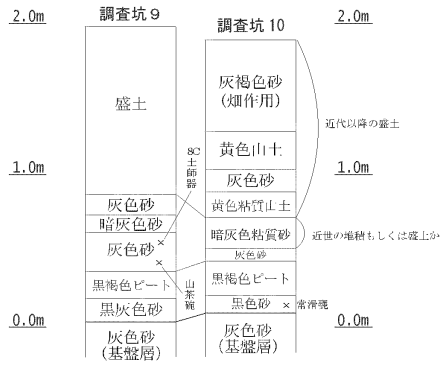
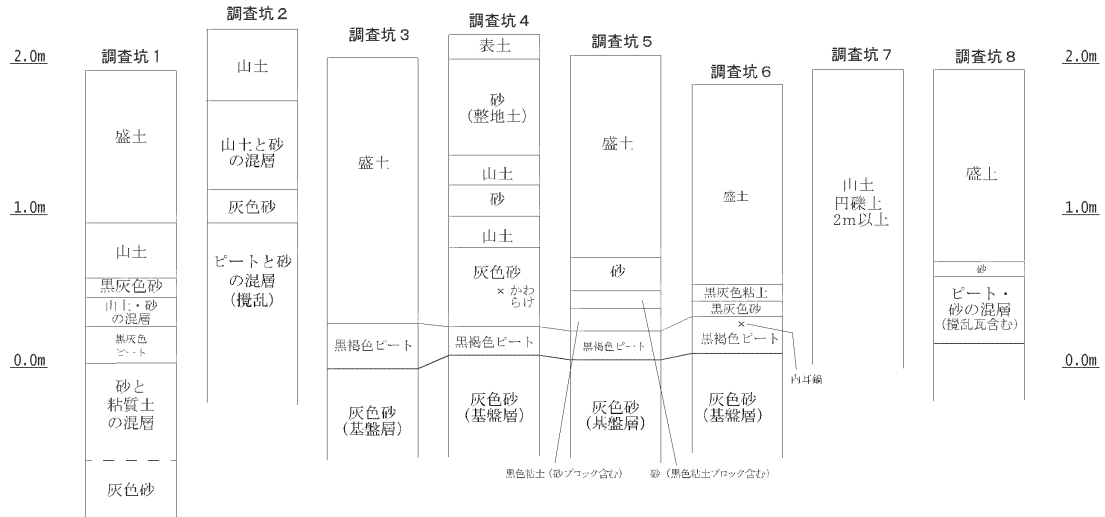
土層柱状図 (S=1/40)

14 亀ヶ原遺跡1次 (かめがはらいせき)

所在地 西区舞阪町舞阪 732-2
 調査期間 2018年6月28日
 調査原因 宅地分譲
 調査面積 40 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器、須恵器、山茶碗、山皿、かわらけ、内耳鍋、陶器 (中世)
 調査結果 基盤砂層の上には湿地性の堆積層 (ピート層) が確認された。戦国期以前は湿地であり、少量の遺物が確認できたが、遺跡の中心である西側からの流れこみであると考えられる。
 調査担当 鈴木敏則



位置図 (2,500分の1)



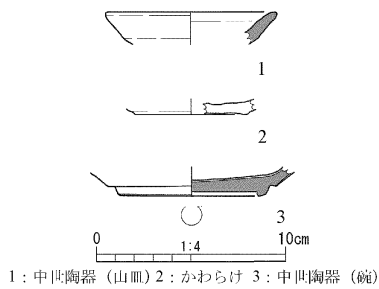
土層柱状図 (S=1/50)



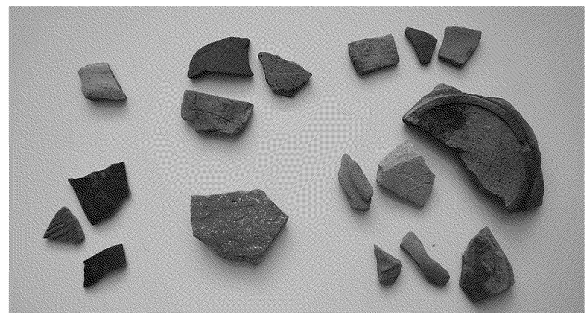
調査坑6 土層堆積状況



調査坑10 土層堆積状況



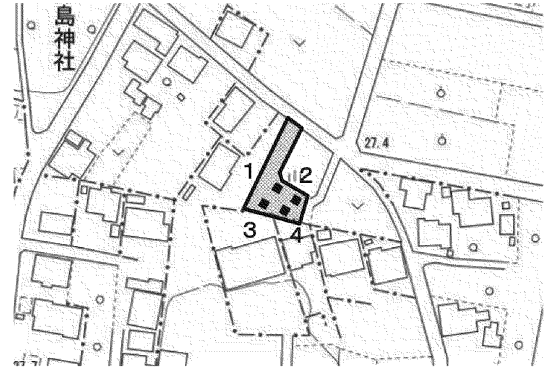
出土遺物実測図 (S=1/4)



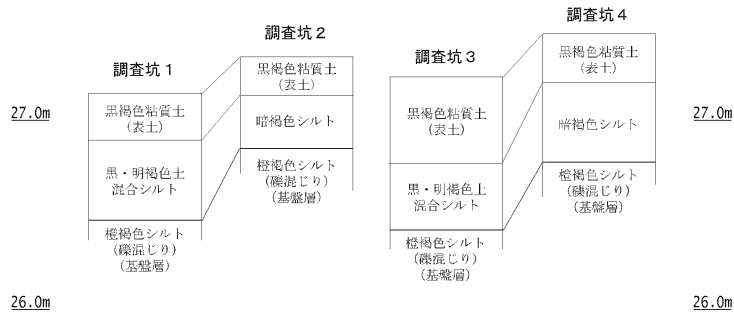
主な出土遺物

15 東原遺跡 46 次 (ひがしばらいせき)

所在地 浜北区新原 5167-2、5167-3
 調査期間 2018 年 7 月 26 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 9 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 山中美歩



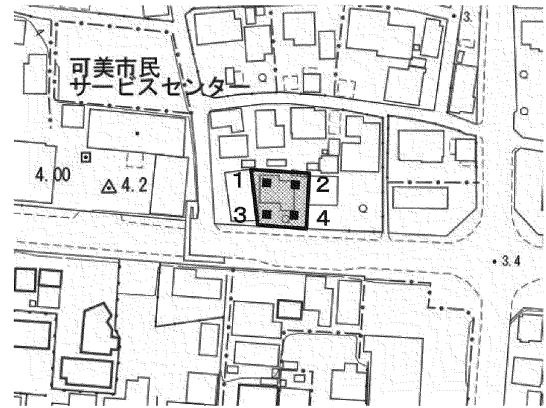
位置図 (2,500 分の 1)



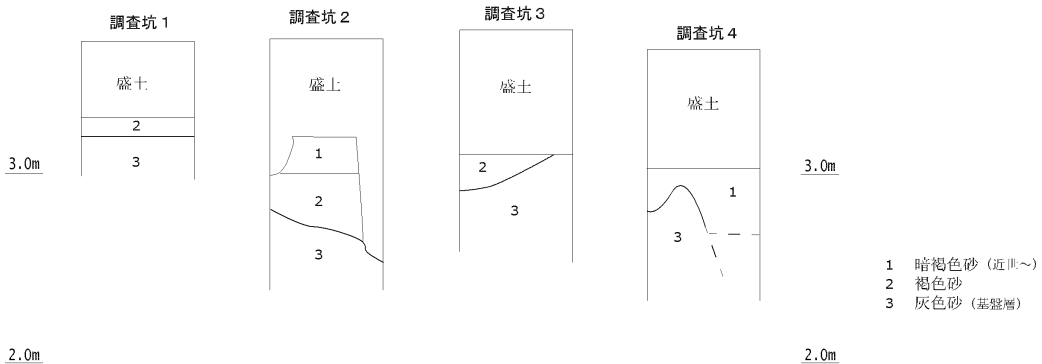
土層柱状図 (S=1/40)

16 若林町村西遺跡 13 次
 (わかばやしちょうむらにしいせき)

所在地 南区若林町 915 番 1
 調査期間 2018 年 7 月 30 日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器
 調査結果 わずかに遺物が出土したが、遺物・遺構が希薄な地点とみられる。
 調査担当 鈴木京太郎



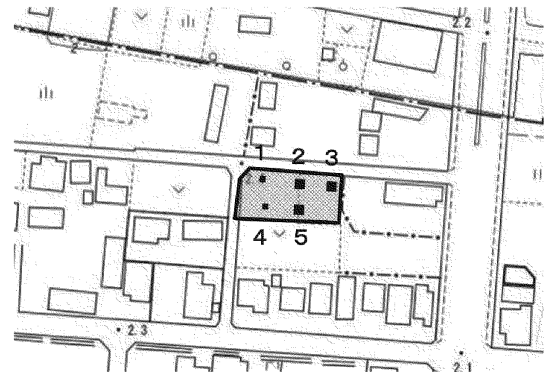
位置図 (2,500 分の 1)



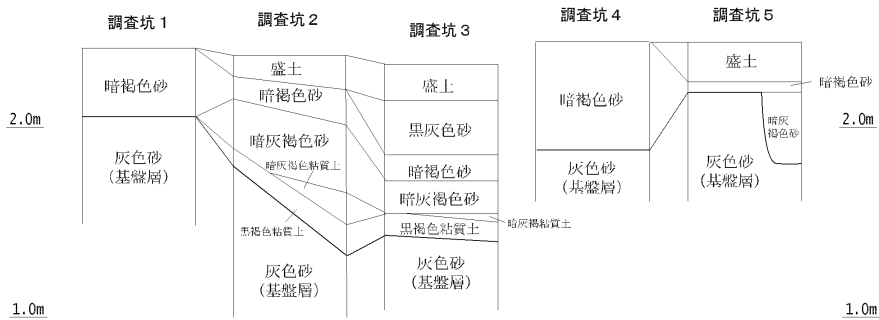
土層柱状図 (S=1/40)

17 井村遺跡5次 (いむらいせき)

所在地 南区若林町 2744-1
 調査期間 2018年8月1日
 調査原因 宅地分譲
 調査面積 14 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器、須恵器、内耳鍋、焙烙鍋
 調査結果 わずかに遺物が出土したが、遺物・遺構が希薄な地点とみられる。
 調査担当 井口智博



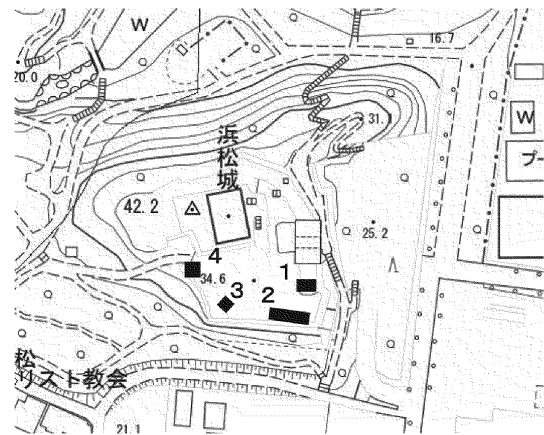
位置図 (2,500分の1)



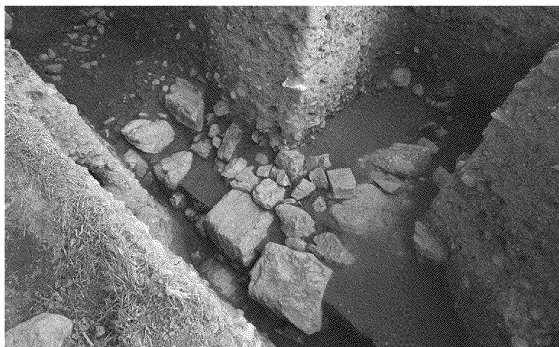
土層柱状図 (S=1/40)

18 浜松城跡24次 (はまつじょうあと)

所在地 中区元城町 100-2
 調査期間 2018年8月1日～12月21日
 調査原因 公園整備 調査面積 50 m²
 検出遺構 櫓基礎、石塁
 出土遺物 瓦
 調査結果 調査溝1にて櫓の基礎、調査溝2にて天守曲輪内側の石塁と、瓦の堆積を確認した。調査溝3では石塁の南西角と裏込め、調査溝4では江戸時代の石塁も見られた。詳細は、『浜松城跡13』(2019年3月刊行)に掲載。
 調査担当 鈴木一有



位置図 (2,500分の1)



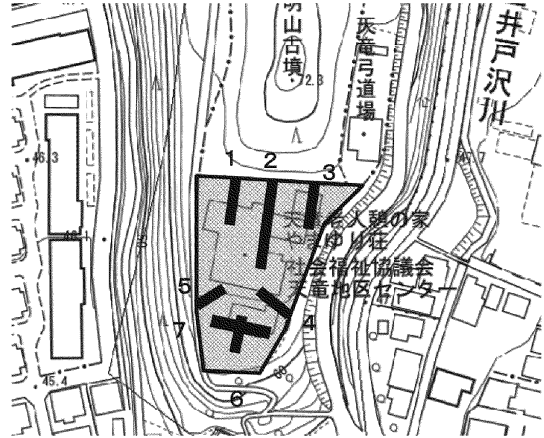
調査溝1 調査状況



調査溝2 瓦出土状況

19 光明山古墳群8次（こうみょうさんこふん）

所在地 天竜区山東字八幡 2897 外
 調査期間 2018年8月6日、7日
 調査原因 太陽光発電所設置 調査面積 266 m²
 検出遺構 2号墳周溝と造出、1号墳（光明山古墳）
 前方部南造成面
 出土遺物 弥生土器（甕）、埴輪（円筒、朝顔）、土師器
 調査結果 南側の広範囲に渡り、遺構が地下に残存していることを明確にした。詳細は、『光明山古墳』（2019年3月刊行）に掲載。
 調査担当 鈴木敏則



位置図（2,500分の1）



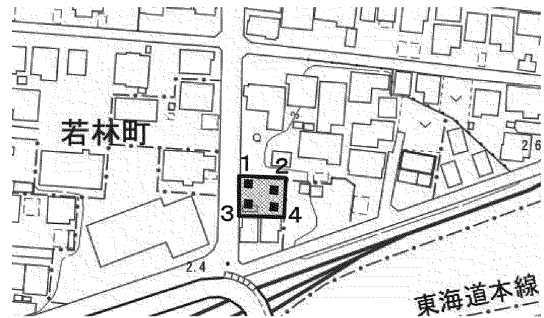
調査溝2完掘状況



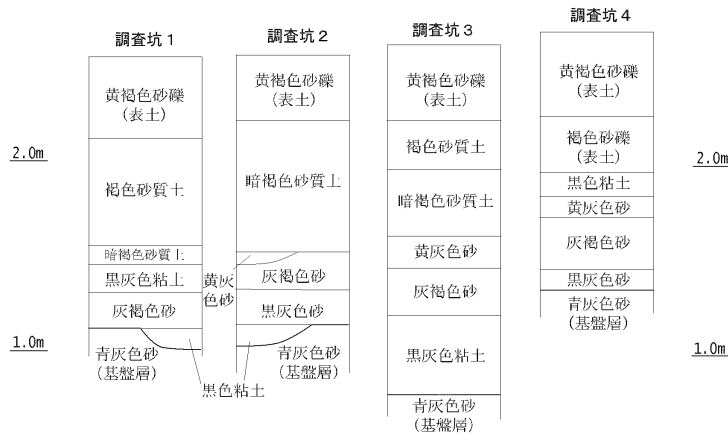
調査溝6、7完掘状況

20 東野宮遺跡3次（ひがしのみやいせき）

所在地 南区若林町 1957 番 4
 調査期間 2018年8月8日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 9 m²
 検出遺構 掘り込み 出土遺物 土師器
 調査結果 時期不明の掘り込みや土師器片が1点出土したのみであることから、遺構・遺物の希薄な地点と考えられる。
 調査担当 山中美歩



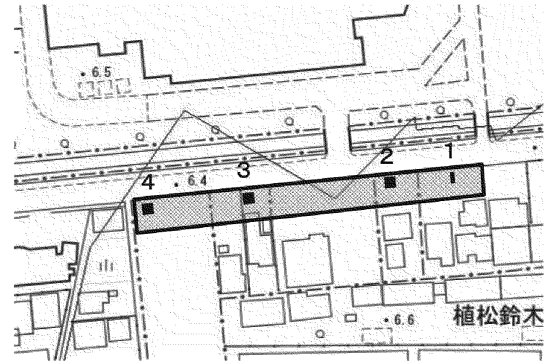
位置図（2,500分の1）



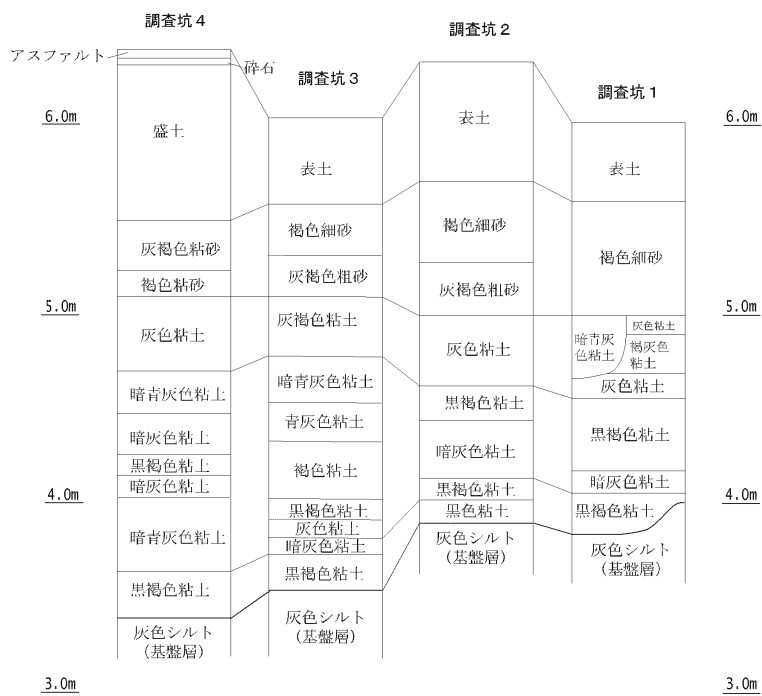
土層柱状図 (S=1/40)

21 宮竹野際遺跡 10 次 (みやたけのぎわいせき)

所在地 東区宮竹町地内
 調査期間 2018年8月20日
 調査原因 道路改良
 調査面積 13.2㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 灰釉陶器
 調査結果 遺構は確認できず、遺物も灰釉陶器の細片のみだった。希薄地点と考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



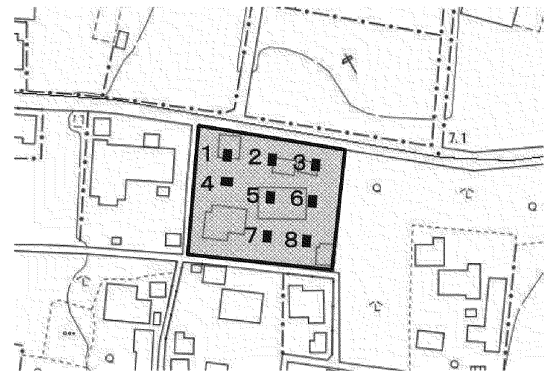
位置図 (2,500分の1)



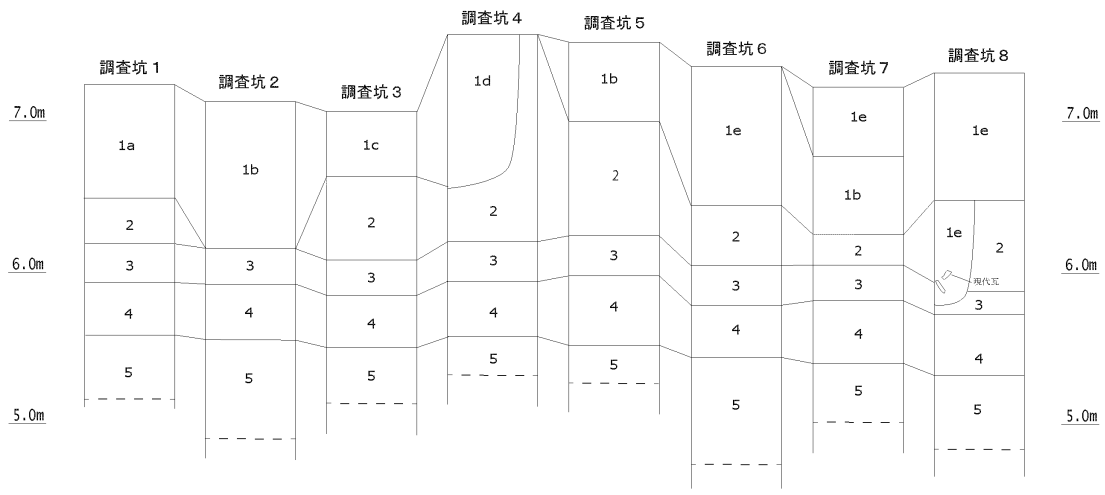
土層柱状図 (S=1/40)

22 庄屋遺跡 1 次 (しょうやいせき)

所在地 南区新貝町 1465 番
 調査期間 2018年8月22日
 調査原因 宅地分譲
 調査面積 12㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 鈴木一有



位置図 (2,500分の1)

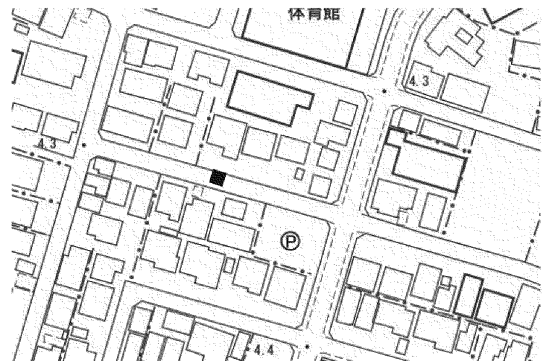


- 1a 緑灰褐色砂
- 1b 灰色砂
- 1c 暗茶色砂
- 1d 茶色粘土
- 1e 黒色砂
- 2 緑灰色砂
- 3 茶褐色砂
- 4 緑灰色砂
- 5 粗砂

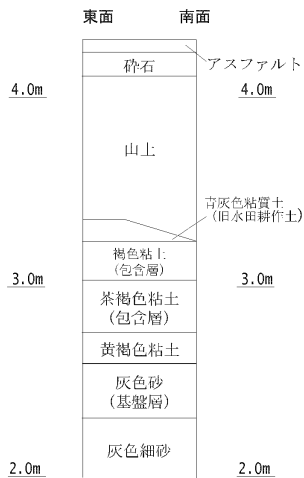
土層柱状図 (S=1/50)

23 棕木遺跡5次 (むくぎいせき)

所在地 東区子安町 306-12 (公道 341-9)
 調査期間 2018年9月11日
 調査原因 ガス管敷設
 調査面積 2 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 須恵器 (壺片)、土師器 (甕、坏身片)
 調査結果 遺構は認められなかったが、安定した包含層が存在しており、集落域内と推定される。
 調査担当 鈴木敏則



位置図 (2,500分の1)



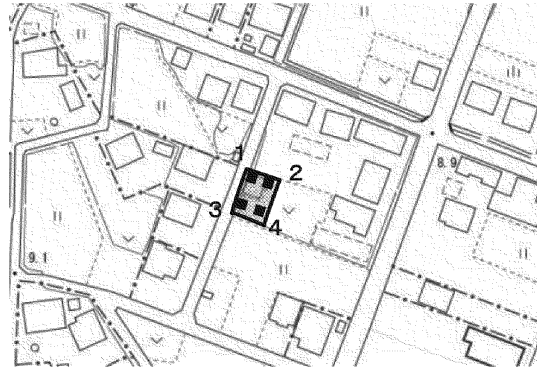
土層柱状図 (S=1/40)



主な出土遺物

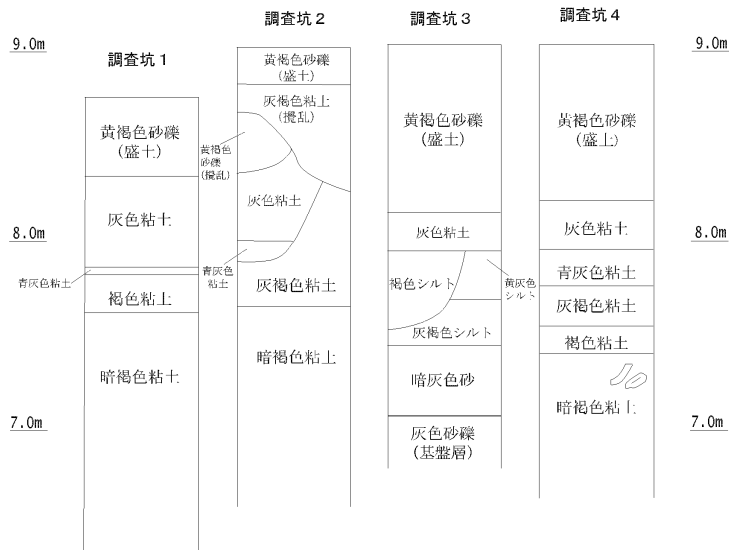
24 西畑屋遺跡6次 (にしはたやいせき)

所在地 東区有玉南町 1203-7
 調査期間 2018年9月19日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 16 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器、須恵器
 調査結果 遺構は確認できなかったが、古墳時代の土師器や古代の須恵器が出土した。遺跡の範囲内と考えられる。

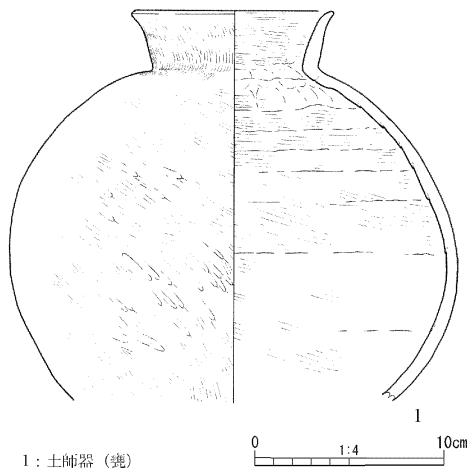


位置図 (2,500分の1)

調査担当 山中美歩

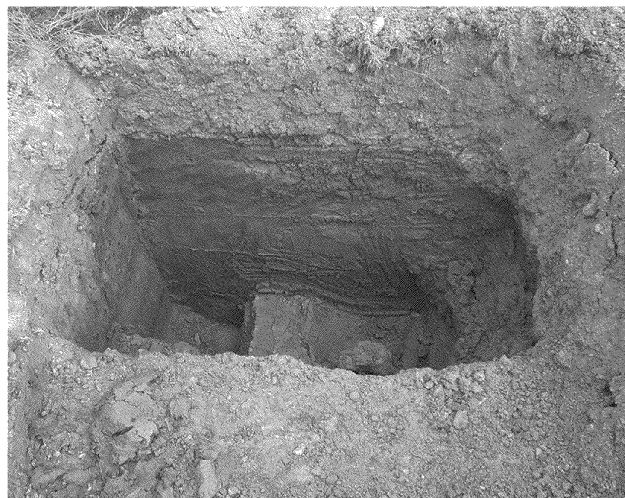


土層柱状図 (S=1/40)



1: 土師器 (甕)

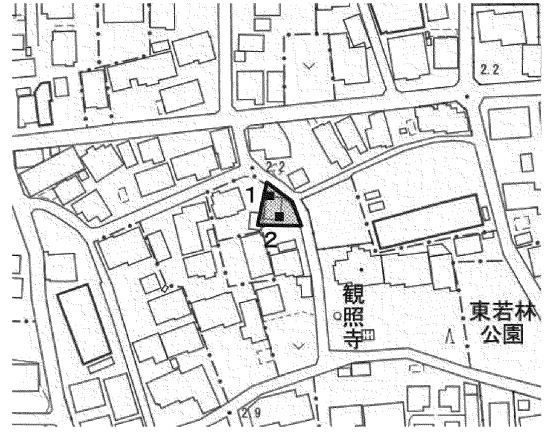
出土遺物実測図 (S=1/4)



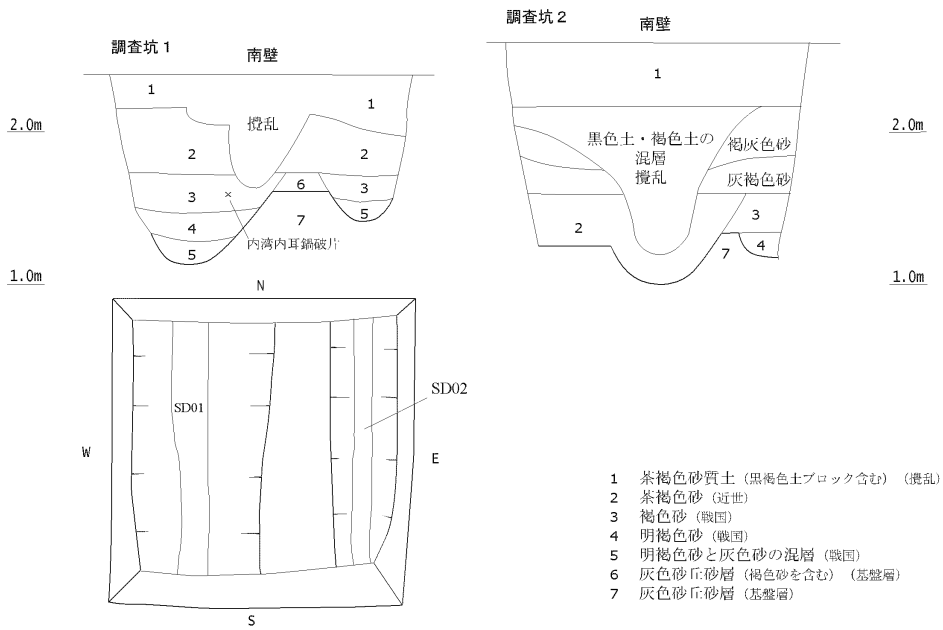
調査坑 1 土層堆積状況

25 村裏遺跡8次 (むらうらいせき)

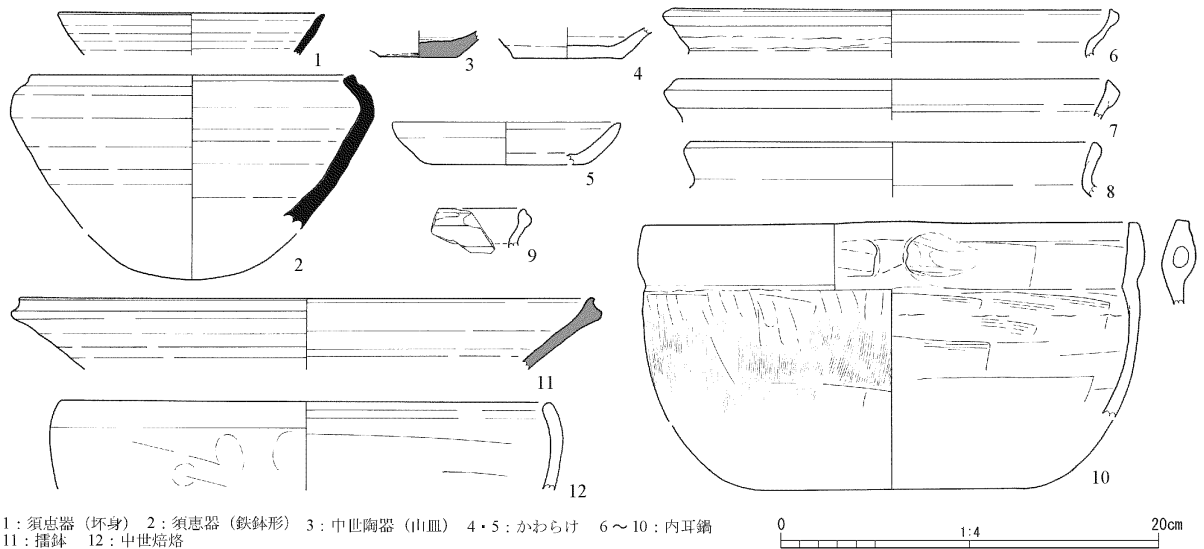
所在地 南区東若林町 1021-1
 調査期間 2018年9月27日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 8 m²
 検出遺構 溝、小穴
 出土遺物 須恵器 (鉄鉢形、坏身)、山茶碗、山皿、
 内耳鍋、かわらけ、播鉢
 調査結果 中世末の遺跡が存在することは確実であるが、古代の遺物も多く出土している。
 調査担当 鈴木敏則



位置図 (2,500分の1)



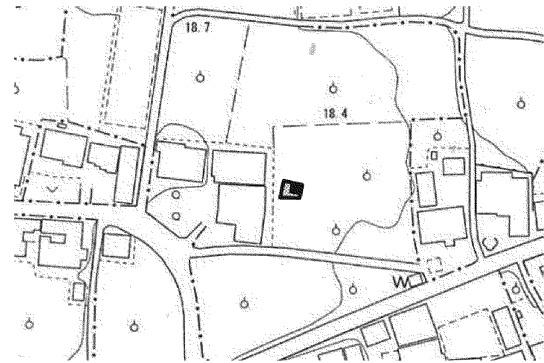
平面図及び土層柱状図 (S=1/50)



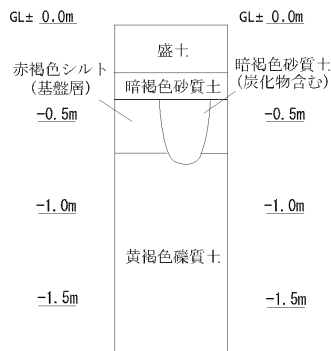
出土遺物実測図 (S=1/4)

26 釣遺跡 1次 (つりいせき)

所在地 北区三ヶ日釣 233、235-2
 調査期間 2018年9月28日
 調査原因 浄化槽設置
 調査面積 2 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物は確認できなかった。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



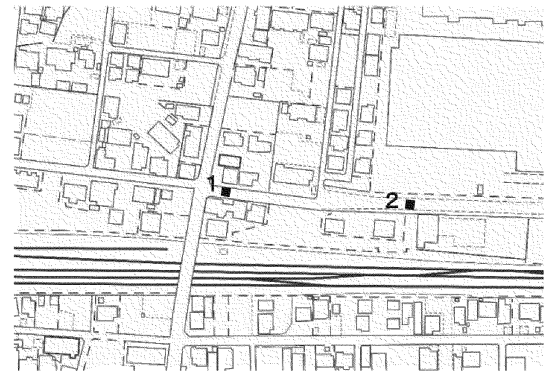
土層柱状図 (S=1/40)



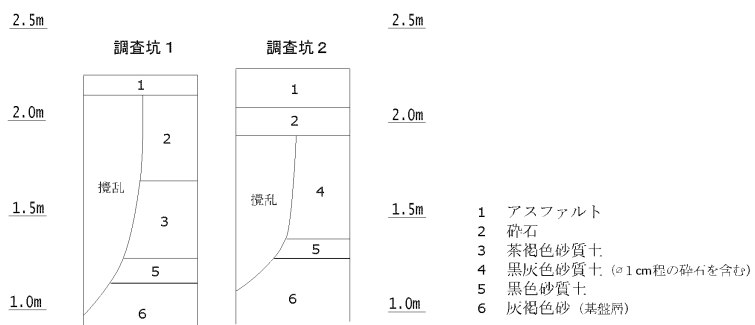
土層堆積状況

27 八王遺跡 3次 (はちおういせき)

所在地 南区高塚町地内
 調査期間 2018年10月5日
 調査原因 下水道管理設
 調査面積 3 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



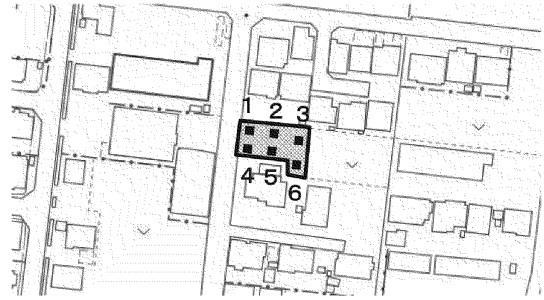
位置図 (2,500分の1)



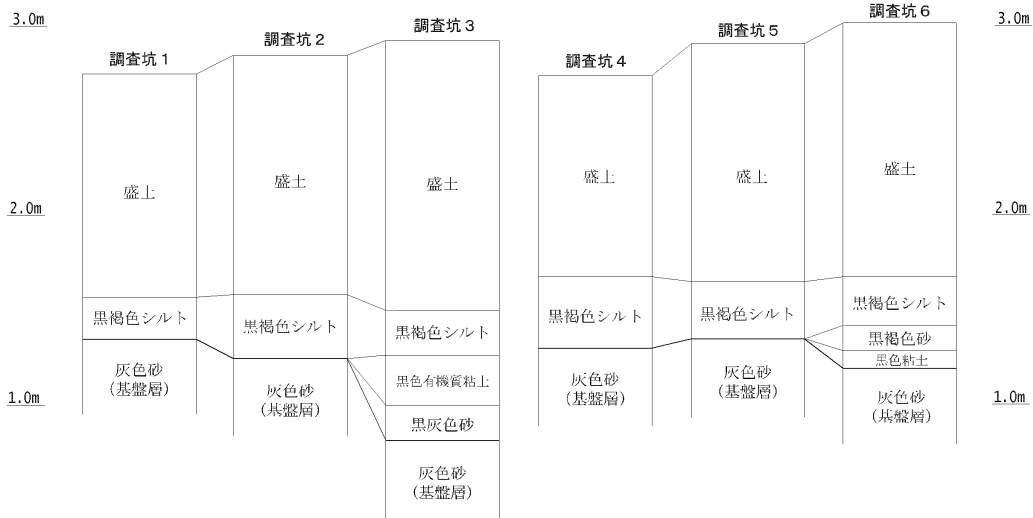
土層柱状図 (S=1/40)

28 大島遺跡2次 (おおしまいせき)

所在地 南区高塚町 1394-1
 調査期間 2018年10月17日
 調査原因 事務所建築
 調査面積 24 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 井口智博



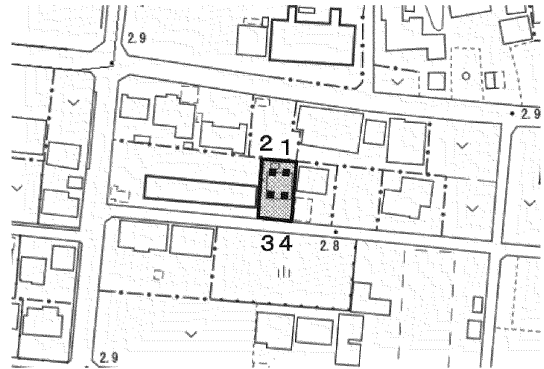
位置図 (2,500分の1)



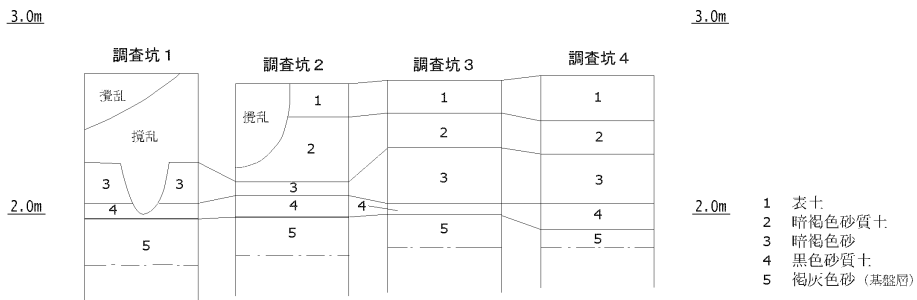
土層柱状図 (S=1/40)

29 新橋町村中遺跡2次
 (にいばしちようむらなかいせき)

所在地 南区新橋町 512
 調査期間 2018年10月22日
 調査原因 宅地分譲
 調査面積 9 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



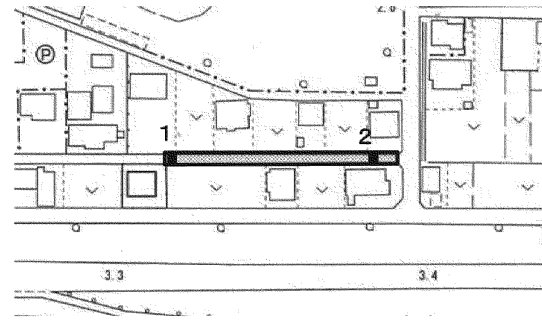
位置図 (2,500分の1)



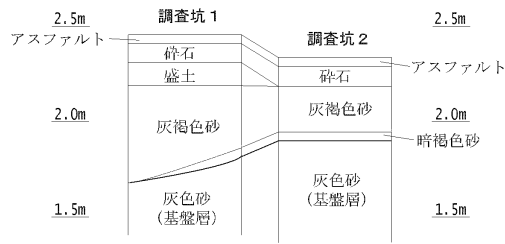
土層柱状図 (S=1/40)

30 篠原町西前遺跡5次
(しのはらちょうにしまえいせき)

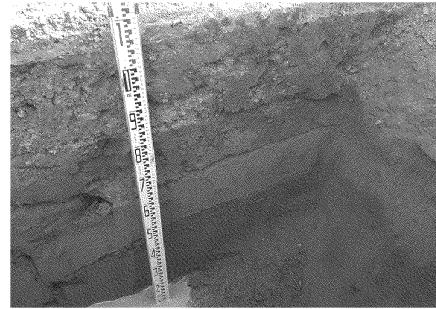
所在地 西区篠原町地内
 調査期間 2018年10月25日
 調査原因 下水道管理設 調査面積 5㎡
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



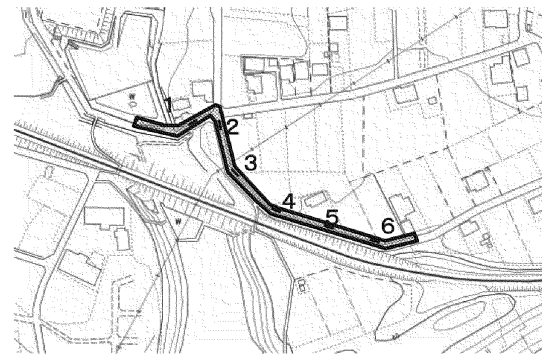
土層柱状図 (S=1/40)



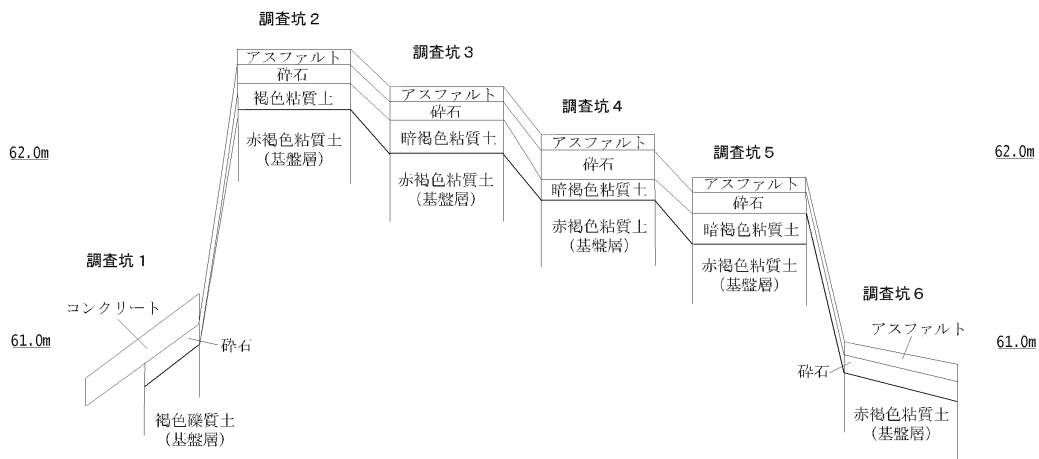
調査坑1土層堆積状況

31 新屋遺跡3次 (あらいせき)

所在地 浜北区宮口町地内
 調査期間 2018年10月30日
 調査原因 排水路改良工事
 調査面積 24㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



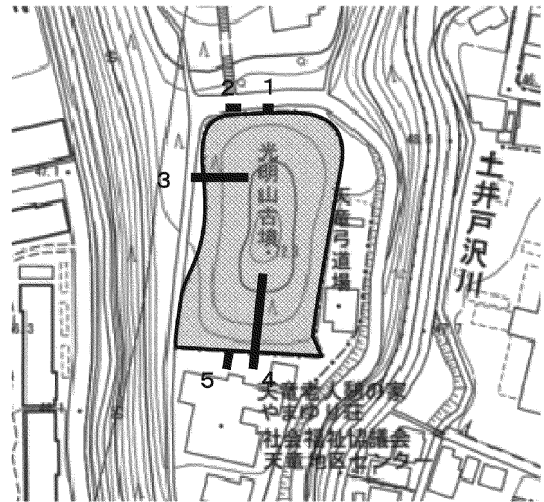
位置図 (5,000分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

32 光明山古墳群 10 次
(こうみょうさんこふんぐん)

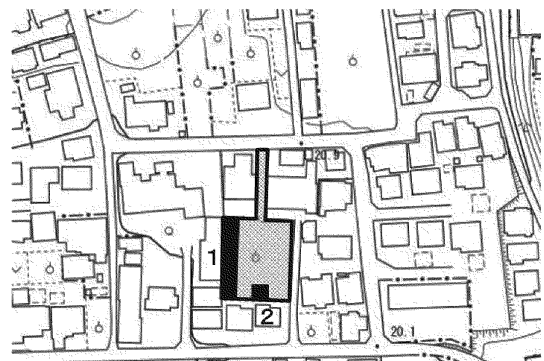
所在地 天竜区山東 2878 外
調査期間 2018 年 11 月 1 日～ 30 日
調査原因 保存目的
調査面積 283.5 m²
検出遺構 前方後円墳(葺石、墳丘あり)
出土遺物 台付甕、円筒埴輪、朝顔形埴輪、山茶碗、かわらけ
調査結果 墳丘の全長を確定し、前方部が二段築成であることを確認できた。詳細は『光明山古墳』(2019 年 3 月刊行)に掲載。
調査担当 鈴木一有



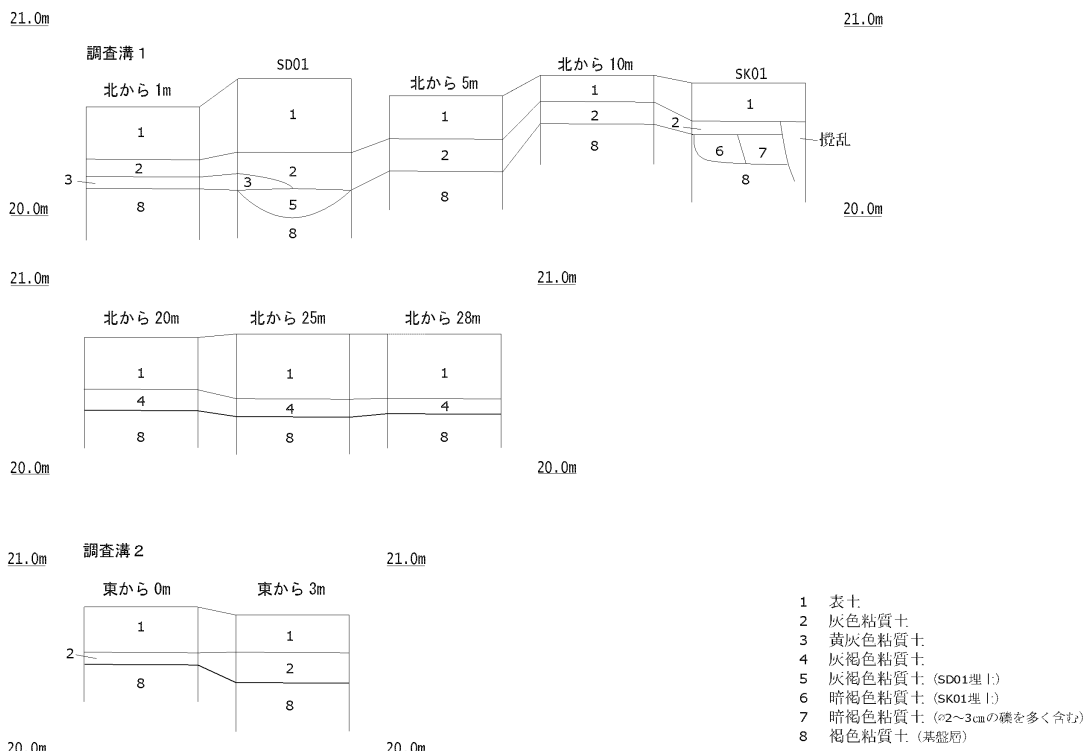
位置図 (2,500 分の 1)

33 金指陣屋跡 4 次 (かなさしじんやあと)

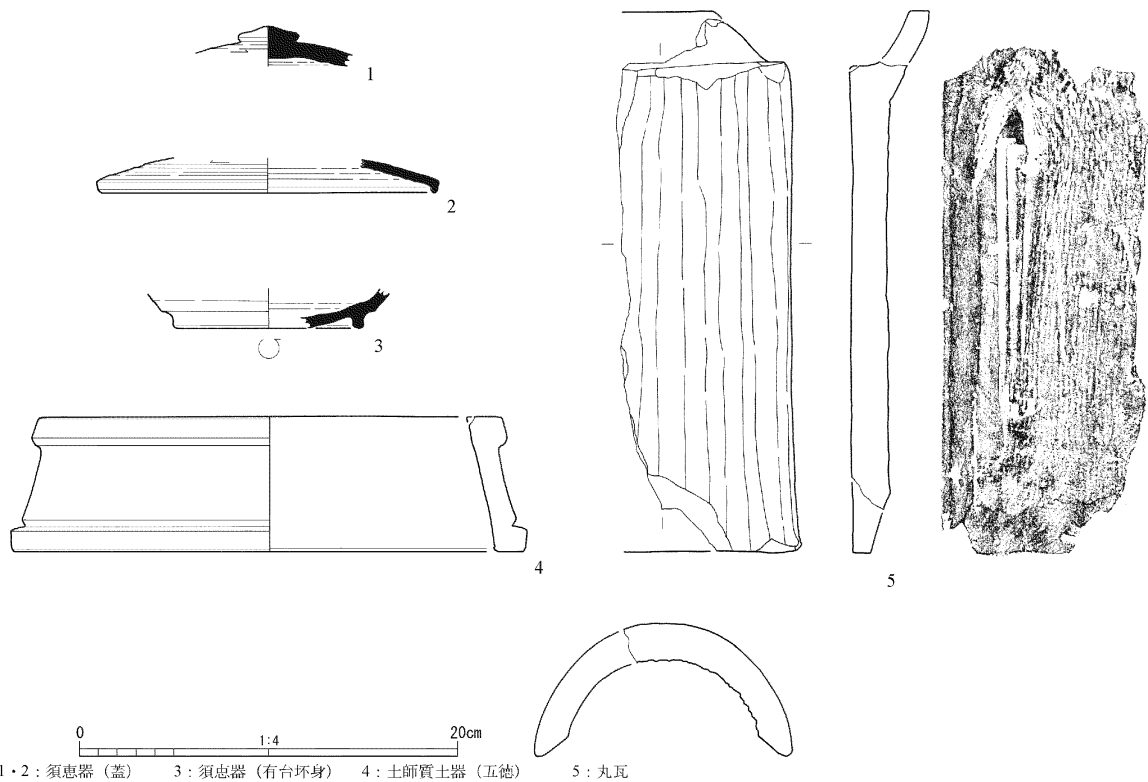
所在地 北区引佐町金指 1772-2 外
調査期間 2018 年 11 月 2 日
調査原因 宅地造成
調査面積 53 m²
検出遺構 小穴、土坑、溝
出土遺物 須恵器、土師器、瓦、陶磁器
調査結果 陣屋跡に関わる遺構は、全く確認できなかったが、古墳時代の遺跡が残存していることが明らかとなった。
調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500 分の 1)



土層柱状図 (S=1/40)

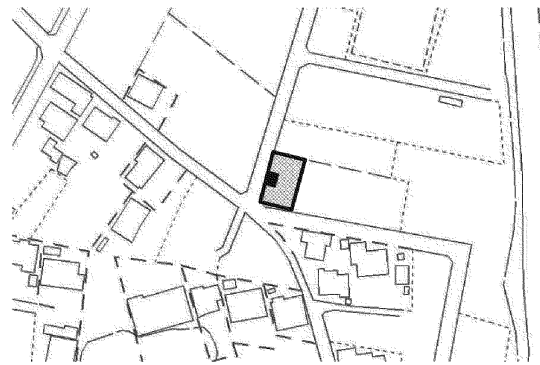


1・2: 須恵器 (蓋) 3: 須恵器 (有台坏身) 4: 土師質土器 (五徳) 5: 丸瓦

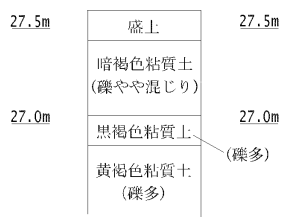
出土遺物実測図 (S=1/4)

34 東原遺跡 44 次 (ひがしばらいせき)

所在地 浜北区新原 5141-1
 調査期間 2018 年 11 月 5 日
 調査原因 浄化槽設置
 調査面積 1.7 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。今後の調査事例の増加を待ち、遺跡の範囲について検討を加える必要がある。
 調査担当 鈴木京太郎



位置図 (2,500 分の 1)



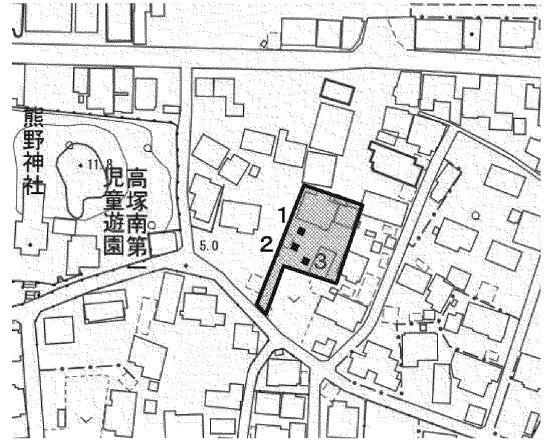
土層柱状図 (S=1/40)



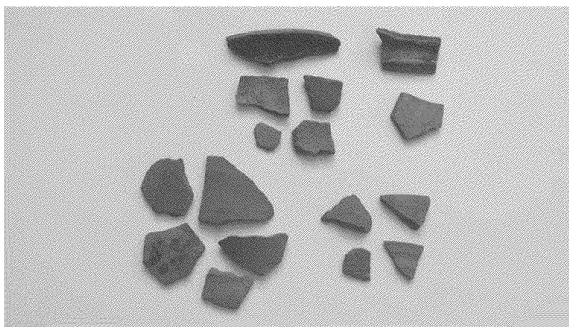
土層堆積状況

35 高塚町村西遺跡 7次
(たかつかちょうむらにしいせき)

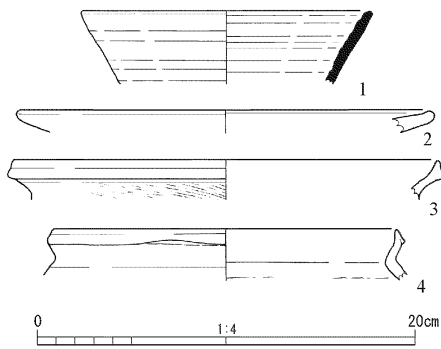
所在地 南区高塚町 4655-5
調査期間 2018年11月5日
調査原因 集合住宅建設
調査面積 12㎡
検出遺構 土坑
出土遺物 須恵器、土師器、山茶碗、内耳鍋、かわらけ
調査結果 中世の遺構、奈良時代の遺物を確認した。しかし出土遺物が少なく、安定した包含層も認められないことから、遺跡としては希薄な地点と考えられる。
調査担当 鈴木敏則



位置図 (2,500分の1)

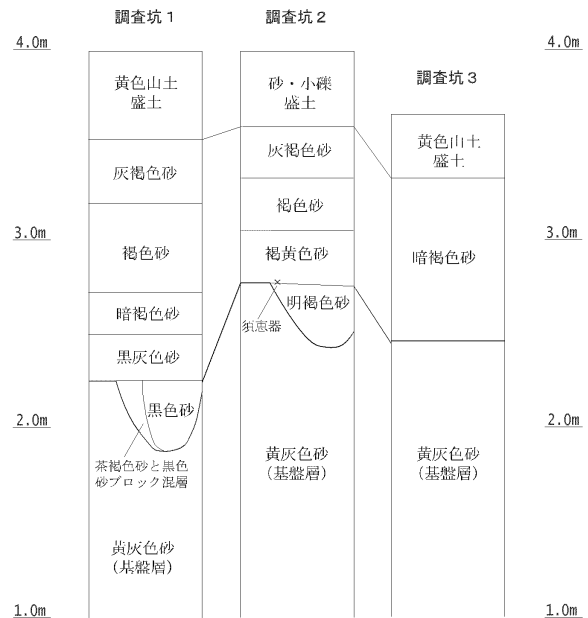


主な出土遺物



1: 須恵器 (碗) 2: 土師器 (長胴甕) 3・4: 内耳鍋

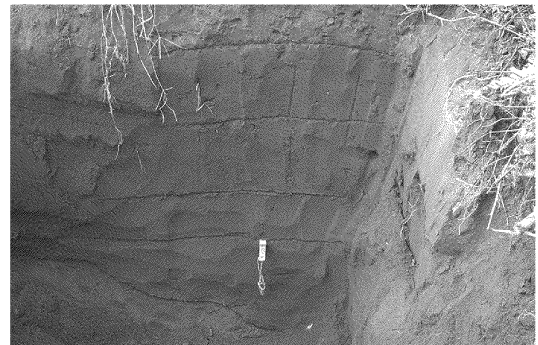
出土遺物実測図 (S=1/4)



土層柱状図 (S=1/40)



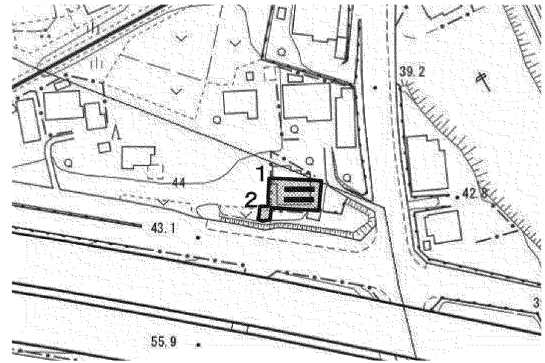
調査坑2完掘状況



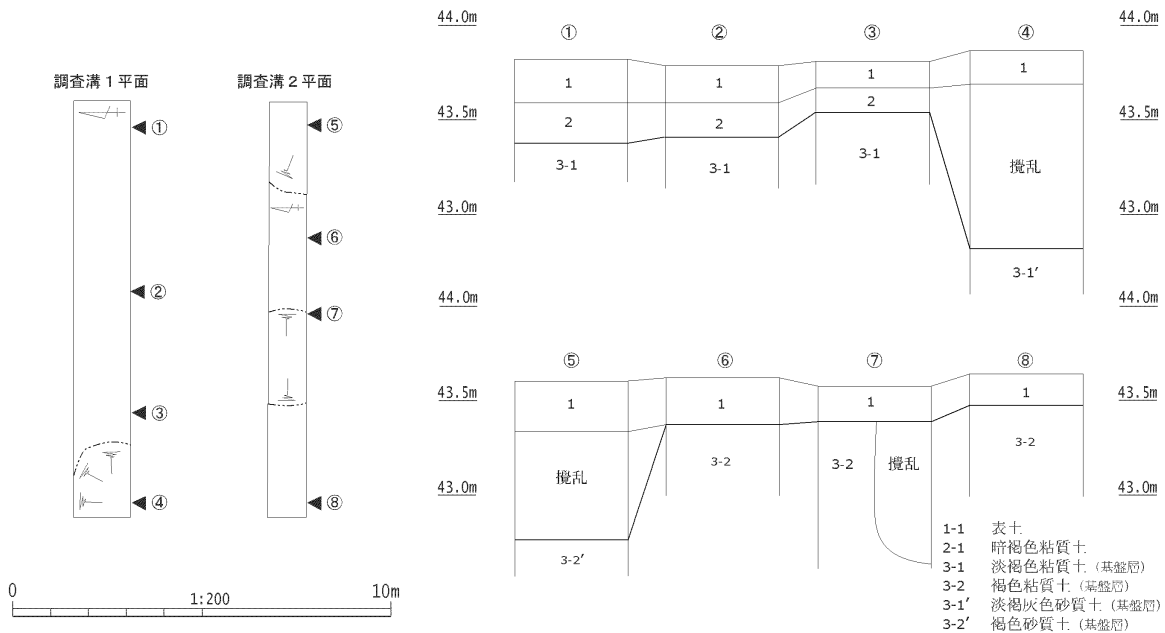
調査坑2土層堆積状況

36 上海土遺跡 4次 (かみかいといせき)

所在地 浜北区於呂 2777-32
 調査期間 2018年11月15日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 27.5㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 鈴木京太郎



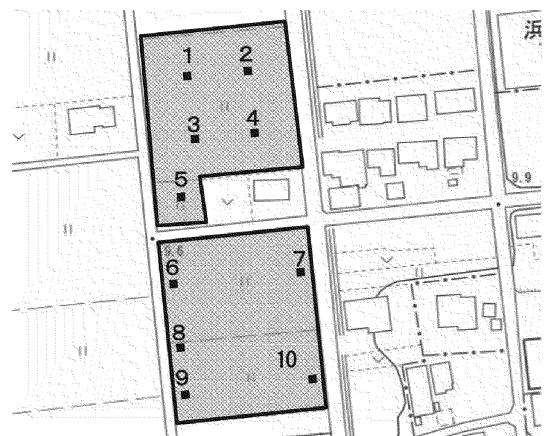
位置図 (2,500分の1)



平面図 (S=1/200) 及び土層柱状図 (S=1/40)

37 市野遺跡 8次 (いちのいせき)

所在地 東区市野町 903 外 9 筆
 調査期間 2018年11月19日
 調査原因 駐車場造成
 調査面積 40㎡
 検出遺構 なし
 出土遺物 弥生土器
 調査結果 対象の北側においては、遺物・遺構ともに確認できなかったため遺跡の範囲外と考えられる。南側においては、わずかに遺物確認できたため、遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)

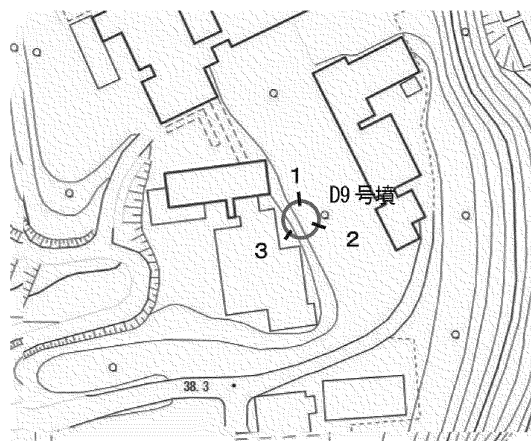


土層柱状図 (S=1/40)

38 半田山 CDEF 古墳群 15 次

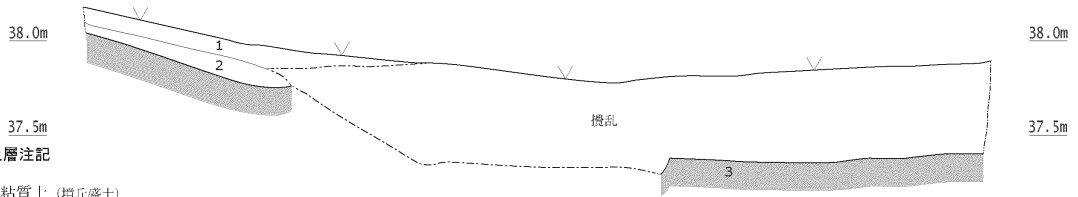
(はんだやましーでいーいーえふこふんぐん)

所在地 東区半田山一丁目 20 番 1 号
 調査期間 2018 年 11 月 21 日
 調査原因 校舎増築
 調査面積 13 m²
 検出遺構 古墳 (墳丘、周溝)
 出土遺物 なし
 調査結果 D9 号墳に関わる遺構は、大きく改変を受けているものの、東側は周溝が残存している。過去の調査を踏まえると、墳丘の規模は 13 m 程と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



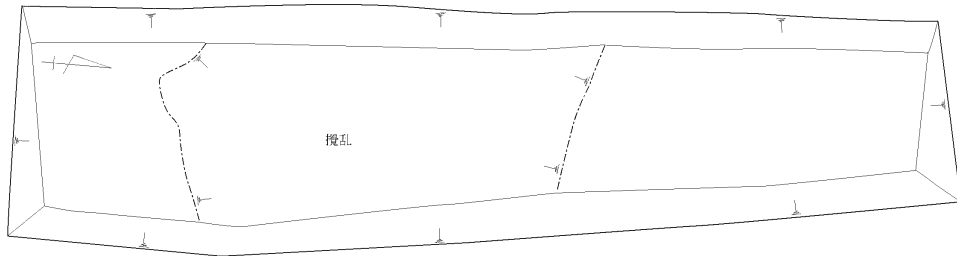
位置図 (2,500 分の 1)

調査溝 1

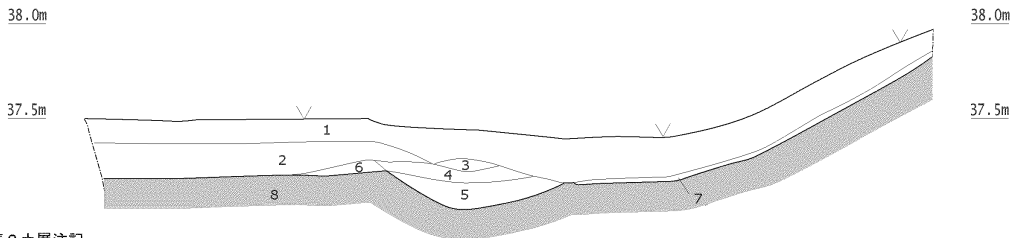


調査溝 1 土層注記

- 1 表土
- 2 暗褐色粘質土 (填丘盛土)
- 3 明褐色粘質土 (※3~5cm程度の礫を多く含む) (基盤層)

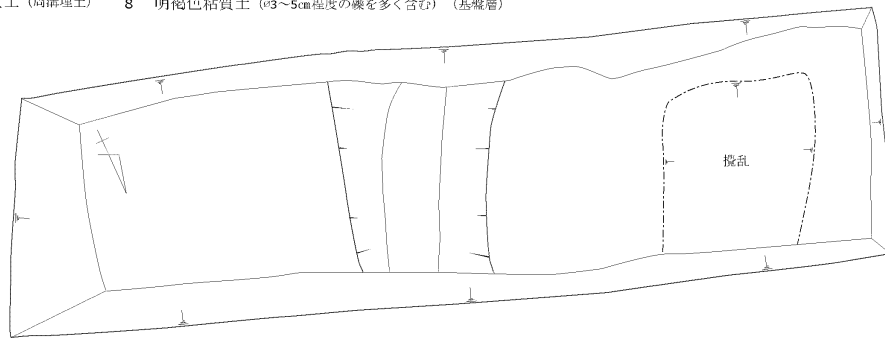


調査溝 2

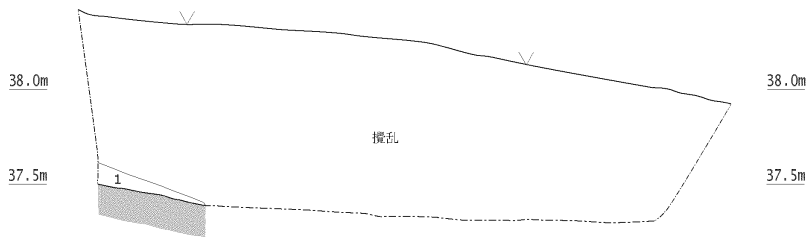


調査溝 2 土層注記

- 1 表土
- 2 灰褐色粘質土 (旧表土)
- 3 暗褐色粘質土 (填丘盛土)
- 4 黒灰色粘質土 (同溝埋土)
- 5 褐色粘質土 (同溝埋土)
- 6 暗褐色粘質土
- 7 暗褐色粘質土 (填丘盛土)
- 8 明褐色粘質土 (※3~5cm程度の礫を多く含む) (基盤層)

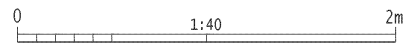
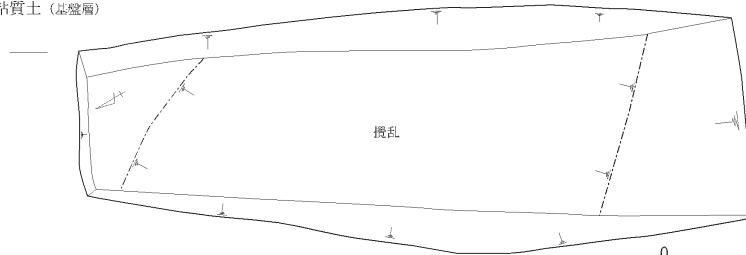


調査溝 3



調査溝 3 土層注記

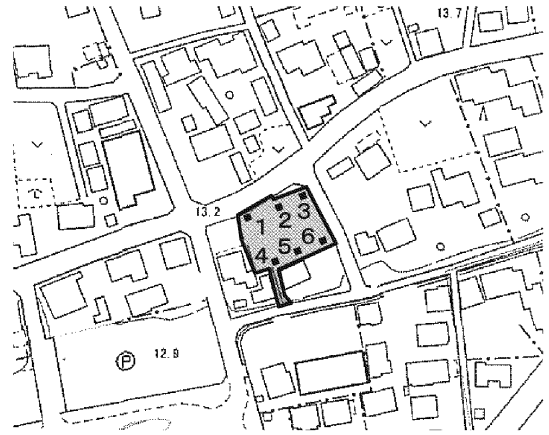
- 1 明褐色粘質土 (基盤層)



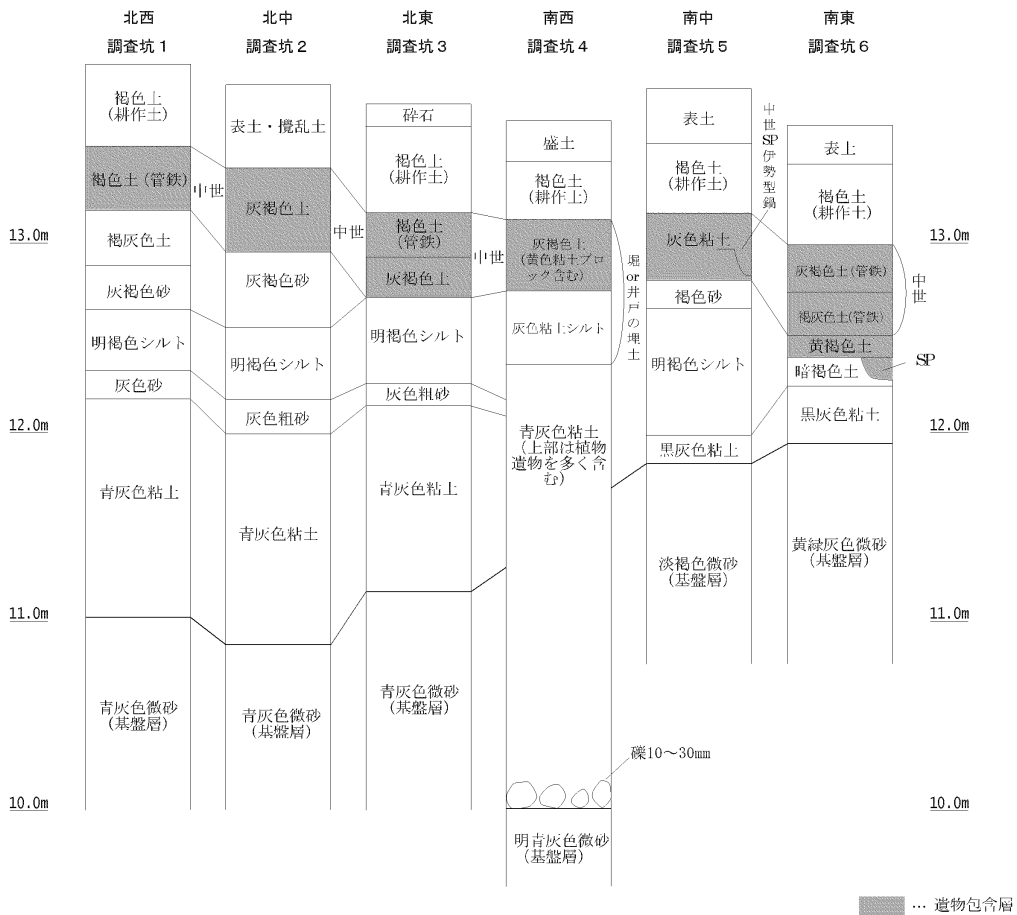
土層断面図及び平面図 (S=1/40)

39 恒武西宮遺跡 24 次(つねたけにしみやいせき)

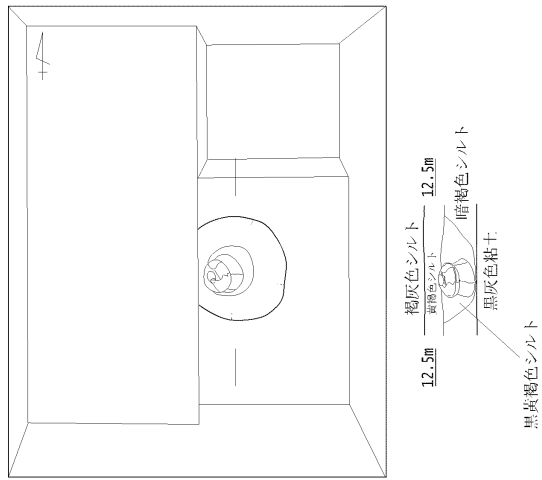
所在地 東区恒武町字蔵前 245 番 1 外 2 筆
調査期間 2018 年 11 月 26 日
調査原因 宅地分譲
調査面積 25 m²
検出遺構 小穴、堀 (あるいは大型の井戸)
出土遺物 古式土師器、須恵器、土師器、内耳鍋、羽釜、かわらけ
調査結果 古墳時代前期では、集落あるいは墓域の一角であったと考えられる、中世においても生活面と考えられる層が見られた。戦国期の集落も重なっているとみられる。
調査担当 鈴木敏則



位置図 (2,500 分の 1)



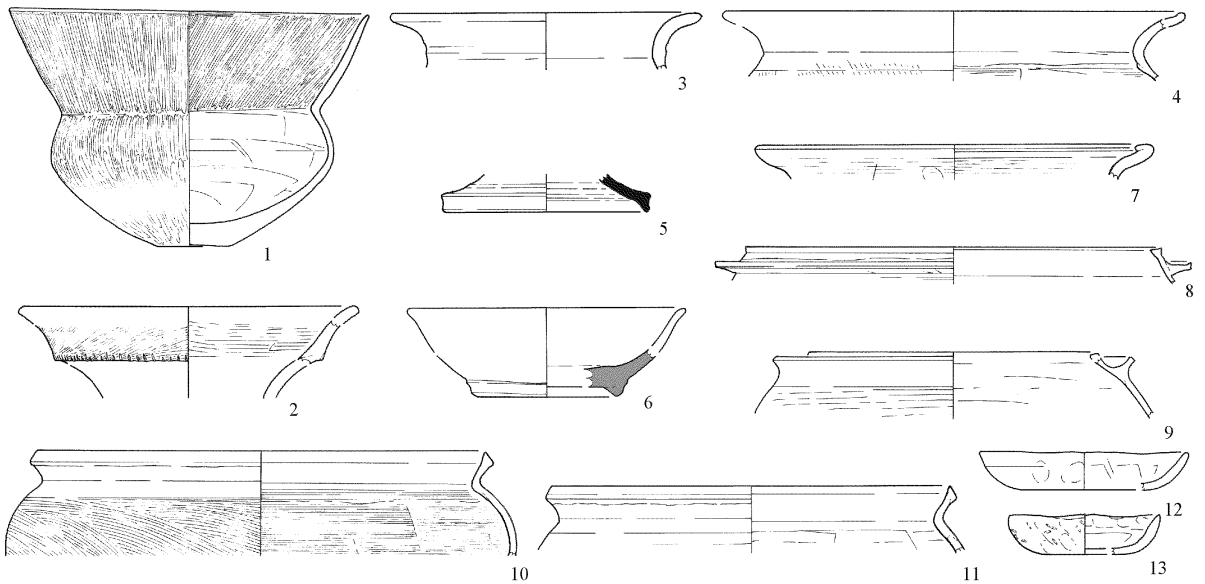
土層柱状図 (S=1/40)



土層断面図及び平面図 (S=1/50)



調査坑6 遺物出土状況



1: 古式土師器 (大型扁平埴) 2: 土師器 (二重口縁壺) 3・4: 土師器 (甕) 5: 須恵器 (高坏)
6: 中世陶器 (山茶碗) 7: 伊勢鍋 8・9: 羽付釜 10・11: 内耳鍋 12・13: かわらけ

出土遺物実測図 (S=1/4)



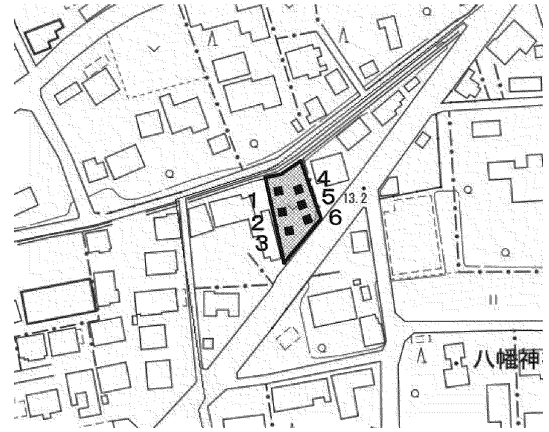
調査坑6 完掘状況



主な出土遺物

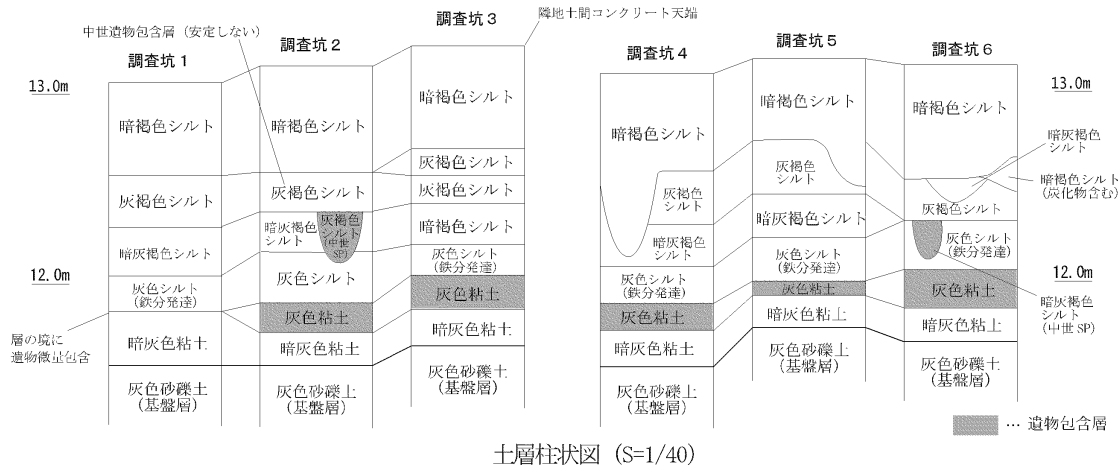
40 恒武西宮遺跡 25 次(つねたけにしみやいせき)

所在地 東区貴平町 1693 外 1 筆
調査期間 2018 年 11 月 28 日
調査原因 個人住宅建設
調査面積 14 m²
検出遺構 小穴
出土遺物 古式土師器、内耳鍋
調査結果 古墳時代前期の包含層が対象地内全域で認められた。近年の調査も踏まえると、集落が広範囲に展開していたと考えられる。一方戦国時代においては、敷地北側は希薄な地点と考えられる。

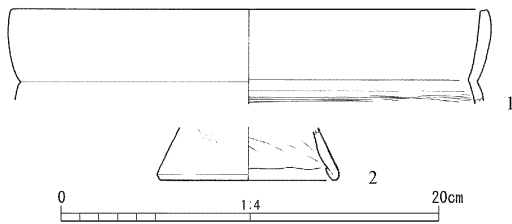


位置図 (2,500 分の 1)

調査担当 井口智博

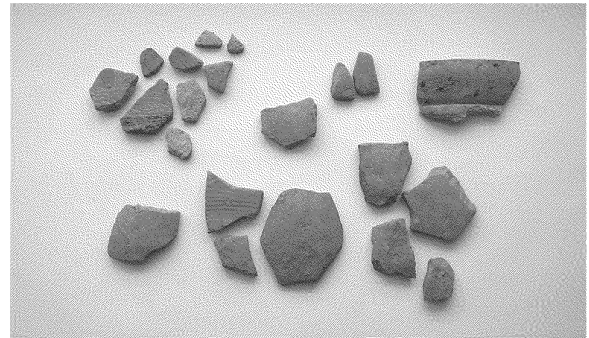


土層柱状図 (S=1/40)



1: 内耳鍋 2: 土師器 (台付甕)

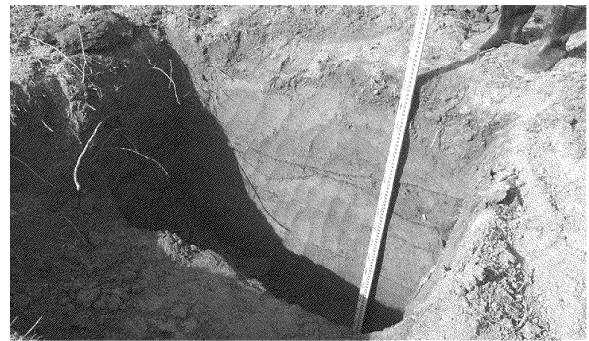
出土遺物実測図 (S=1/4)



主な出土遺物



調査坑 2 土層堆積状況



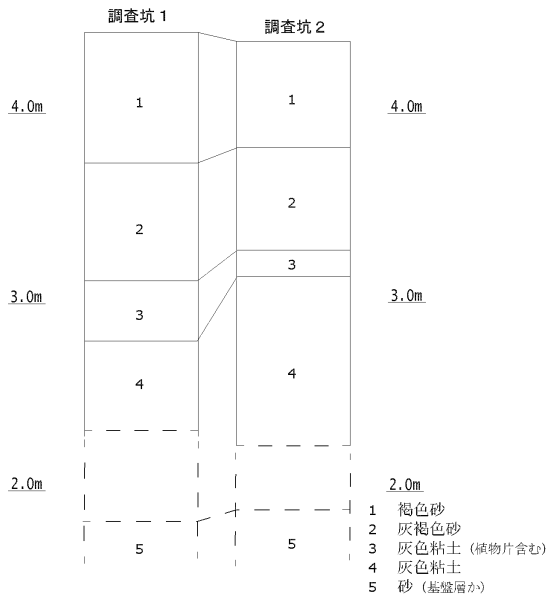
調査坑 6 土層堆積状況

41 椋木遺跡6次（むくぎいせき）

所在地 東区子安町 302-16、17
 調査期間 2018年12月3日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 4.5 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できず、低湿地帯の土層堆積状況が確認できたことから、かつては湿地環境であったと考えられる。
 調査担当 川西啓喜



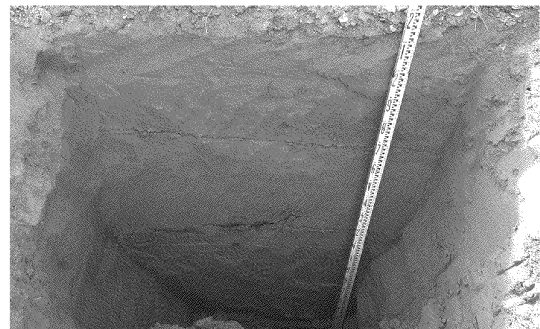
位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)



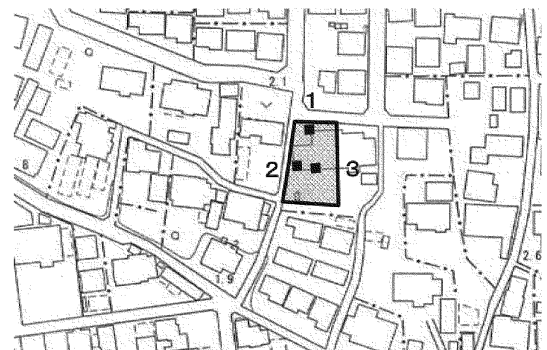
調査坑1完掘状況



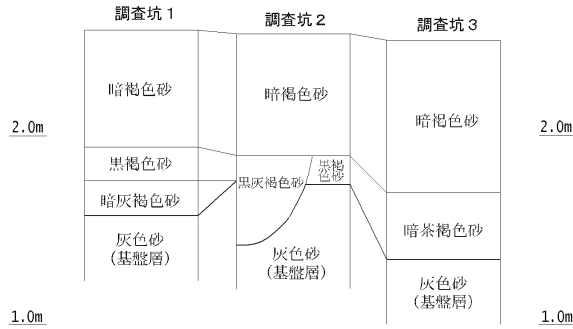
調査坑2土層堆積状況

42 坪井町新田北遺跡4次 (つばいちょうしんでんきたいせき)

所在地 西区坪井町 227-1
 調査期間 2018年12月3日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 12 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



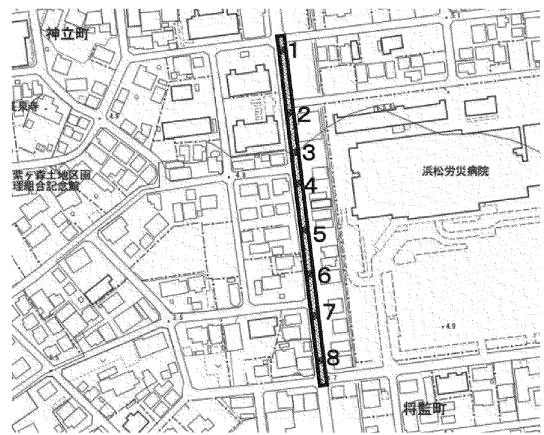
位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

43 将監名遺跡6次 (しょうげんみょういせき)

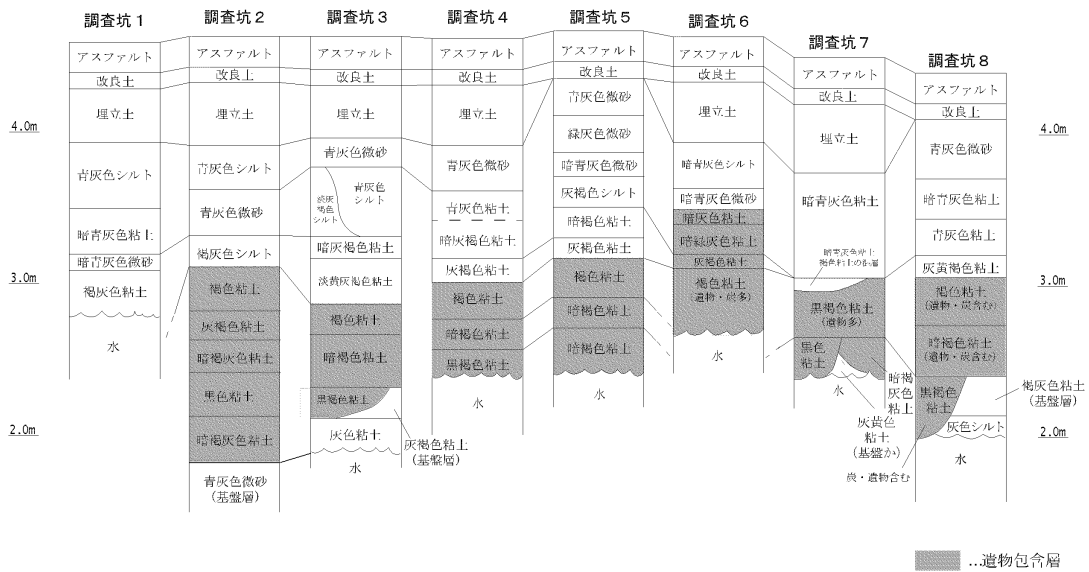
所在地 東区将監町地内
 調査期間 2018年12月5日、7日、10日、11日
 調査原因 水路改良
 調査面積 17 m²
 検出遺構 土坑
 出土遺物 弥生土器



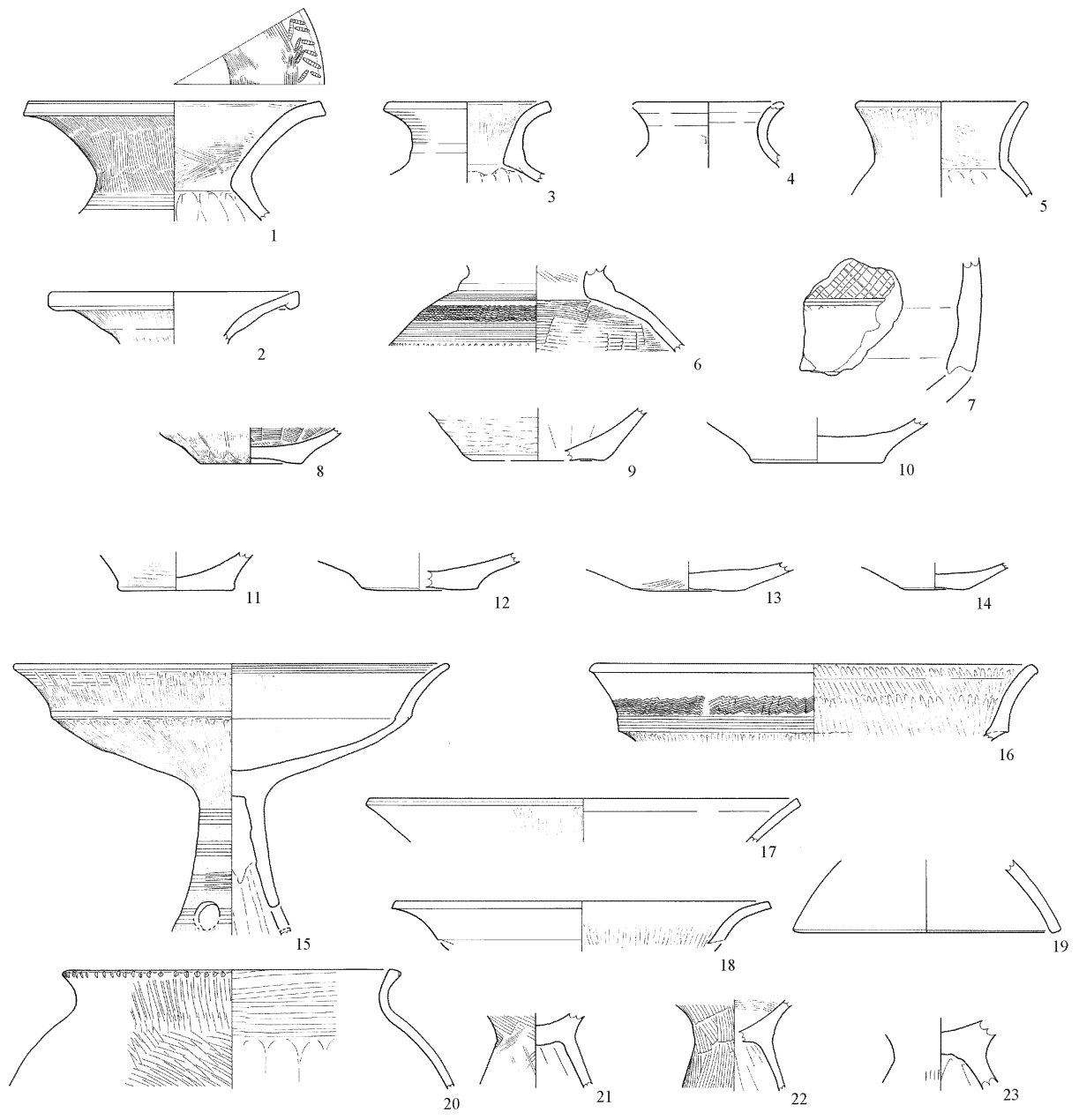
位置図 (5,000分の1)

調査結果 対象地のほぼ全面で遺物包含層と弥生時代の遺物が確認できたことから、従来の範囲より南側に遺跡が広がっていることが明らかになった。

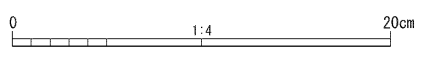
調査担当 鈴木京太郎



土層柱状図 (S=1/50)



1～4：弥生上器（甕） 5：弥生上器（鉢） 6～12：弥生上器（甕） 13・14：弥生土器（小型壺か鉢）
 15～19：弥生上器（高坏） 20～23：弥生上器（台付甕）



出土遺物実測図 (S=1/4)



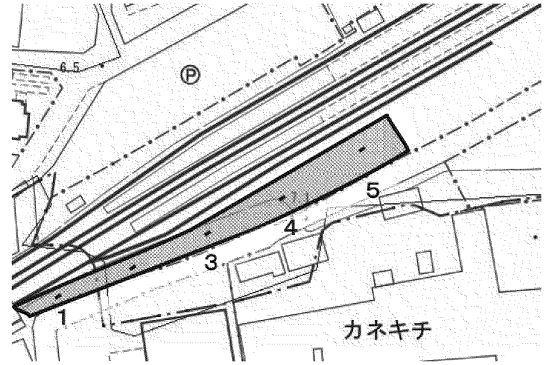
調査坑8土層堆積状況



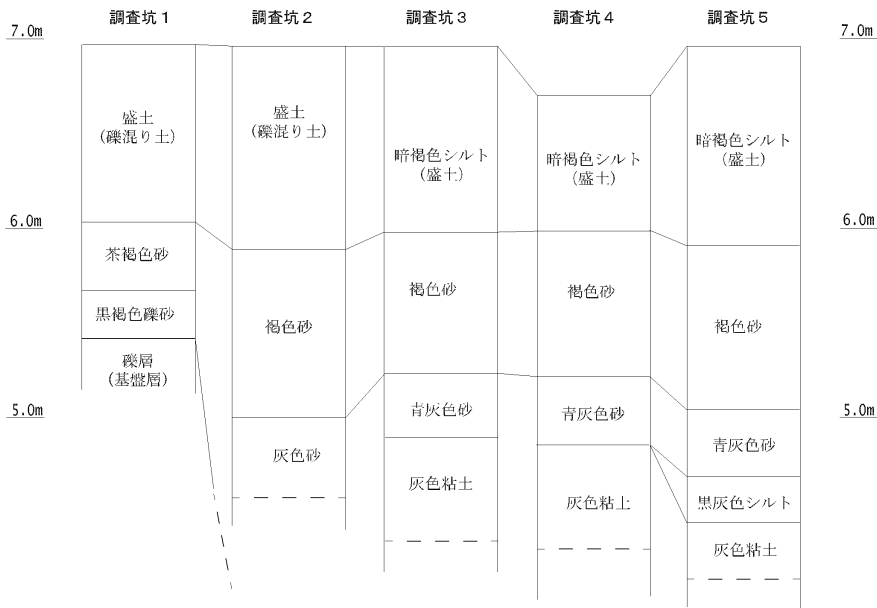
主な出土遺物

44 松東遺跡（隣接地） 8次
（まつひがしいせきりんせつち）

所在地 東区天竜川町 545-24
 調査期間 2018年12月25日
 調査原因 駅前広場整備
 調査面積 15 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 鈴木一有



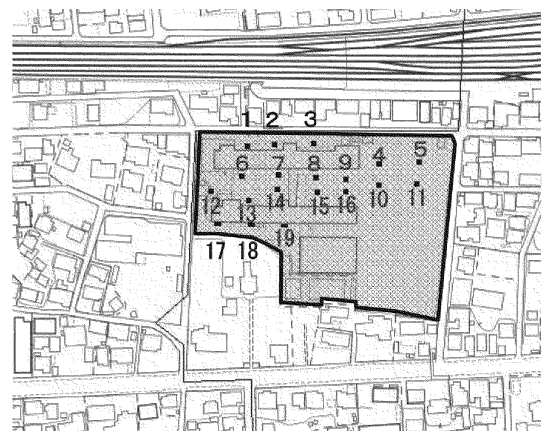
位置図 (2,500分の1)



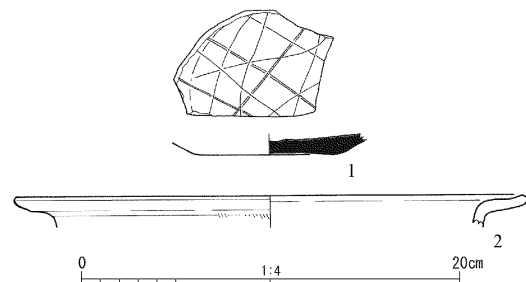
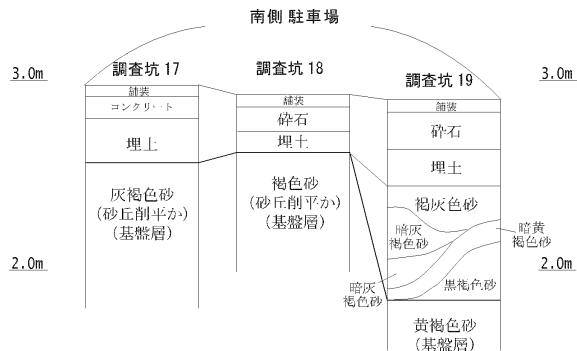
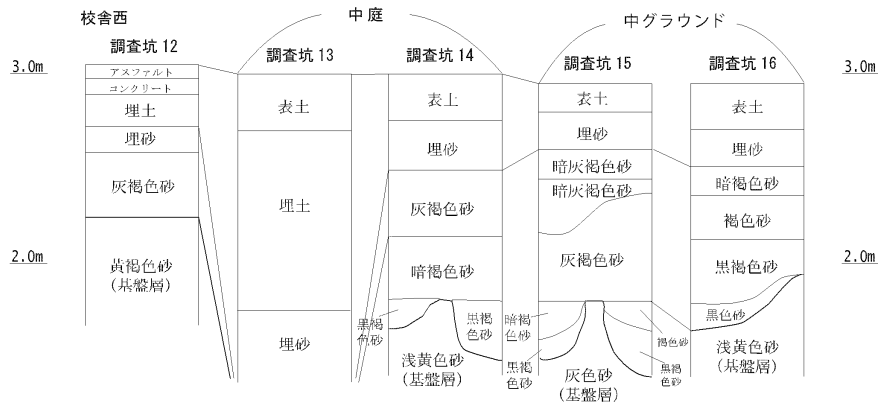
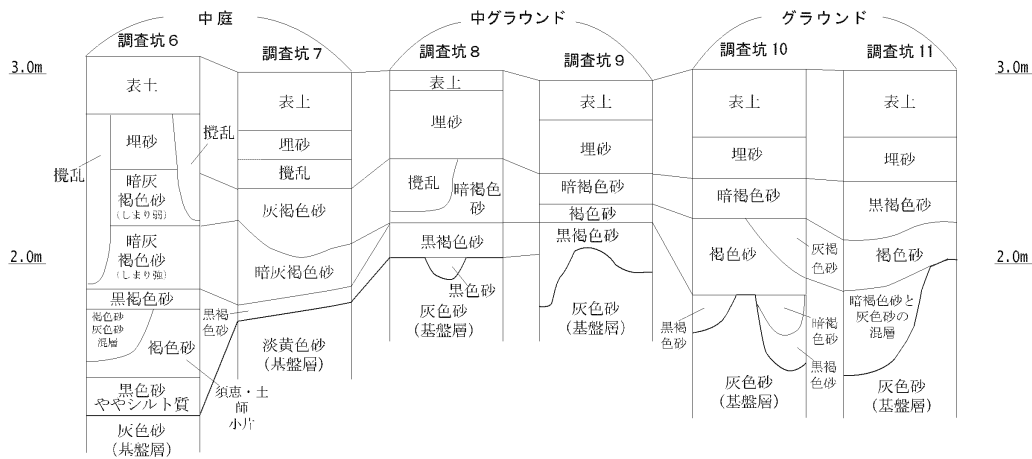
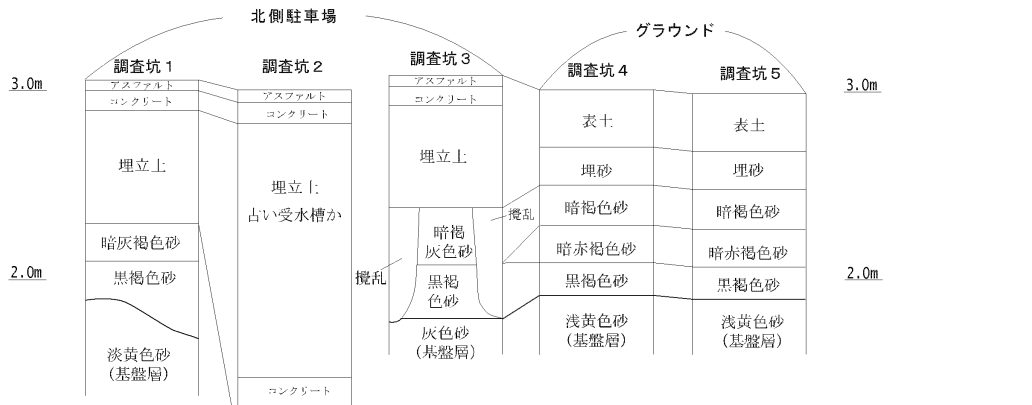
土層柱状図 (S=1/40)

45 増楽遺跡9次（ぞうらいせき）

所在地 南区若林町 1748
 調査期間 2018年12月25日、26日、
 2019年1月12日、13日
 調査原因 校舎建替 調査面積 63.5 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 須恵器、土師器、灰釉陶器
 調査結果 調査区域の大半が、遺物・遺構の希薄な地点とみられる。ただし、調査坑6は須恵器など遺物が数点確認されたことから、その周辺には注意を払う必要がある。
 調査担当 鈴木京太郎



位置図 (5,000分の1)



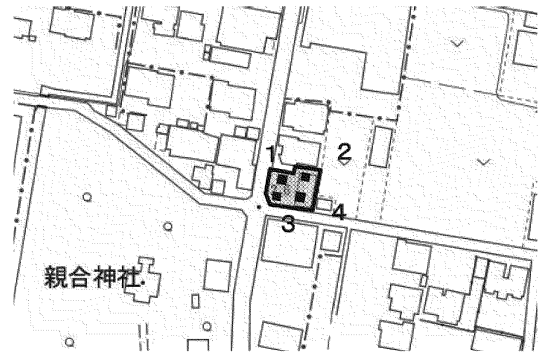
1: 須志器 (坏か碗) 2: 土師器 (長胴甕)

土層柱状図 (S=1/40)

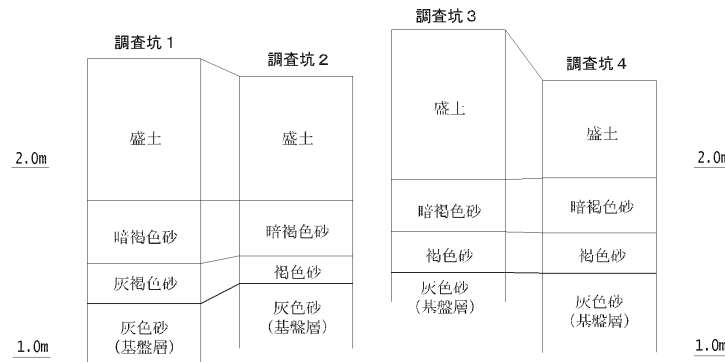
出土遺物実測図 (S=1/4)

46 新橋町村東遺跡 3次
(にっぱしちょうむらひがしいせき)

所在地 南区新橋町 1229-3
 調査期間 2018年12月26日
 調査原因 個人住宅建設
 調査面積 9 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 井口智博



位置図 (2,500分の1)



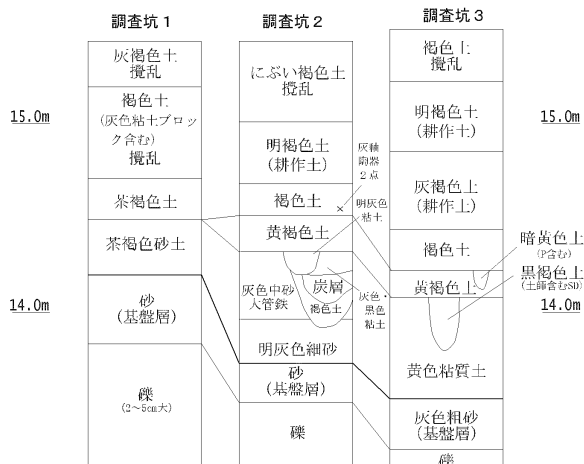
土層柱状図 (S=1/40)

47 笠井中組遺跡 4次 (かさいなかぐみいせき)

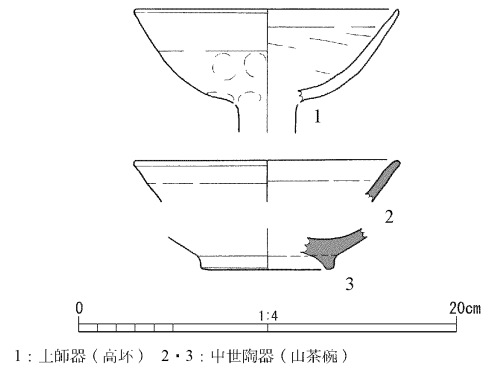
所在地 東区笠井町 508-1 外
 調査期間 2019年2月18日
 調査原因 汚染土除去 調査面積 11 m²
 検出遺構 溝、小穴、土坑
 出土遺物 土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗
 調査結果 全体としては古墳時代後期から鎌倉時代の遺跡の中にあると考えられる。
 調査担当 鈴木敏則



位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

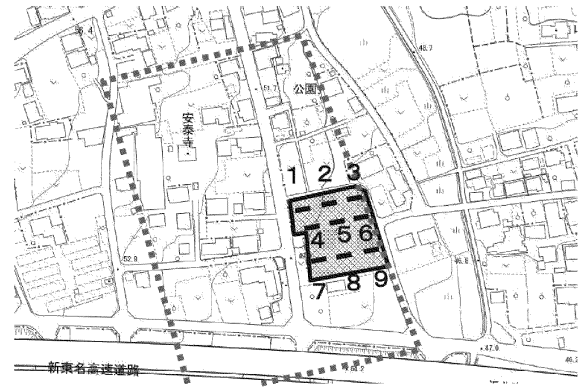


1: 土師器(高坏) 2・3: 中世陶器(山茶碗)

出土遺物実測図 (S=1/4)

48 中屋遺跡 14 次 (なかやいせき)

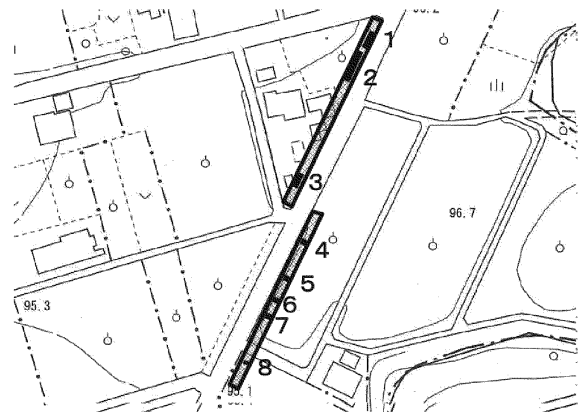
所在地 浜北区根堅字中屋 249-1
 調査期間 2019年2月26日～28日
 調査原因 宅地分譲 調査面積 74 m²
 検出遺構 溝(堀)、土坑、小穴
 出土遺物 山茶碗、かわらけ、瓦、中世陶器
 調査結果 遺物包含層は残存していないとみられるが、基盤層に掘りこまれた12世紀後半～13世紀前半頃の遺構を確認できた。詳細は第4章3(113頁)に掲載。
 調査担当 鈴木京太郎



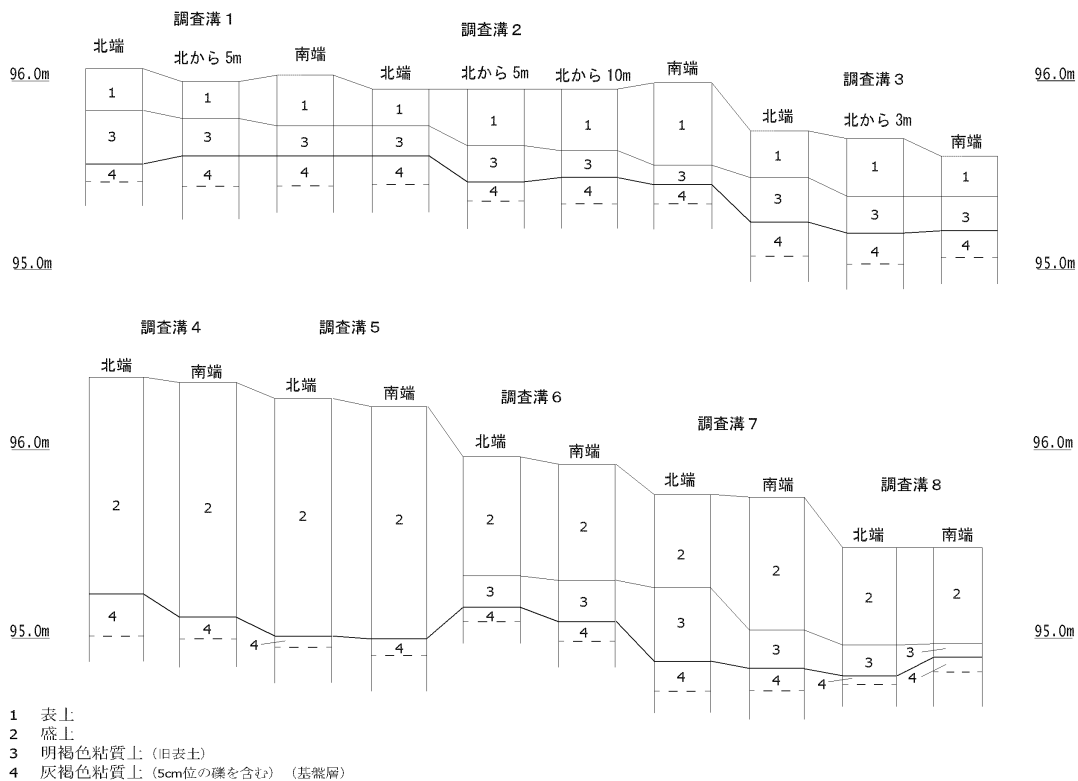
位置図 (5,000分の1)

49 都田山十一古墳群 1 次
 (みやこだやまじゅういちこふんぐん)

所在地 北区都田町地内
 調査期間 2019年3月8日、20日
 調査原因 道路改良 調査面積 35 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



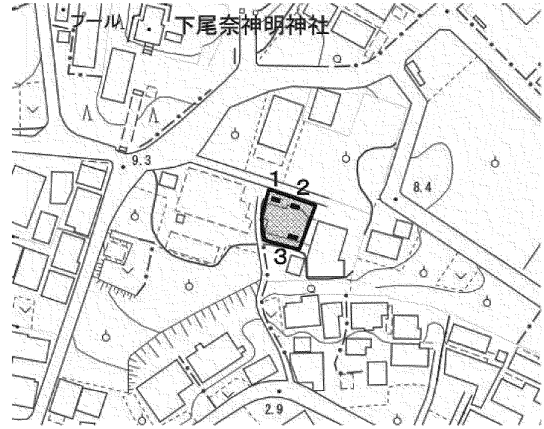
位置図 (2,500分の1)



土層柱状図 (S=1/40)

50 尾奈居館跡 2次 (おなきよかんあと)

所在地 北区三ヶ日町下尾奈 2796 番 1
 調査期間 2019年3月13日
 調査原因 個人住宅建設 調査面積 13.5 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 調査対象地の北側は現代の削土により旧地形は消滅していた。南側の調査溝では、遺構・遺物ともに確認できなかったため、遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)

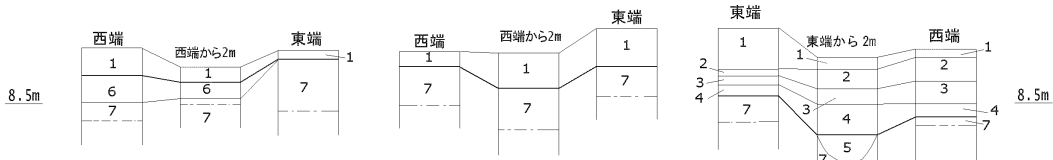
9.0m

9.0m

調査溝 1

調査溝 2

調査溝 3

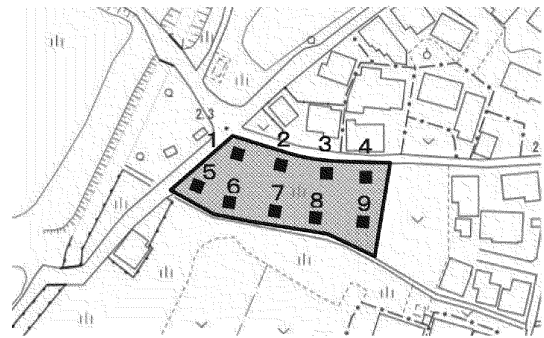


- 1 表土
- 2 褐色砂
- 3 黒灰色砂礫土
- 4 灰褐色シルト
- 5 暗灰色シルト (SD01埋土)
- 6 赤黄褐色シルト (基盤層)
- 7 灰黄褐色シルト (基盤層)

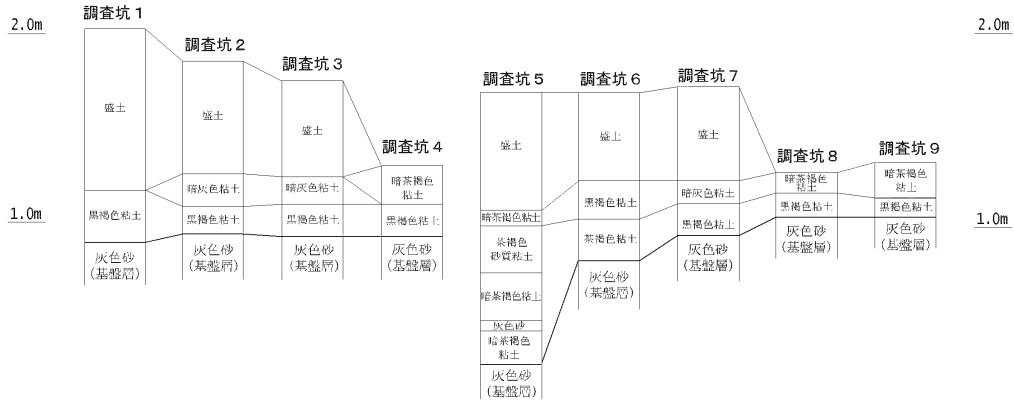
土層柱状図 (S=1/20)

51 国方遺跡 8次 (くにがたいせき)

所在地 西区篠原町 9666 外
 調査期間 2019年3月18日
 調査原因 宅地造成 調査面積 36 m²
 検出遺構 なし 出土遺物 なし
 調査結果 遺構・遺物ともに確認できず、地形的な観点からも遺跡の範囲外と考えられる。
 調査担当 井口智博



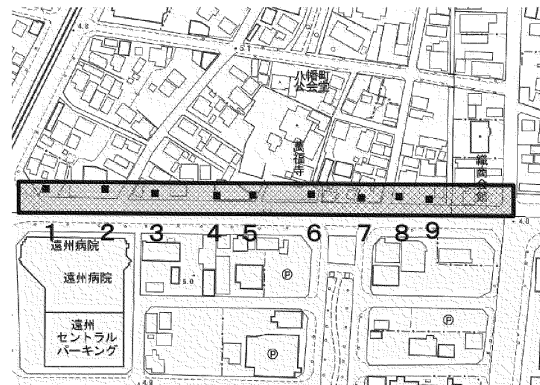
位置図 (2,500分の1)



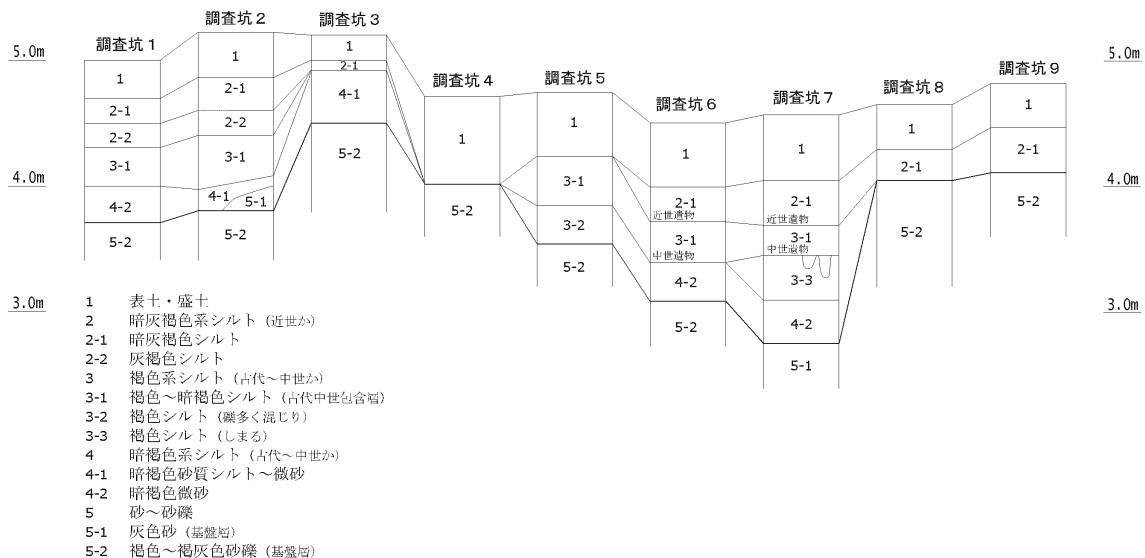
土層柱状図 (S=1/40)

52 浜松城下町遺跡 10次
(はままつじょうかまちいせき)

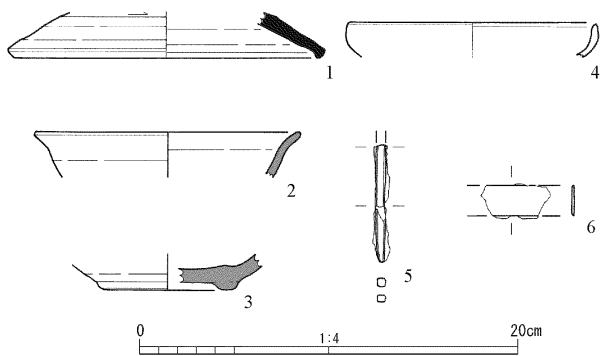
所在地 中区野口町地内
調査期間 2019年3月18日、19日
調査原因 道路改良
調査面積 36㎡
検出遺構 なし
出土遺物 須恵器、土師器、山茶碗、天目茶碗、土師質土器など
調査結果 全体的に遺構は希薄であったが、調査坑6・7を中心に遺物を確認することができた。調査坑1～3でも、少量ながら遺物が見られた。遺物を一定量出土した箇所については今後の開発行為との調整に留意する必要がある。
調査担当 鈴木京太郎



位置図 (5,000分の1)



土層柱状図 (S=1/60)



1: 須恵器 (摘付坏蓋) 2・3: 中世陶器 (山茶碗) 4: かわらけ
5: 鉄器 (剣か) 6: 鉄器 (不明)

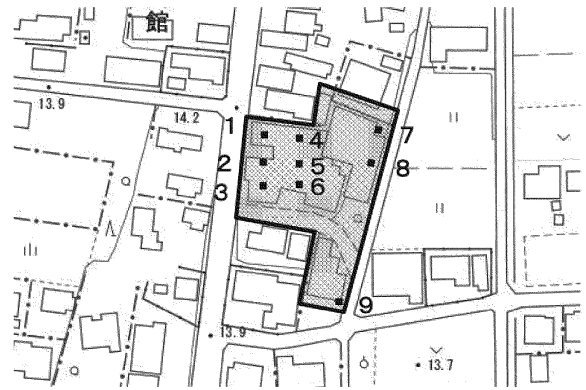
出土遺物実測図 (S=1/4)



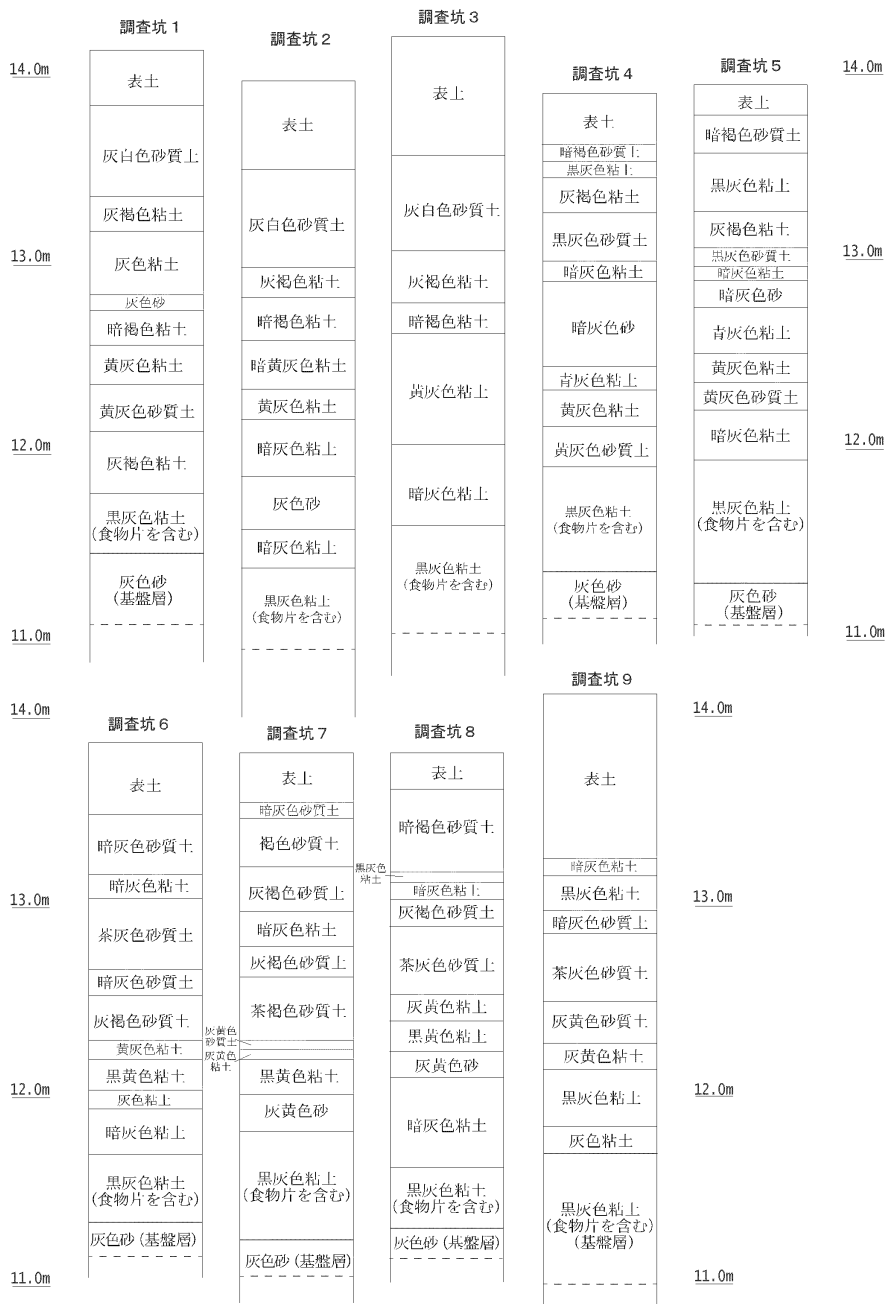
調査坑7 土層堆積状況

53 笠井東遺跡2次 (かさいひがしいせき)

所在地 東区恒武町 490 番地
 調査期間 2019年3月26日
 調査原因 集合住宅建設
 調査面積 34.25 m²
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 調査結果 遺物・遺構ともに確認できなかった。遺跡内の希薄地点と考えられる。
 調査担当 川西啓喜



位置図 (2,500分の1)

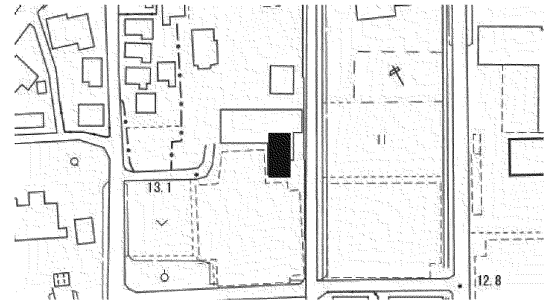


土層柱状図 (S=1/40)

工事立会報告

1 恒武西宮遺跡 (つねたけにしみやいせき)

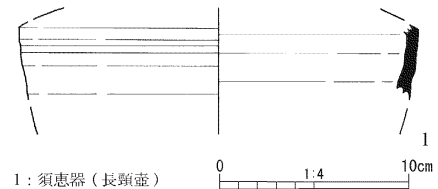
所在地 東区貴平町 1660-3
立会日 2018年4月5日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 土壌ほか
出土遺物 須恵器、土師器
立会結果 竪穴式住居跡の可能性あり。集落域内。



位置図 (2,500分の1)



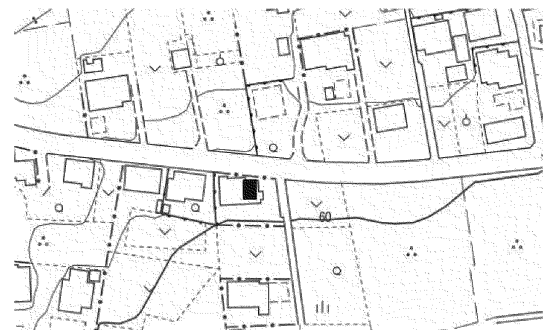
立会箇所調査状況



出土遺物実測図 (S=1/4)

2 大屋敷遺跡 (おおやしきいせき)

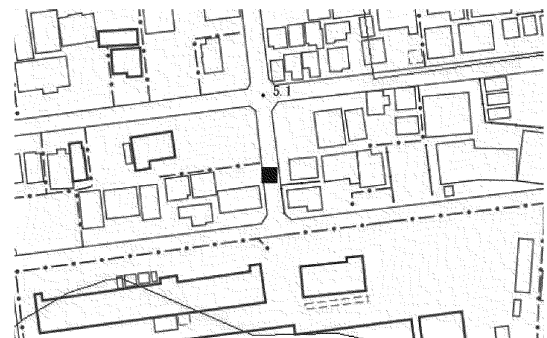
所在地 浜北区宮口 147-12
立会日 2018年4月9日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

3 将監名遺跡 (しょうげんみょういせき)

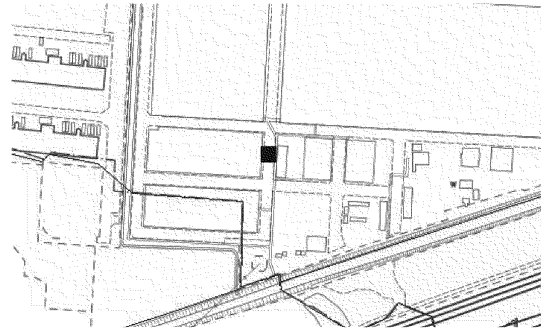
所在地 東区神立町 119-16
立会日 2018年4月23日
調査原因 ガス管理設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 微高地性の堆積層がみとめられたが、
遺物が出土していないため年代は不明。



位置図 (2,500分の1)

4 梶子遺跡 (かじこいせき)

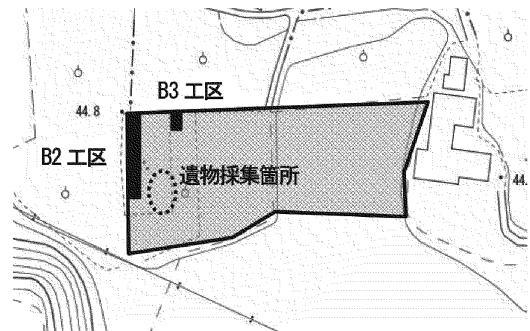
所在地 中区南伊場町 33-1 外
立会日 2018年5月11日
調査原因 雨水管理設
検出遺構 なし
出土遺物 弥生土器、土師器
立会結果 遺構・遺物の希薄な地点と考えられる。



位置図 (5,000分の1)

5 老ヶ谷遺跡 (おいがやいせき)

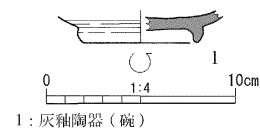
所在地 北区細江町気賀 2227-1 外
立会日 2018年5月18日、6月14日
調査原因 太陽光発電施設建設
検出遺構 なし
出土遺物 須恵器、灰釉陶器
立会結果 B2工区・B3工区共に遺物は確認できなかったが、工事範囲内からは遺物を少量採取した。遺跡の中心は工事範囲外にあると考えられる。



位置図 (2,500分の1)



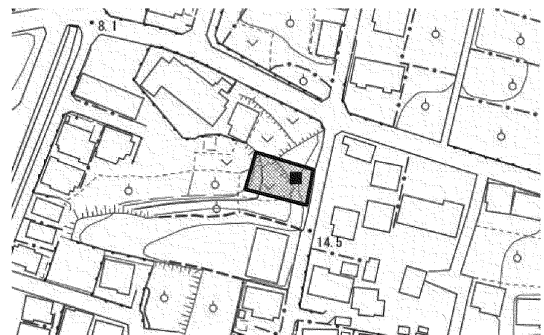
B2工区全景 (北から)



出土遺物実測図 (S=1/4)

6 石岡遺跡 (いしおかいせき)

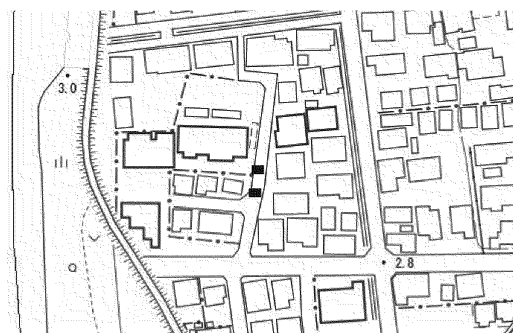
所在地 北区細江町三和 219-3 外
立会日 2018年5月29日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

7 大橋前遺跡 (おおはしまえいせき)

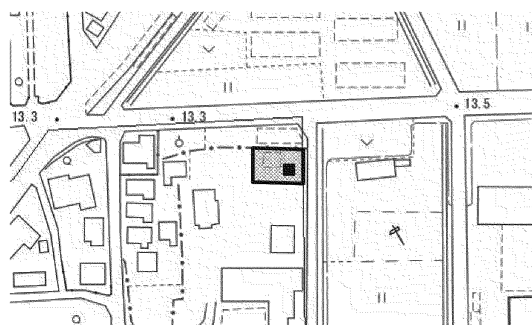
所在地 南区芳川町 883-1
立会日 2018年6月1日
調査原因 ガス管理設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 掘削深度が浅く、遺跡の有無にかかわる情報は得られなかった。



位置図 (2,500分の1)

8 恒武西宮遺跡 (つねたけにしみやいせき)

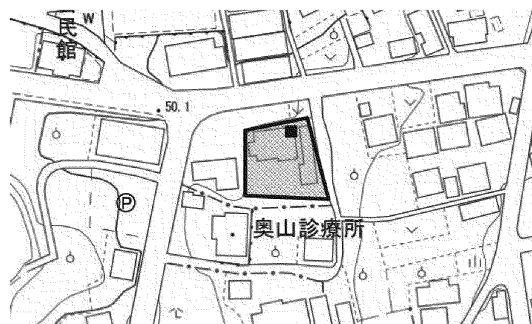
所在地 東区貴平町 1663
立会日 2018年6月4日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 井戸
出土遺物 須恵器、土師器、中世陶器
立会結果 大型の井戸(あるいは堀)を確認。覆土からは中世陶器甕(鉄釉)が出土。



位置図 (2,500分の1)

9 中村遺跡 (なかむらいせき)

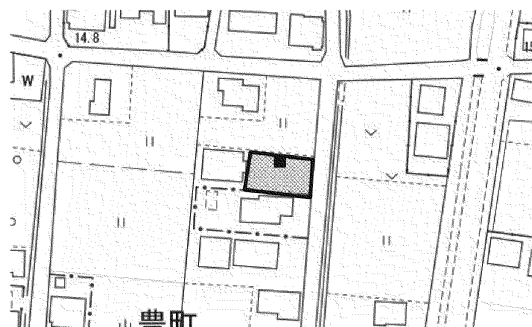
所在地 北区引佐町奥山 304
立会日 2018年6月5日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

10 八ツ面遺跡 (やつめんいせき)

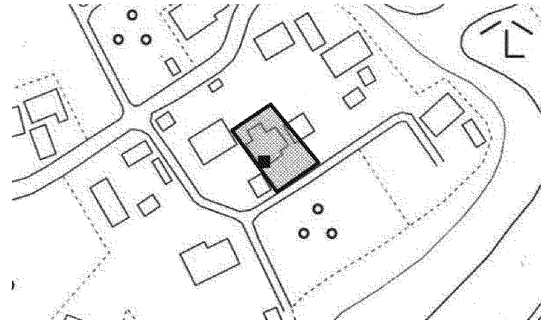
所在地 東区豊町 2810-2
立会日 2018年6月6日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

11 上界土遺跡 (かみかいといせき)

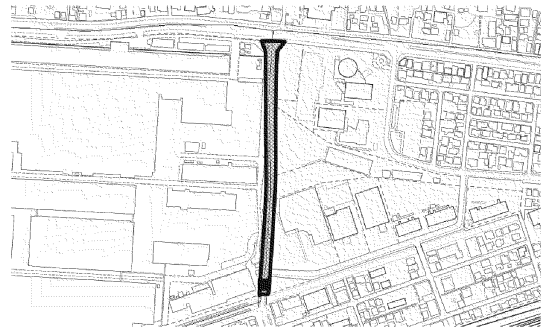
所在地 天竜区青谷 150-1
立会日 2018年6月28日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 小穴 (時期不明)
出土遺物 なし
立会結果 時期不明の小穴を1基検出したが、遺物は全く出土しなかった。



位置図 (2,500分の1)

12 梶子遺跡 (かじこいせき)

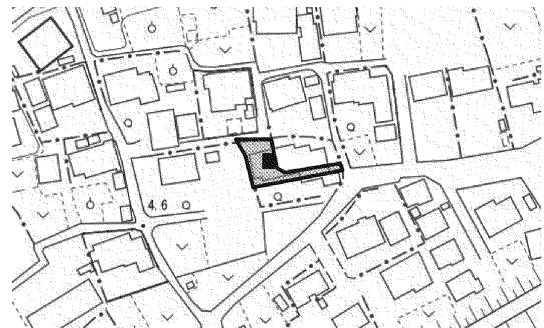
所在地 中区東伊場 2丁目 14-1 付近
立会日 2018年7月3日
調査原因 上水道管敷設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 地下は掘削済みの箇所であり、埋蔵文化財の残存状況は確認できなかった。



位置図 (10,000分の1)

13 祝田遺跡 (ほうだいせき)

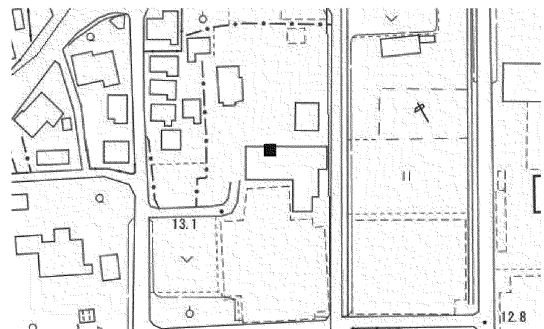
所在地 北区細江町中川 1638-1
立会日 2018年7月4日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 溝か
出土遺物 土師器、灰釉陶器、山茶碗
立会結果 古墳時代中期の遺物を包含した暗灰褐色砂質粘土の堆積を確認し、遺構と思われる掘り込みを確認した。



位置図 (2,500分の1)

14 恒武西宮遺跡 (つねたけにしみやいせき)

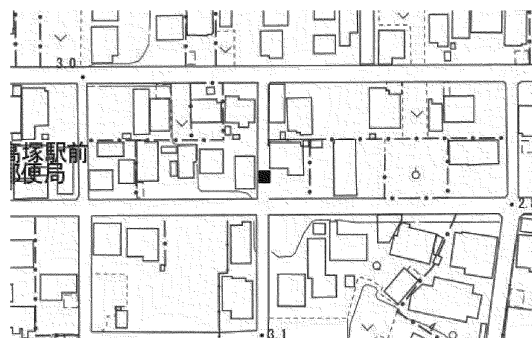
所在地 東区貴平町 1660-4 外
立会日 2018年7月5日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 古式土師器、土師器
立会結果 近隣地の立会箇所でも遺物を確認しており、遺跡の範囲内と判断される。



位置図 (2,500分の1)

15 八王遺跡 (はちおういせき)

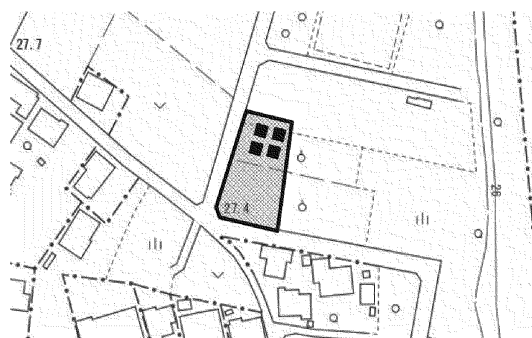
所在地 南区高塚町 130-2
 立会日 2018年7月5日
 調査原因 ガス管敷設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

16 東原遺跡 (ひがしばらいせき)

所在地 浜北区新原 5141-1
 立会日 2018年7月9日
 調査原因 カーポート設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

17 熱田平遺跡 (あつたひらいせき)

所在地 北区都田町 5563-54 外
 立会日 2018年7月12日
 調査原因 建物解体
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

18 浜松城跡 25次 (はまつじょうあと)

所在地 中区元城町
 立会日 2018年7月18日、8月30日
 調査原因 水道管敷設
 検出遺構 なし
 出土遺物 トチン、サヤ (窯道具)、播鉢
 立会結果 深さ1mほどの部分に近世から近代の遺物がまるとまって出土した。



位置図 (2,500分の1)

GL±0m	立会箇所 1	立会箇所 2	GL±0m
	コンクリート	コンクリート	
	砕石	砕石	
	埋土 (黄褐色粘土)	埋土 (黄褐色粘土)	
GL-1.0m			GL-1.0m

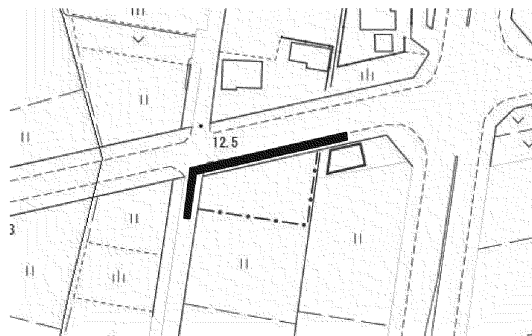
土層柱状図 (S=1/40)



出土遺物実測図 (S=1/4)

19 恒武西宮遺跡 (つねたけにしみやいせき)

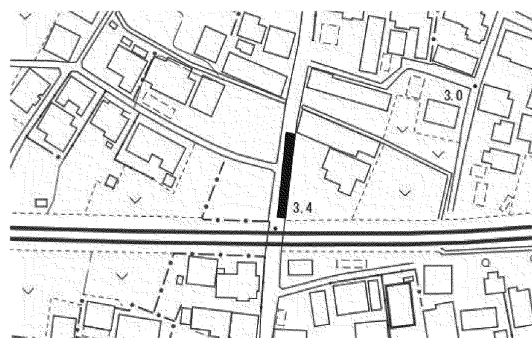
所在地 東区恒武町 161-1 付近
立会日 2018年7月19日
調査原因 上水道管敷設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

20 国方遺跡 (くにがたいせき)

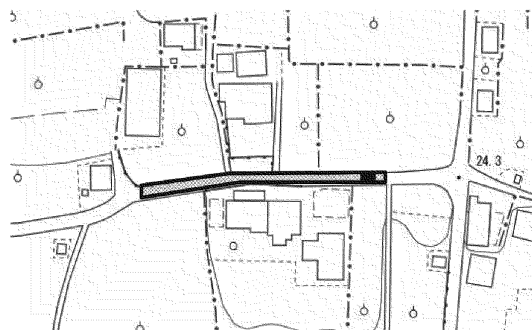
所在地 西区篠原町地内
立会日 2018年7月25日
調査原因 道路側溝改良工事
検出遺構 なし
出土遺物 土師器細片
立会結果 遺構・遺物が希薄な箇所とみられる。



位置図 (2,500分の1)

21 日比沢城跡 (ひびさわじょうあと)

所在地 北区三ヶ日町日比沢地内
立会日 2018年7月27日
調査原因 上水道管敷設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

22 隋国遺跡 (ずいこくいせき)

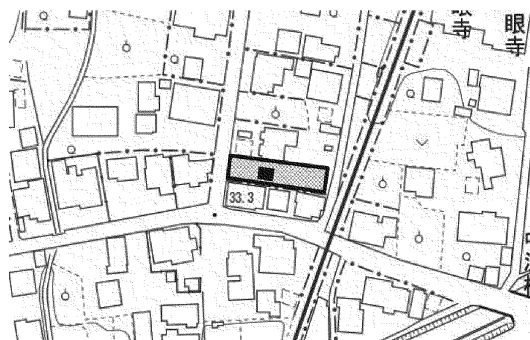
所在地 東区笠井上町 278-4
立会日 2018年7月31日
調査原因 上水道管敷設
検出遺構 なし
出土遺物 土師器小片
立会結果 遺跡内ではあるが、希薄な地点と考えられる。



位置図 (2,500分の1)

23 芝本遺跡（しばもといせき）

所在地 浜北区於呂 2918
立会日 2018年8月3日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

24 番剛寺遺跡（ばんごうじいせき）

所在地 北区三ヶ日町三ヶ日
立会日 2018年8月8日
調査原因 排水管改良工事
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

25 浜松城跡（はまつじょうあと）

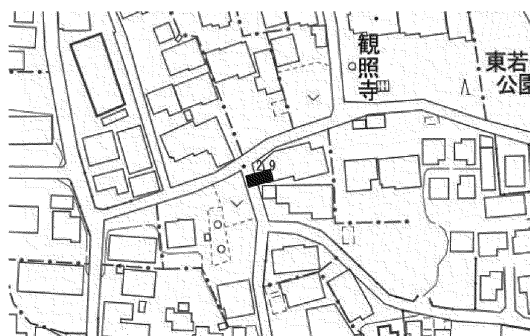
所在地 中区松城町 214-2
立会日 2018年9月5日、11月20日
調査原因 駐車場整備
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

26 村裏遺跡（むらうらいせき）

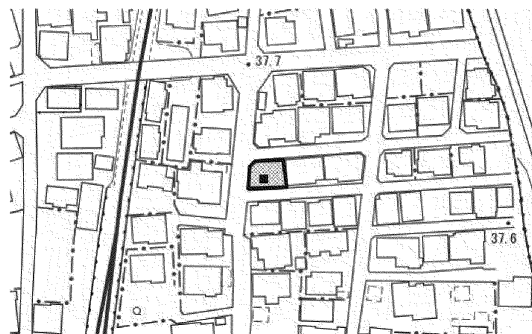
所在地 南区東若林町 1186-3
立会日 2018年9月7日
調査原因 ガス管敷設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図（2,500分の1）

27 芝本遺跡 (しばもといせき)

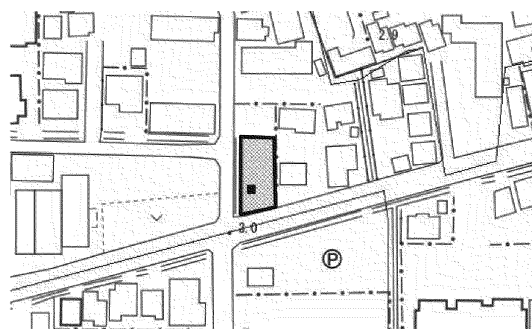
所在地 浜北区於呂 2827-105
立会日 2018年9月7日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

28 海東遺跡 (かいとういせき)

所在地 南区参野町 376-5
立会日 2018年9月14日
調査原因 住宅新設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 掘削深度が浅く、遺跡の有無にかかわる情報は得られなかった。



位置図 (2,500分の1)

29 中屋遺跡 (なかやいせき)

所在地 浜北区根堅 225-2 外
立会日 2018年9月14日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 堀の一部(東縁)か
出土遺物 なし
立会結果 堀の一部の可能性のある規模の大きな掘り込み(鎌倉時代か)を部分的に確認した。



位置図 (2,500分の1)

30 大島遺跡 (おおしまいせき)

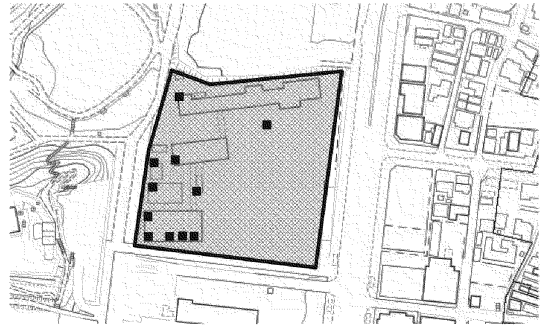
所在地 南区高塚町地内
立会日 2018年9月18日、10月2日
調査原因 ガス管敷設
検出遺構 地形の落ち込み
出土遺物 土師質土器の細片
立会結果 地形の落ち込みは観察されたものの明確に遺構とは判断できない。



位置図 (2,500分の1)

31 浜松城跡 (はままつじょうあと)

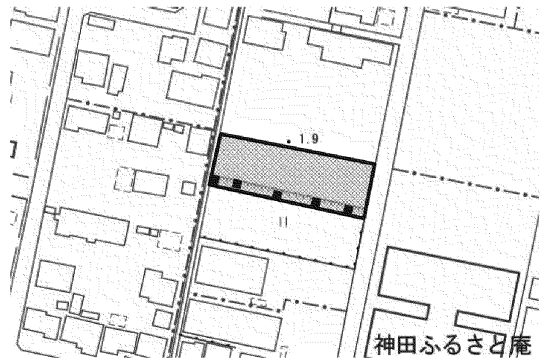
所在地 中区元城町地内
 立会日 2018年9月18日、11月19日、12月4日、18日、25～27日、2019年1月11日
 調査原因 既設校舎解体
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 建物建設時の大規模な造成により、基盤層が確認できない箇所があった。



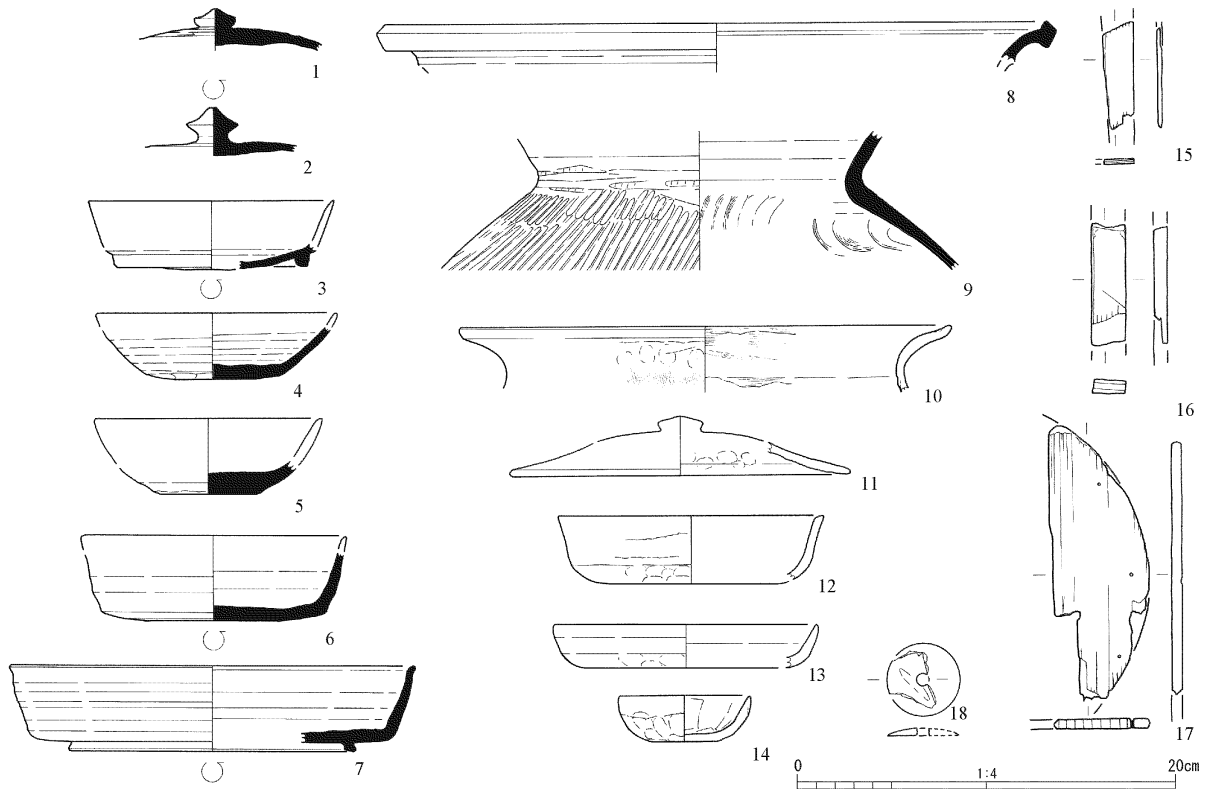
位置図 (5,000分の1)

32 鳥居松遺跡 11次 (とりいまついせき)

所在地 中区神田町472
 立会日 2018年10月9日
 調査原因 擁壁工事
 検出遺構 伊場大溝 (奈良時代)
 出土遺物 土師器、須恵器、木製品、骨角器
 立会結果 9次調査で検出された伊場大溝の延長が、今回の調査区でも確認された。当該地周辺まで、敷智郡家関連施設が存在していた可能性が高い。



位置図 (2,500分の1)

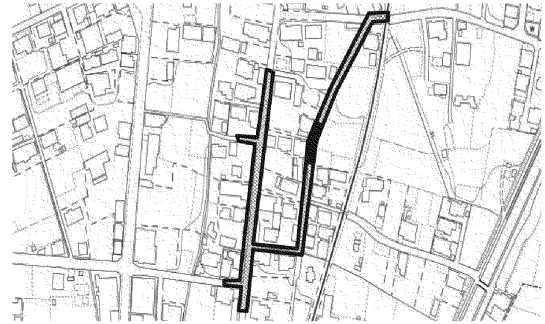


1・2: 須恵器 (坏蓋) 3: 須恵器 (有台坏身) 4・5: 須恵器 (無台碗) 6: 須恵器 (箱坏) 7: 須恵器 (有台箱坏) 8・9: 須恵器 (甕) 10: 土師器 (甕)
 11: 土師器 (坏蓋) 12: 土師器 (坏身) 13: 土師器 (皿) 14: 土師器 (手づくね碗) 15: 木製品 16: 木製品 (加工角棒) 17: 木製品 (クレンジコ曲物底板)
 18: 骨製品 (骨製紡錘車)

出土遺物実測図 (S=1/4)

33 芝本遺跡（しばもといせき）

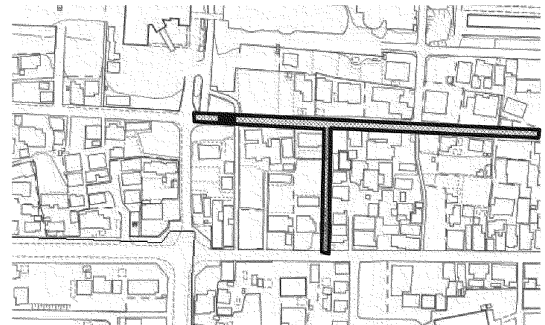
所在地 浜北区於呂地内
立会日 2018年10月11日
調査原因 配水管敷設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (5,000分の1)

34 井伊谷遺跡（いいのやいせき）

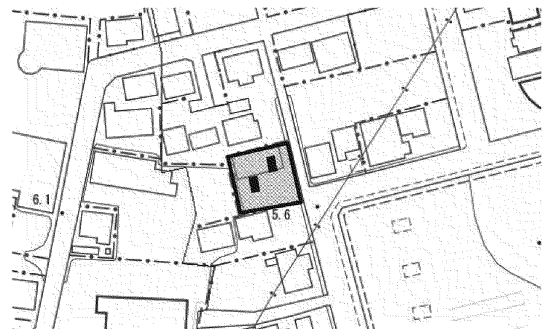
所在地 北区引佐町井伊谷地内
立会日 2018年10月18日
調査原因 配水管敷設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (5,000分の1)

35 山の神遺跡（やまのかみいせき）

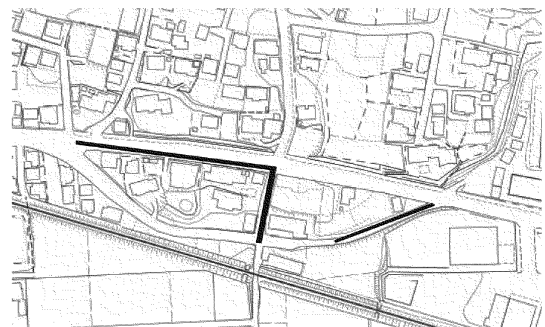
所在地 東区和田町826-4 外
立会日 2018年10月19日
調査原因 既存建物撤去
検出遺構 なし
出土遺物 弥生土器
立会結果 遺構の有無にかかわる情報は得られなかった。



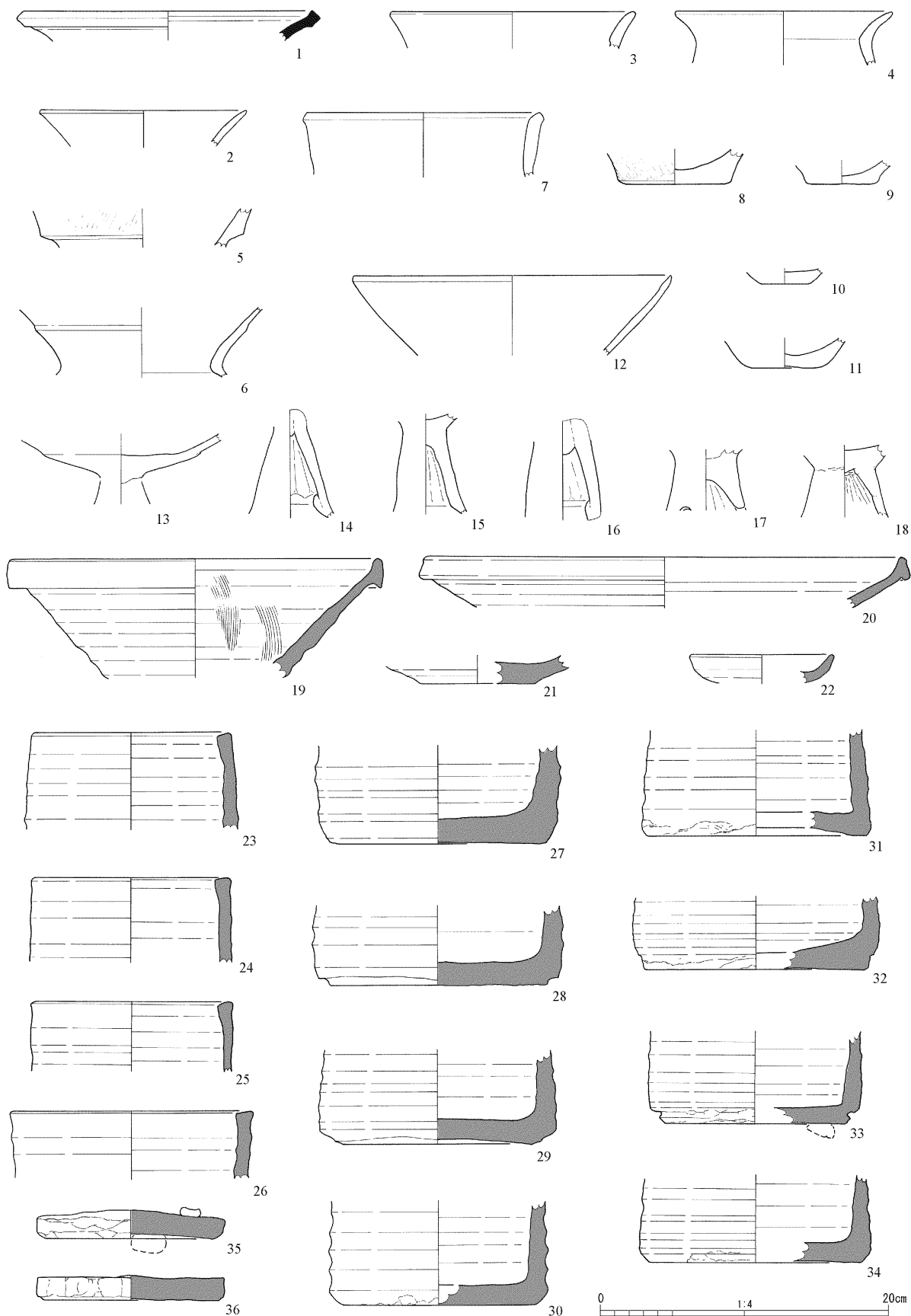
位置図 (2,500分の1)

36 釜下古窯跡2次・南屋敷遺跡1次(隣接地) (かましたこようあと・みなみやしきいせき)

所在地 北区細江町三和地内
立会日 2018年10月19日～2019年2月4日
調査原因 下水道配管工事
検出遺構 なし
出土遺物 土師器（古墳時代中期）、初山焼
立会結果 古墳時代の土師器は廃棄または流れ込みと考えられる。初山焼は灰原の存在をうかがうことはできなかった。



位置図 (5,000分の1)



1:須恵器(広口壺) 2:土師器(小型壺) 3:土師器(鉢か甕) 4:土師器(鉢) 5・6:土師器(二重口縁壺) 7・8:土師器(鉢か) 9・10:土師器(小型壺)
 11:土師器(鉢か) 12~18:土師器(高坏) 19~21:擂鉢(初山焼) 22:陶器(初山焼) 23~34:匣鉢(初山焼) 35・36:トチン(初山焼)

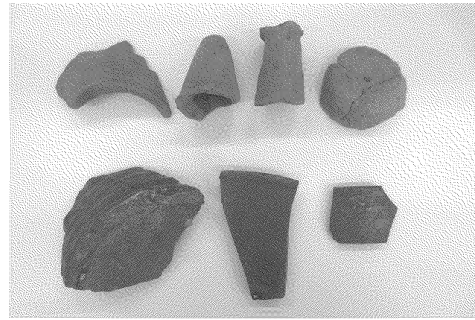
出土遺物実測図 (S=1/4)



釜下古窯跡土層堆積状況



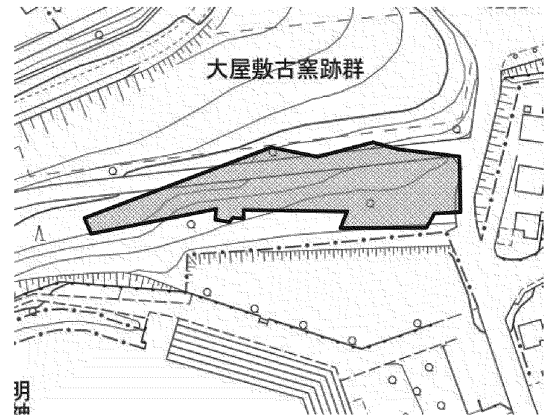
南屋敷遺跡隣接地土層堆積状況



主な出土遺物

37 大屋敷古窯群6次（おおやしきこようぐん）

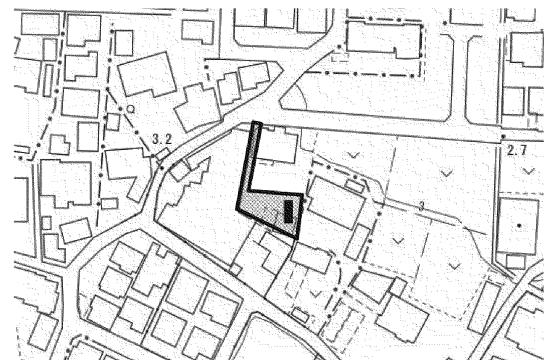
所在地 浜北区宮口地内
立会日 2018年10月22日～25日
調査原因 道路建設
検出遺構 なし
出土遺物 灰釉陶器、白色の頁岩製の石器（エンドスクレイパーか）
立会結果 平安時代の古窯に伴う灰原が発見されたが、窯体本体はすでに消失。灰原からは平安中期の10世紀代の灰釉陶器が多く出土した。今後詳細報告予定。



位置図（2,500分の1）

38 篠原町仲村遺跡 （しのはらちょうなかむらいせき）

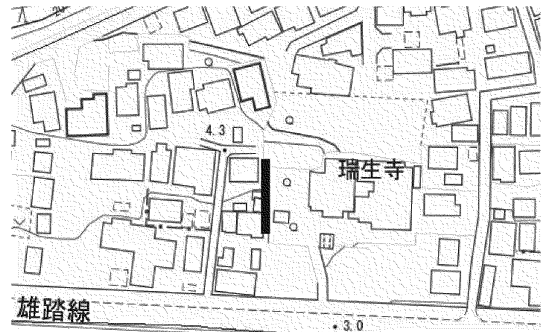
所在地 西区篠原町2128-17外
立会日 2018年10月25日
調査原因 個人住宅建設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 掘削範囲が狭小で、遺構の有無にかかわる情報は得られなかった。



位置図（2,500分の1）

39 中村遺跡 (なかむらいせき)

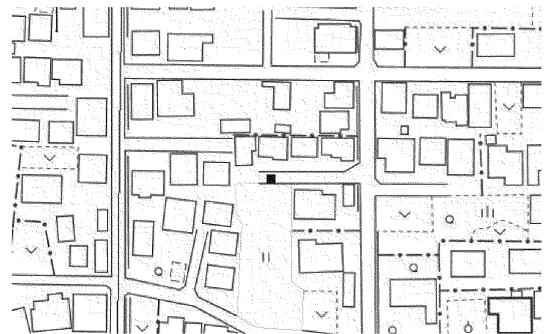
所在地 中区東伊場1丁目28-13
 立会日 2018年11月5日
 調査原因 既設擁壁撤去
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

40 山寺野遺跡 (さんじのいせき)

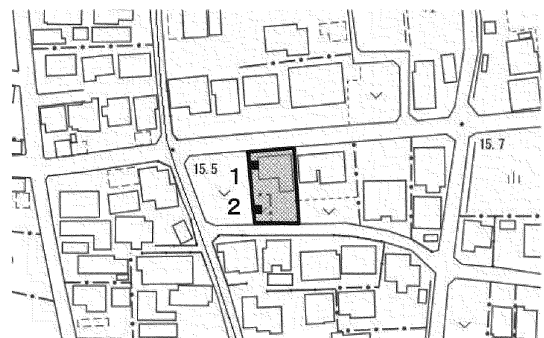
所在地 南区飯田町780-5付近
 立会日 2018年11月12日
 調査原因 下水道工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

41 宮前遺跡 (みやまえいせき)

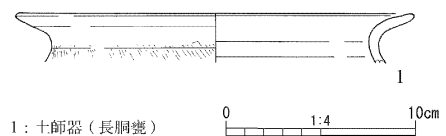
所在地 東区豊町2693
 立会日 2018年11月21日
 調査原因 境界ブロック壁設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器、須恵器、灰釉陶器
 立会結果 古墳時代から平安時代の遺物が出土した。



位置図 (2,500分の1)



立会箇所2土層堆積状況

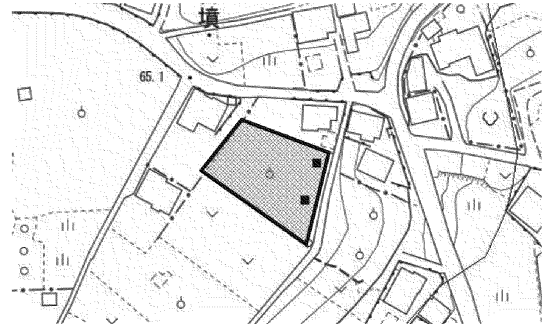


1: 土師器 (長胴甕)

出土遺物実測図 (S=1/4)

42 向野古墳群 (むかいのこふんぐん)

所在地 浜北区根堅 2530-17
立会日 2018年11月27日
調査原因 太陽光発電施設設置 他
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

43 浜地遺跡 (はまじいせき)

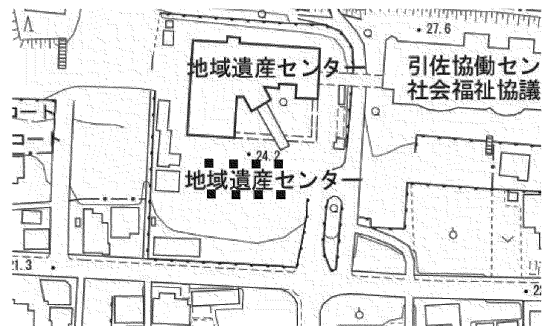
所在地 西区入野町地内
立会日 2018年11月27日
調査原因 側溝改修工事
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (5,000分の1)

44 井伊谷遺跡 (いいのやいせき)

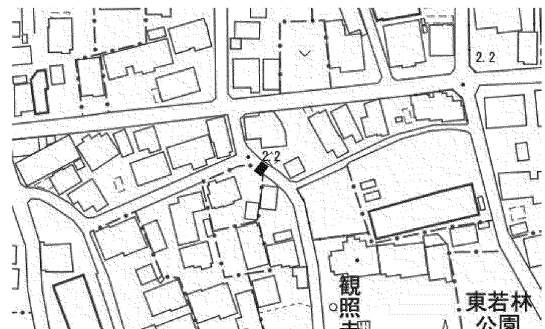
所在地 北区引佐町井伊谷地内
立会日 2018年12月4日
調査原因 太陽光発電工事
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

45 村裏遺跡 (むらうらいせき)

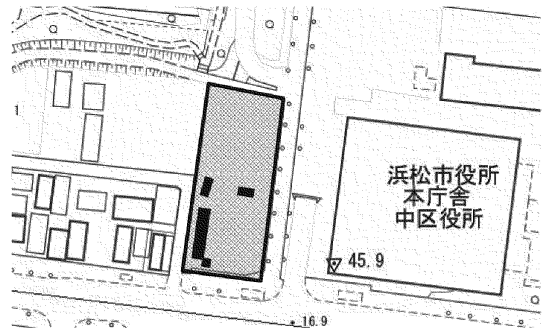
所在地 南区東若林町 1021-1
立会日 2018年12月19日
調査原因 ガス供給管理設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

46 浜松城跡（はままつじょうあと）

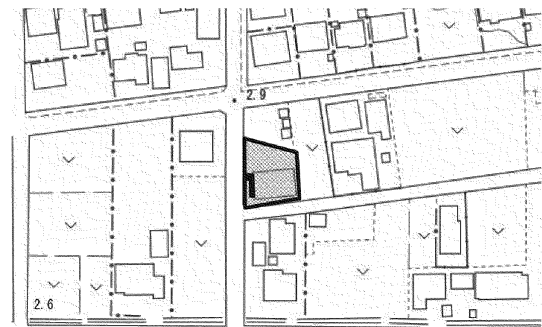
所在地 中区元城町 100-2
 立会日 2018年12月19日、2019年1月15日
 調査原因 公園整備
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

47 篠原町西前遺跡
 (しのはらちょうにしまえいせき)

所在地 西区篠原町 20540-2
 立会日 2018年12月21日
 調査原因 消防団庁舎改修
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

48 万斛西遺跡（まんごくにしいせき）

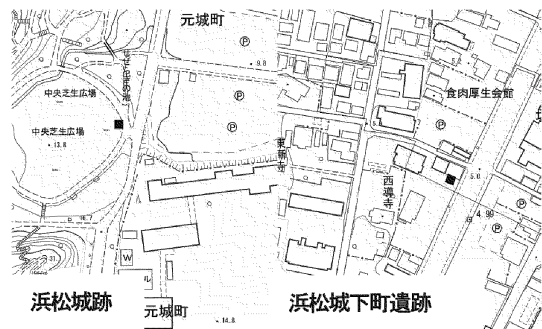
所在地 東区中郡町 980 外
 立会日 2018年12月25日
 調査原因 公園整備
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

49 浜松城跡・浜松城下町遺跡
 (はままつじょうあと・はままつじょうかまちいせき)

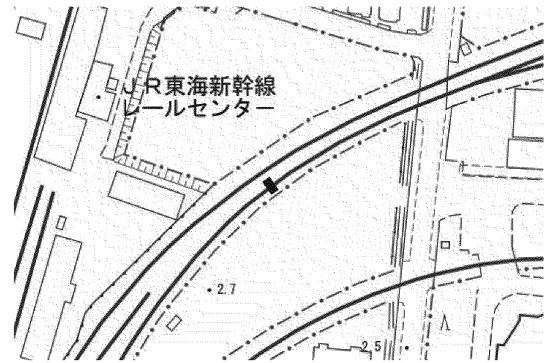
所在地 中区元城町地内、塩町地内
 立会日 2018年12月25日、26日
 調査原因 看板設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (5,000分の1)

50 梶子遺跡 (かじこいせき)

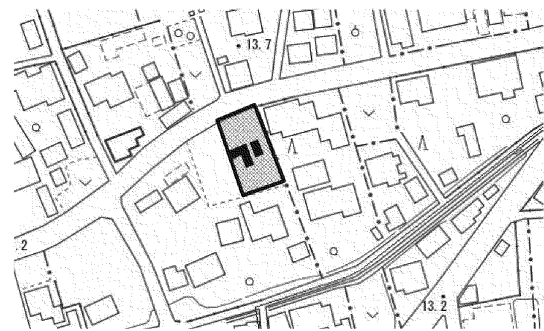
所在地 中区南伊場町 1-1
 立会日 2019年1月8日
 調査原因 架線柱支線設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 弥生土器(詳細は、梶子19・20次成果と共に報告)
 立会結果 伊場D層に相当する黒灰色粘土層から弥生時代後期の土器が出土した。



位置図 (2,500分の1)

51 恒武西宮遺跡 (つねたけにしみやいせき)

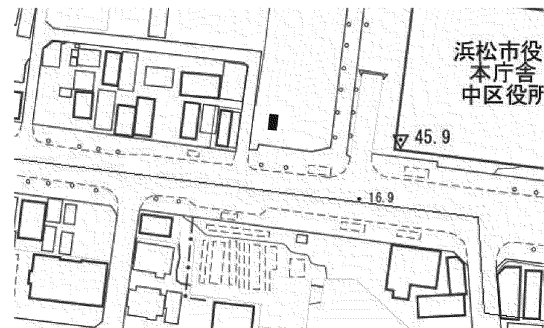
所在地 東区恒武町 254-2 外
 立会日 2019年1月10日
 調査原因 専用住宅新築
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

52 浜松城跡 (はままつじょうあと)

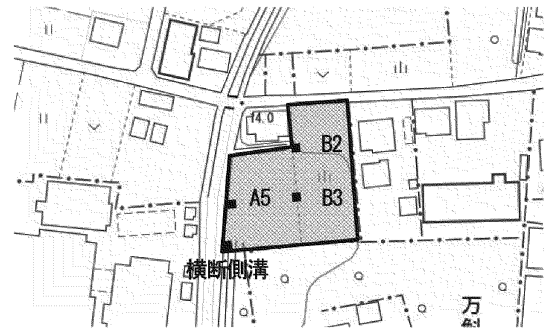
所在地 中区元城町
 立会日 2019年1月16日
 調査原因 電力用埋設管設置
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

53 万斛西遺跡 (まんごくにしいせき)

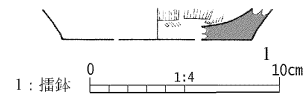
所在地 東区中郡町 980 外
 立会日 2019年1月16日、23日、2月5日
 調査原因 公園整備
 検出遺構 小穴、溝か
 出土遺物 土師器、播鉢
 立会結果 奈良時代の土師器や江戸時代の播鉢の破片が出土した。



位置図 (2,500分の1)



集水樹B3 全景



出土遺物実測図 (S=1/4)

54 若林町村西遺跡
(わかばやしちょうむらにしいせき)

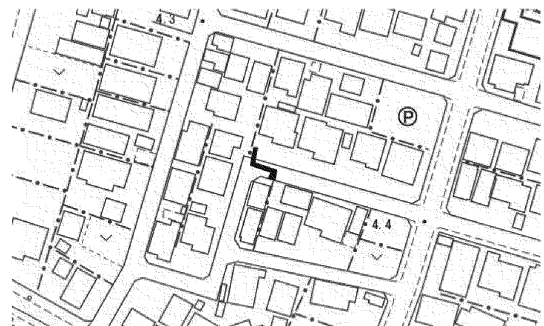
所在地 南区若林町 1193-14
 立会日 2019年1月28日
 調査原因 ガス管理設工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器小片
 立会結果 遺構は検出されなかったが、包含層を確認した。



位置図 (2,500分の1)

55 棕木遺跡 (むくぎいせき)

所在地 東区子安町 305-21
 立会日 2019年1月31日
 調査原因 ガス管理設工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 土師器破片
 立会結果 遺構は検出されなかったが、包含層を確認した。



位置図 (2,500分の1)

56 村裏遺跡 (むらうらいせき)

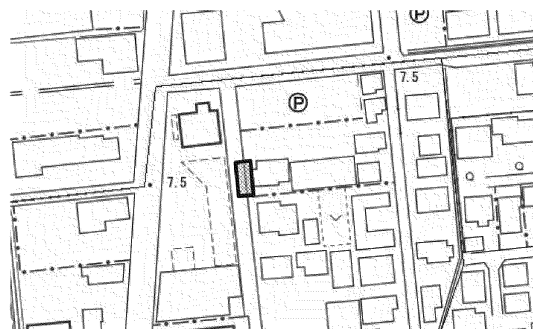
所在地 南区東若林町 704-26 外
 立会日 2019年1月31日
 調査原因 ガス管理設工事
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

57 天王中野遺跡 (てんのうなかのいせき)

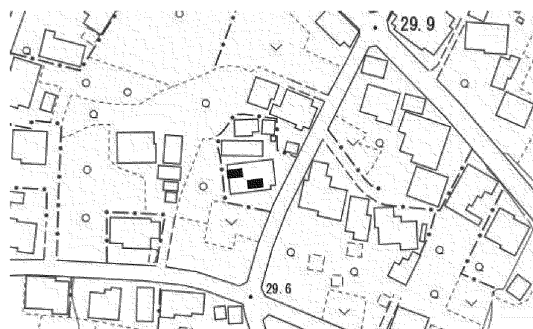
所在地 東区原島町 344-4
立会日 2019年2月1日
調査原因 ガス管理設工事
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 掘削深度が浅いため、基盤層は確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

58 梶池遺跡 (くちなしいけいせき)

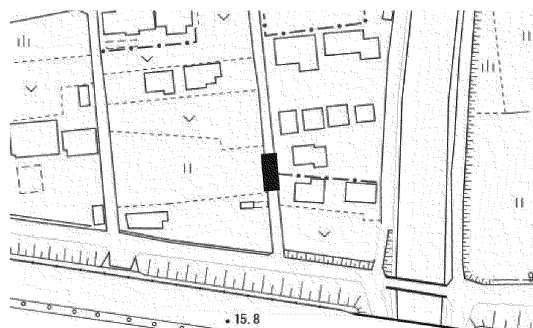
所在地 浜北区宮口地内
立会日 2019年2月4日
調査原因 集合住宅建設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

59 市野遺跡 (いちのいせき)

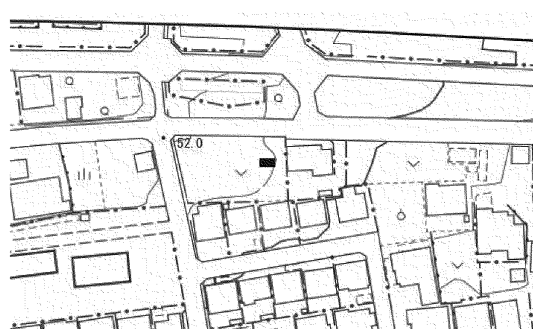
所在地 東区市野町 1058-1 地先
立会日 2019年2月12日
調査原因 下水道管理設
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

60 中屋遺跡 (なかやいせき)

所在地 浜北区根堅 268-3
立会日 2019年2月21日
調査原因 浄化槽設置
検出遺構 なし
出土遺物 なし
立会結果 遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

61 笠井上組遺跡・笠井中組遺跡
(かさいかみぐみいせき・かさいなかぐみいせき)

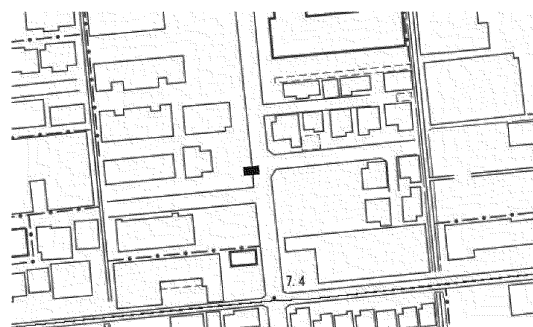
所在地 東区笠井町 508-1 地先
 立会日 2019年3月5日
 調査原因 水道管理設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削深度が浅いため、基盤層までは確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

62 天王中野遺跡 (てんのうなかのいせき)

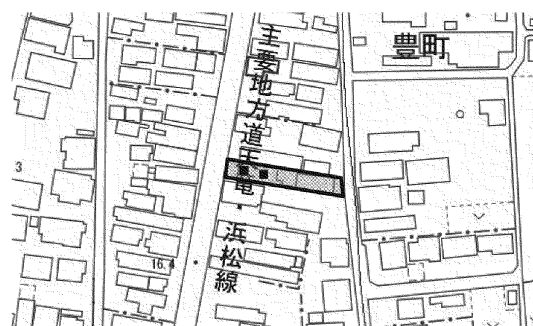
所在地 東区天王町 1594-1
 立会日 2019年3月11日
 調査原因 ガス管理設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削深度が浅いため、基盤層までは確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

63 笠井上組遺跡 (かさいかみぐみいせき)

所在地 東区笠井町 10-2 外
 立会日 2019年3月12日
 調査原因 個人住宅建設
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし
 立会結果 掘削深度が浅いため、遺構や遺物は確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

踏査報告

1 大島遺跡 (おおしまいせき)

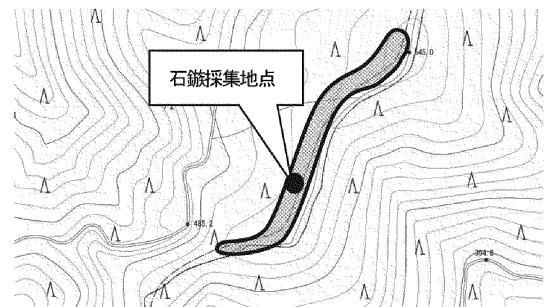
所在地 南区高塚町地内
踏査日 2018年5月24日
調査原因 土地造成計画地の現況確認
検出遺構 なし
出土遺物 土師器、須恵器、かわらけ
踏査結果 遺物は周囲の畑地より採集。計画地は遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (2,500分の1)

2 渋川地内 (しぶかわちない)

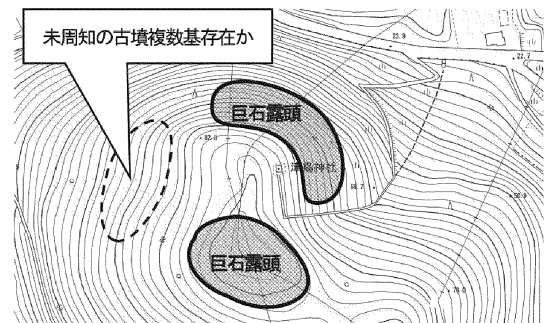
所在地 北区引佐町渋川地内
踏査日 2018年9月11日
調査原因 石鏃採集地の現況確認
検出遺構 なし **出土遺物** 石鏃
踏査結果 石鏃はシブカワツツジ群落地から北へ2km程の山中の散策路内で落ちているのを採集。周辺からは、遺構・遺物ともに確認できなかった。



位置図 (10,000分の1)

3 恩塚山古墳群 (おんづかやまこふんぐん)

所在地 北区細江町中川・都田町地内
踏査日 2018年9月11日
調査原因 恩塚山古墳群内の現況確認
検出遺構 古墳、巨石露頭
出土遺物 なし
踏査結果 山頂付近で巨石露頭と古墳らしき高まりが確認できたが、遺物が採集できなかったため、磐座か否かは判断できなかった。



位置図 (5,000分の1)

4 館山寺町地内 (かんざんじちょうちない)

所在地 西区館山寺町
踏査日 2019年2月17日・2月18日
調査原因 宝篋印塔の現状確認等
検出遺構 なし **出土遺物** なし
踏査結果 宝篋印塔の相輪部2個体、笠部1個体の転倒を確認。その他の部分は確認できなかった。遺物の散布は見られなかったため、築造年代は不明。



位置図 (2,500分の1)

第4章 詳細報告

1 日晩遺跡 12次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査の経緯

遺跡の位置と概要 日晩遺跡は、浜松市南部の海岸平野の浜堤上に位置する古墳時代後期から中世にかけての遺跡である。これまでに11度の調査が実施されており、須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗・内耳鍋等が出土し、溝や土坑等も検出されているが、いずれも確認調査であるため、断片的な情報しか得られていない。

調査の経緯 今回の調査対象地では、店舗サイン基礎の部分について小規模な本発掘調査を実施した。調査は、浜松市教育委員会（浜松市市民部文化財課が補助執行）が実施し、重機掘削費用は事業主体者が負担した。調査面積は9.9㎡、調査日は平成30（2018）年7月10日である。基礎整理作業は平成30年度中に、整理作業は令和元（2019）年12月までに行った。

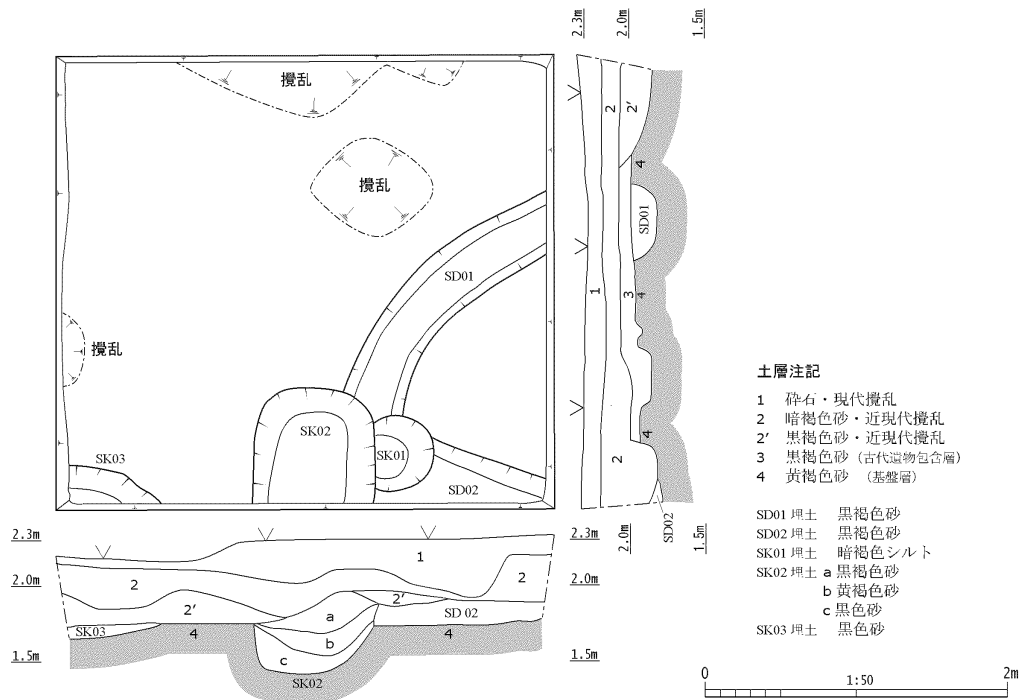
(2) 調査の成果

土層の堆積状況 上部から碎石、近現代の暗褐色砂層、遺物包含層の黒褐色砂、基盤層の黄褐色砂層の順に堆積しており、地表面からの深さは浅い部分で60cm程度である。全体的に攪乱が及んでおり、遺物包含層を確認できたのは調査区東側の一部のみである。

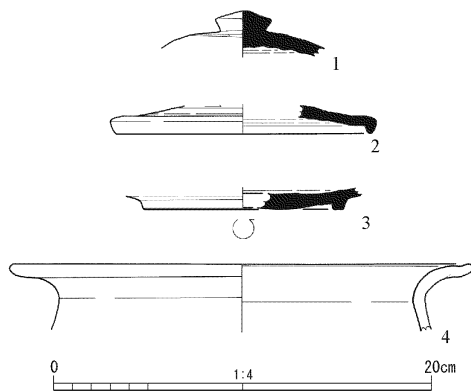
遺構 土坑3基と溝2条が検出された。SK01は、西側をSK02と切り合い、径約50cm、深さ30cmで円形を呈する。SK02は、南側が調査区外だが、隅丸方形状で東西82cm、深さ45cmを測る。SK03は、調査区南西隅で検出されており、確認部分で東西62cm、深さ約10cmを測る。SD01は、やや屈曲しており、検出長2m、幅約40cm、深さ約10cmを測る。SD02は、調査区南東隅での検出であり、SD01と同一溝である可能性も考えられる。検出長1m、深さ16cmを測る。いずれの遺構もその用途は不明だが、切り合い関係からSD01・02→SK01→SK02の順に掘削されたことがわかる。



第1図 日晩遺跡の位置と発掘調査の状況



第2図 調査区平面図・土層断面図



第3図 出土遺物実測図



第4図 調査区全景 (西から)

遺物 出土したのは、いずれも奈良時代の須恵器・土師器である。大半が小破片であるが、図化できるものを第3図に掲載した。1～2は須恵器杯蓋である。1は摘み部分、2は口縁部の破片である。3は須恵器杯身の高台部破片である。4は土師器長胴甕の口縁部破片である。1～3はSK02、4はSD02からの出土である。

(3) 結 語

今回の調査は面積が狭小であるため、遺跡の性格までは明らかにし得ないが、出土した土師器の甕にススが付着するなど使用痕が残る土器が確認されていることから、調査区とその周辺に奈良時代の居住域が展開していたと考えられる。

(鈴木京太郎)

2 天王遺跡 9 次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査経緯

遺跡の位置と概要 天王遺跡は、浜松市東区天王町に位置し、天竜川が形成した沖積平野に展開する弥生時代の遺跡である。天王遺跡では、これまでに大規模商業施設建設等に伴い、広大な範囲で試掘・確認調査が実施されているが、明確な遺構・遺物の確認に至っていない。

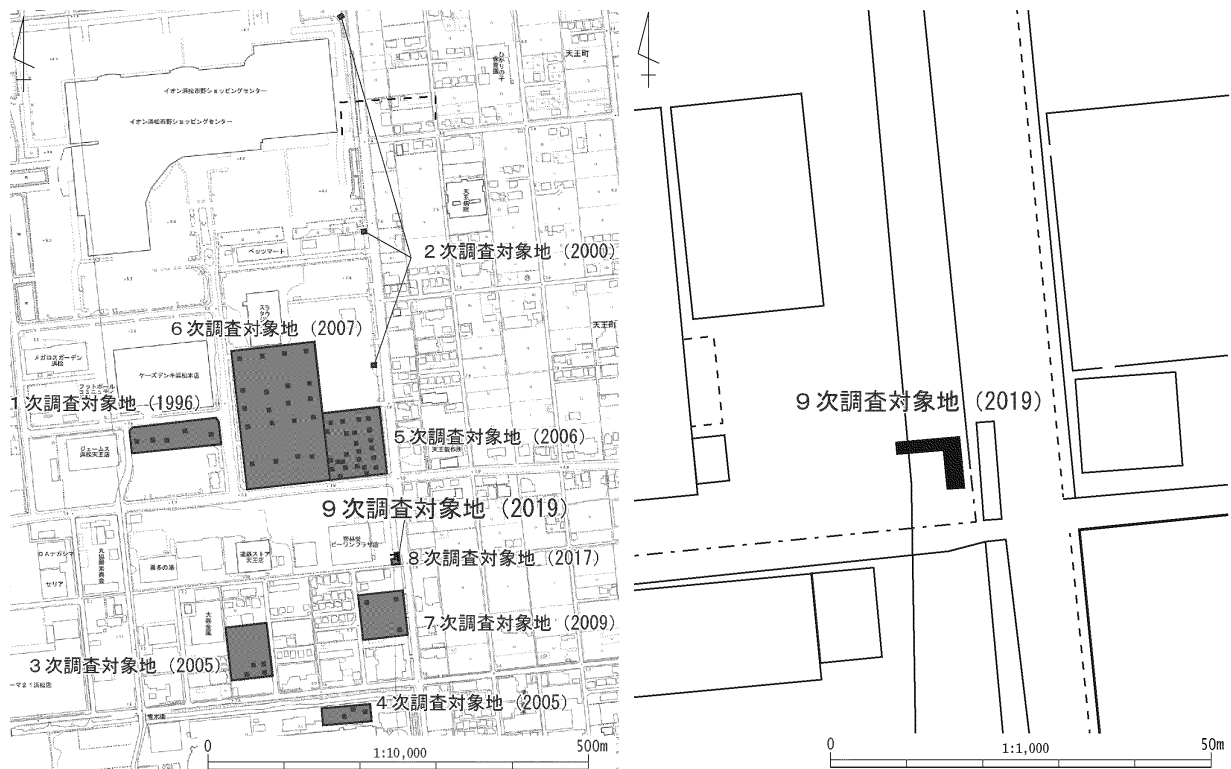
調査の経緯 天王遺跡の範囲内において送電線鉄塔建替工事が計画されたため、2017年9月20日に遺跡の状況等を確認するため予備調査を実施した(8次調査)。調査の結果、遺物包含層を確認し、包含層内から弥生土器と須恵器が出土した。この結果を踏まえ、遺跡の取扱いについて協議を行い、工事により遺跡の保護が図れない部分について、記録保存のための本発掘調査を実施した。

発掘調査は、2019年1月25日～29日にかけて実施した。調査対象面積は、29㎡である。

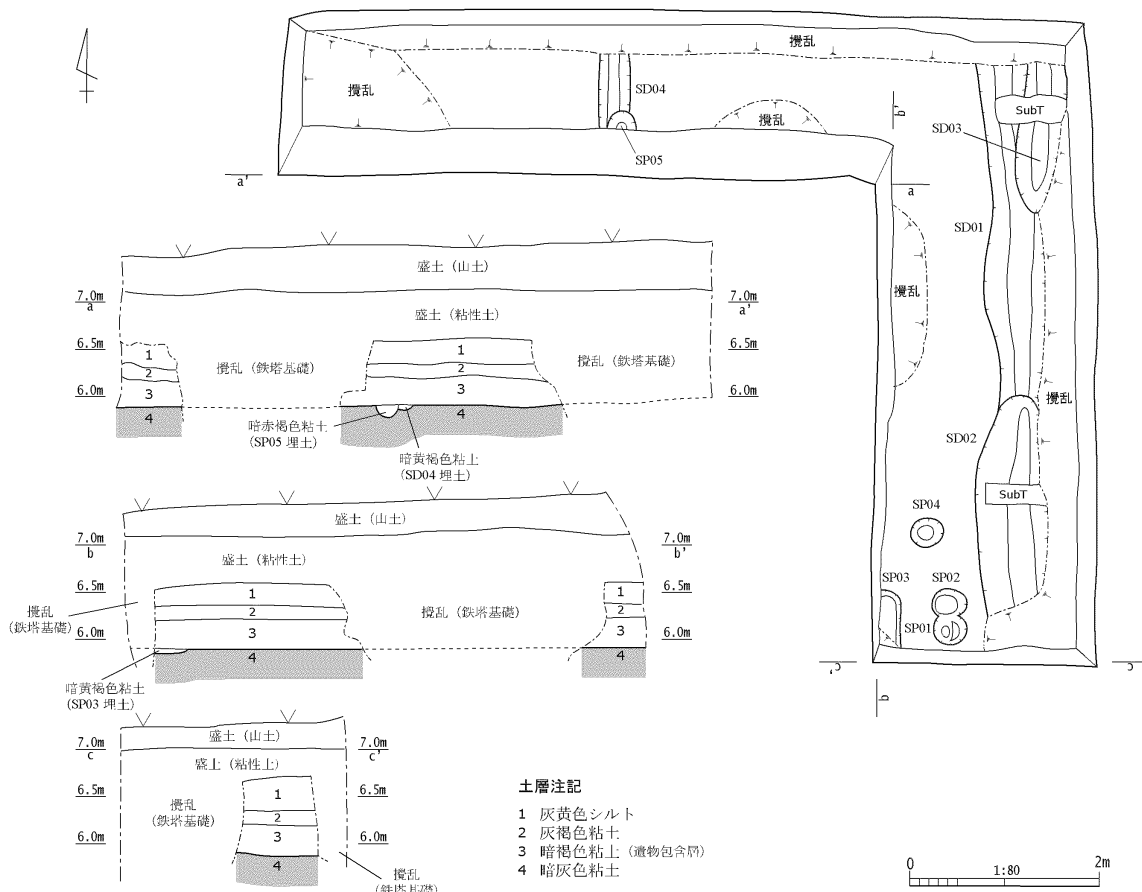
(2) 調査の成果

土層堆積状況 調査区内は、全体に1m程盛土が施されており、加えて既存鉄塔基礎による攪乱が顕著であった。盛土以下の土層堆積状況は次のとおりである。1層：灰黄色シルト、2層：灰褐色粘土、3層：暗褐色粘土、4層：暗灰色粘土の順に確認した。なお、3層が遺物包含層である。

遺構 調査区内を精査した結果、4条の溝と5基の小穴を確認した。調査区東側でSD01～SD03を確認した。溝は、いずれも南北方向に調査区外へと延びており、重複して掘削されていることと攪乱の影響を受けていたため、長さ及び幅は不明である。深さは、SD01・SD03が10cm、SD02が25cmである。小穴は、調査区の南側を中心に確認されたが、いずれも掘り込みは浅く、建物の柱穴とは見なしがたい。遺構の帰属時期は遺物の出土量が少ないため、明確にしがたいものも存在するが、一部から弥生土器の小片が出土しており、弥生時代後期のものと推定される。



第5図 天王遺跡における過去の調査位置と9次調査区配置図



第6図 調査区平面図と土層断面図

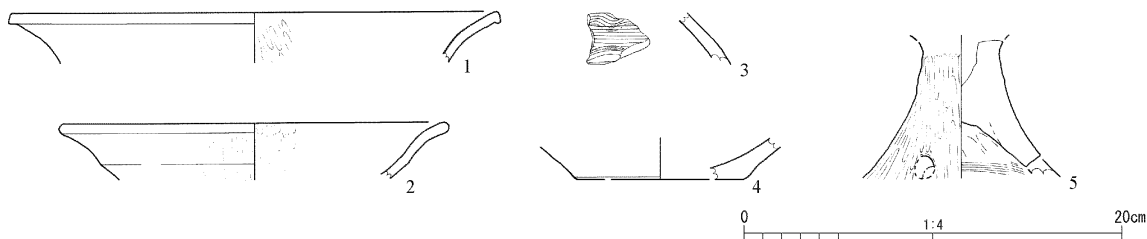
遺物 出土した遺物を第7図に示す。いずれも弥生時代後期のものと捉えられる。1・2は高坏の口縁部である。摩滅が著しいが1は内面、2は内外面にミガキが施されている。3は壺の肩部である。横線文と波状文が施されている。4は鉢の底部と考えられる。5は高坏の脚部である。外面にはミガキ、内面にはハケメが施され、円形スカシが穿たれている。

(3) 結 語

今回の調査の結果、弥生時代後期の遺物を検出し、当該期に掘削されたと考えられる遺構を検出した。天王遺跡においては、これまでに具体的な遺構の検出事例に乏しかったことから、小規模調査ではあるが、明確な遺構の検出に至ったことは大きな成果と言える。

天王遺跡では、これまでに9次に渡る調査が実施されている。今回の調査では遺構の検出に至ったものの、依然として実態は不明確な点が多い。今後の調査結果の蓄積を待って、天王遺跡の性格がより鮮明なることを期待する。

(川西啓喜)



第7図 出土遺物実測図

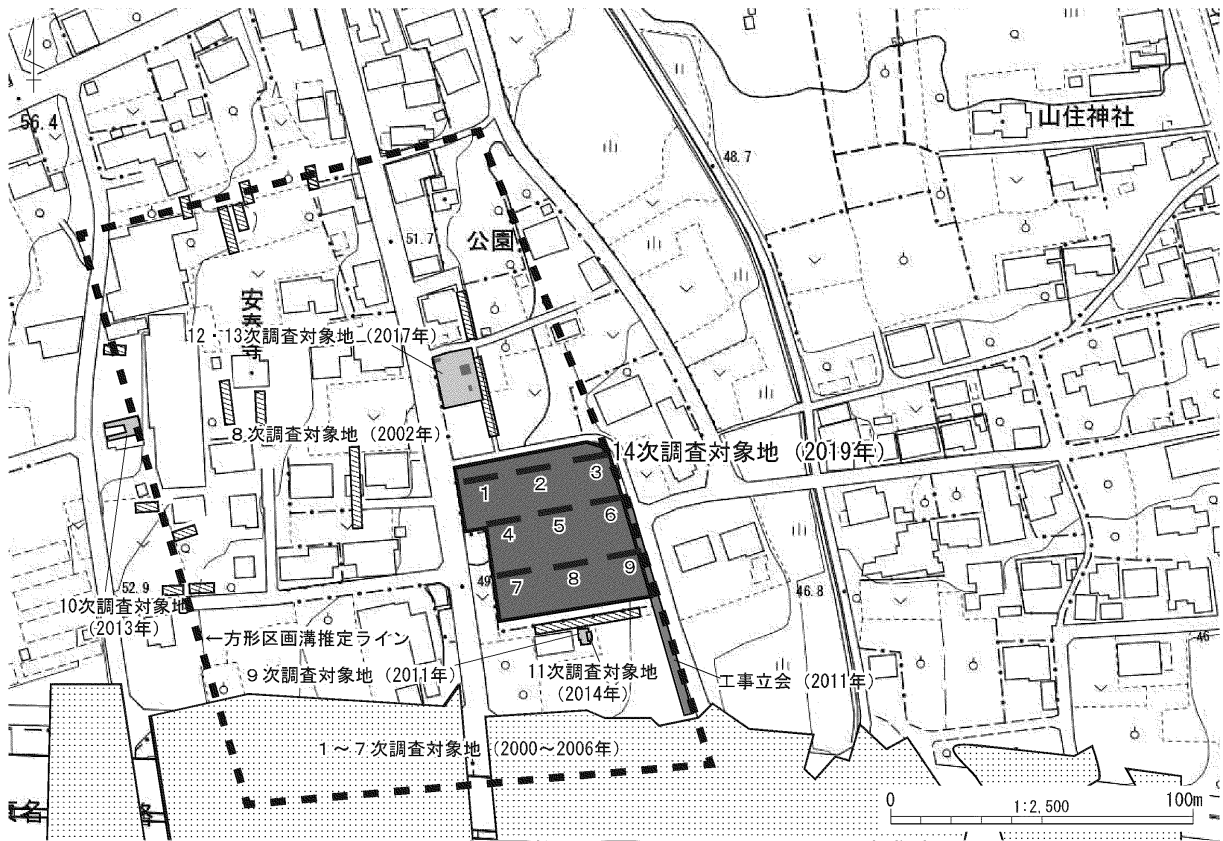
3 中屋遺跡 14次調査報告

(1) 遺跡の概要と調査の経緯

遺跡の位置 浜松市浜北区根堅に所在する中屋遺跡は、天竜川が形成した低平な河岸段丘（浜北面）上に立地している。遺跡の北側の丘陵には後期群集墳が多数分布しているほか、中世墓群も確認されている。また、丘陵の南麓部には当遺跡をはじめ、縄文時代から近世までの遺跡が密に分布しており、当遺跡の北側には、浜名湖北岸と北遠方面とをつなぐ秋葉街道の道筋が残されている。

遺跡の概要 当遺跡では、これまでに新東名高速道路建設に伴う1～7次調査（静埋研 2010）や、範囲確認のための8次調査（浜北市教委 2003）、道路改修に伴う工事立会（浜松市教委 2014）などの調査が実施されており、東西の長さ約160 m、南北の長さ約200 mにおよぶ大型の方形区画溝の存在が明らかとなっている。この区画溝は断面が逆台形を呈し直線的に延びるなど規格性が高く、土塁を伴っている。検出面における幅が3.5 m前後、深さが1.4～2.0 mを測る。出土遺物の年代から12世紀後半～13世紀代にかけて機能した後に廃絶したと考えられているが、溝の位置や向きは、現在の地割にも反映されている。なお、溝のほぼ全域から少量ながらも瓦が出土していることなどから、中世初頭の寺院に伴う遺構と考えられている。近傍に所在する真言宗の古刹岩水寺との関連も想起されるが、区画溝の内部には調査の手があまり及んでいないことから、その詳細は不明である。

また、方形区画溝の東側で検出された旧河道の護岸施設からは、全国初の出土例である鎌倉時代の木製螺鈿鞍（静岡県指定有形文化財）がほぼ完全な形で検出され、その下部からは5枚の呪符木簡やヤダケの束が出土している。13世紀半ば頃の護岸施設の整備に伴い埋納されたとみられており、有力者による水辺の祭祀行為として注目される。



第8図 中屋遺跡における調査の状況

調査の経緯 今回の調査対象地は、鎌倉時代の溝により方形に区画された内側に位置しており、対象地東端でその溝の検出が想定されたため、確認調査を実施することとなった。対象地に幅1 m、長さ8～9 m程度の調査溝9本を設定し、重機で掘削後、人力で遺構検出及び遺構掘削（一部）を行った。調査は平成31（2019）年2月26日～28日の3日間である。現地調査終了後、基礎整理作業は平成30年度中に、整理作業は令和元（2019）年12月までに行った。

（2）調査の成果

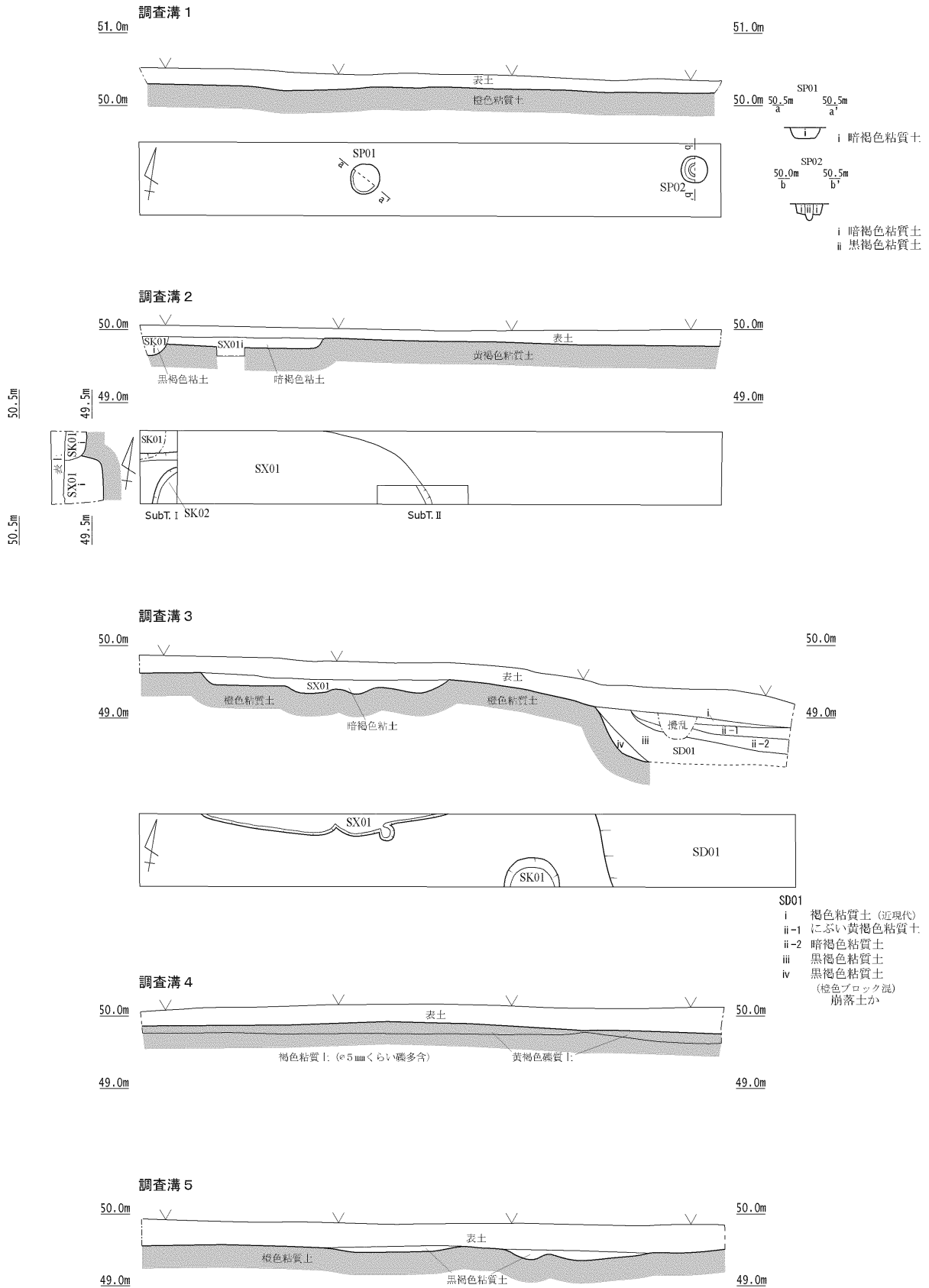
土層の堆積状況 上から表土、黒褐色粘質土、褐色系粘質土（基盤層）の順に堆積しているが、調査溝1～6では現地表面から基盤層までが極めて浅く、表土直下が基盤層という状況である。現地表面から基盤層までの深さは約15～80 cmを測り、南へ向かって深くなっている。なお、黒褐色粘質土層については、遺物の出土が皆無であり包含層とは言い難い。比較的新しい層（近世頃か）と推測される。なお調査溝9の基盤層直上で確認されている暗褐色粘質土層は、失われた土塁下部の旧表土の可能性も考えられる。

遺構 調査坑4・5を除く調査溝で、方形区画溝、土坑、小穴、不定形大型遺構が確認された。方形区画溝（SD01）の一部は調査対象地東端の調査溝3・6・9で確認した。いずれも南北に延びる東側の溝の西部分である。位置の確認に留めて底面まで完掘していないが、確認部分で幅1.75 m、深さ1.2 mを測る。埋土の堆積状況は3箇所とも類似しており、i）褐色粘質土（近代土層）、ii）暗褐色系粘質土、iii）黒褐色粘質土、iv）基盤層と同様のブロックを含む暗褐色系粘質土（初期流入土）の順で上から堆積している。上層までの掘削に留めているため出土遺物は少ないが、山茶碗、かわらけ、瓦が出土している。

土坑は、調査溝2・3・7で各1基検出された。調査溝2-SK01は、調査溝北西隅で検出された円形の土坑である。大半が調査区外に及んでおり、確認できる規模は幅30 cm、深さ25 cmである。遺物は出土していないが、山茶碗等13世紀前半頃の遺物を含むSX01を切って掘られていることから、それ以降の遺構とみられる。調査溝3-SK01は、調査溝の南端で検出された円形の土坑である。ほぼ1/2が調査区外に及んでおり確認できる規模は幅50 cm、深さ10 cm程度である。遺物が出土していないため時期は不明である。調査溝7-SK01は、調査溝南端で検出された楕円形の土坑である。未掘削のため出土遺物はなく時期は不明である。確認できる規模は幅50 cmである。

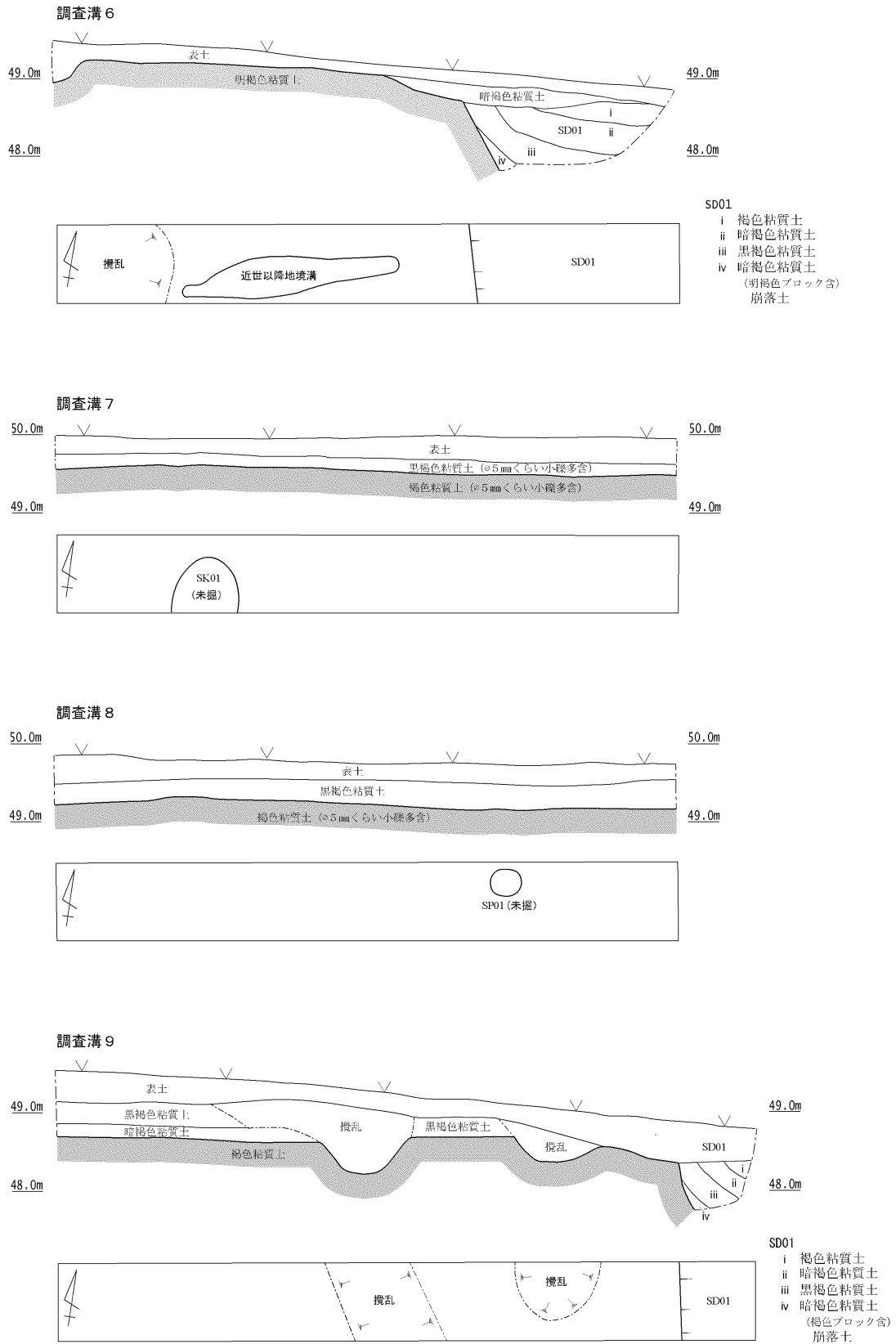
小穴は、調査溝1で2基、調査溝8で1基を検出した。調査溝1-SP01は、直径30 cmの円形を呈する。埋土は暗褐色粘質土で、深さは10 cm程度である。出土遺物はみられない。調査溝1-SP02も、直径30 cm、深さ10 cm程度の小穴である。柱穴跡が残っており、山茶碗の破片が出土している。両小穴はやや離れて設けられているが、形状も類似することから、1棟の掘立柱建物の柱穴になる可能性がある。調査溝8-SP01は、未掘であるため遺物は確認されていないが、直径35 cm程度の小穴である。

不定形の大型遺構は、調査溝2で1基、調査溝3で1基検出された。調査溝2-SX01は、東西3.2 m以上、南北1 m以上を測る。深さは15 cm～40 cm程度と幅があり、遺構が重複している可能性もある。山茶碗、山皿、かわらけ、瓦が出土しており、13世紀前半頃の遺構とみられるが、その性格は不明である。調査溝3-SX01は、調査区北端で検出されており、約1/2は調査区外に及んでいると考えられる。確認できる部分の規模で東西2.7 m、南北30 cm、深さ10～18 cmと広くて浅い形状を呈している。調査溝2-SX01と同じく、遺構が重複している可能性もある。出土遺物は確認されていない。

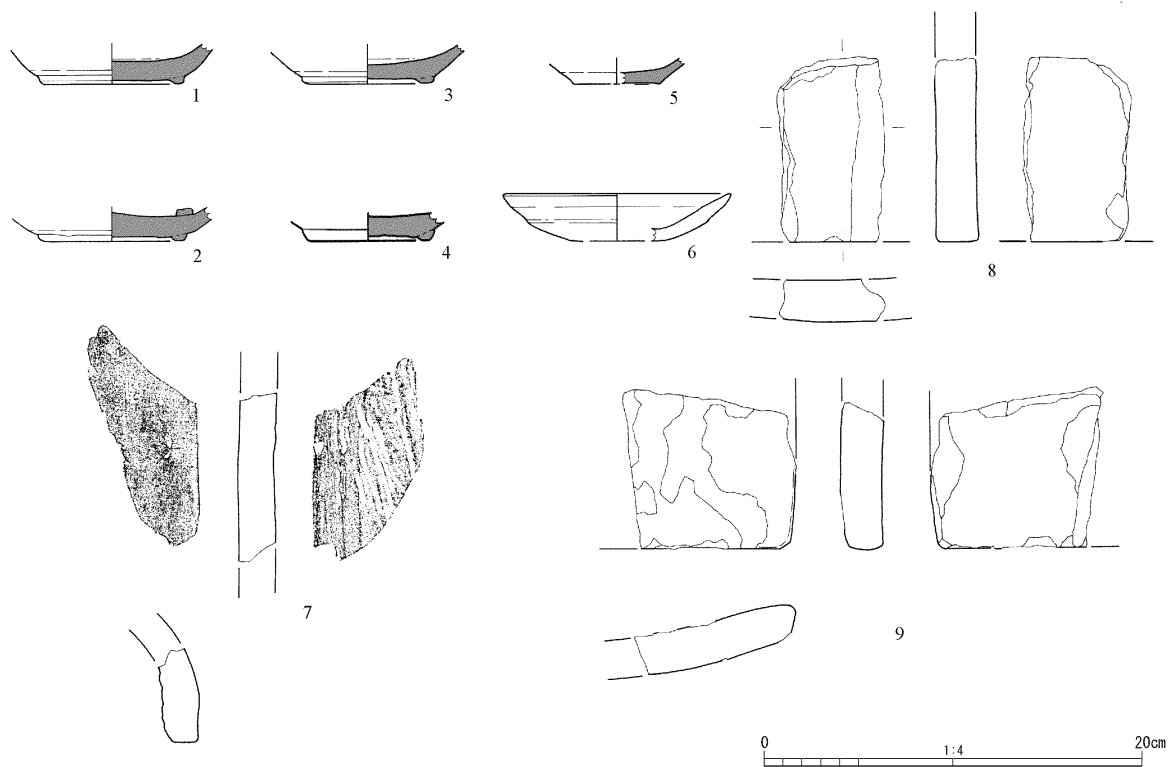


※調査溝 4、調査溝 5 は遺構を検出していないため、平面図は割愛した。

第 9 図 調査溝 1 ~ 3 平面図および調査溝 1 ~ 5 土層断面図



第 10 図 調査溝 6 ～ 9 平面図および土層断面図



第11図 出土遺物実測図

遺物 今回の調査では、山茶碗、山皿、かわらけ、屋根瓦、中世陶器などの遺物が出土しているが、その大半が小破片であり、その中でも図示できるものを第11図に掲載した。また、調査溝3・6・9のSD01（区画溝）の上層からは、近世に降るとみられる播鉢や碗などの陶磁器も出土している。

1～4は、山茶碗の底部破片である。1は調査溝1-SP02、2は調査溝2-SX01、3・4は調査溝6-SD01（区画溝）からの出土である。1の高台接地部には離れ砂が、2の高台接地部には靱圧痕が残されている。いずれも高台の扁平化が進んでいることから、13世紀前半～中葉頃のものと考えられる。

5は、山皿の底部破片で、調査溝2-SX01からの出土である。無高台で糸切後のナデ調整が行われている。山茶碗と同様13世紀前半～中葉頃のものと考えられる。

6は、土師質土器皿（かわらけ）の口縁部破片で、調査溝3-SD01（区画溝）i層からの出土である。口径11.8cmを測る。摩滅が著しく調整痕を確認しにくい、非クロコ成形で口縁部にヨコナデ調整が行われている。13世紀頃のものと考えられる。

7～9は瓦で、7・8は調査溝3-SD01（区画溝）からの出土、9は調査溝6-SD01（区画溝）からの出土である。7は丸瓦の破片で、SD01のi層からの出土である。凸面にはナデ調整が施されており、凹面には布目の圧痕と吊紐痕が残る。また端部の凹面側は面取りが行われている。8・9は平瓦の破片である。いずれも摩滅が著しく、調整痕は確認しにくい。8は、両面に離れ砂の付着が認められる。端部の面取りは行われていない。9にも両面に離れ砂の付着がわずかにみられる。狭端部と側端部が部分的に認められ、狭端部の凹面側には面取りが行われている。

(3) 結 語

今回の調査の結果、遺物包含層は確認できなかったが、方形区画溝の東溝の位置を確認することができたとともに、13世紀代とみられる土坑・小穴・不定形遺構などを検出することができた。なお、調査対象地北部にあたる調査溝1～3では比較的基盤層が浅い位置で検出され、遺構・遺物も多く確認されたが、調査対象地中央～南部の調査溝4～9では、表土や近世以降とみられる土層がやや厚く堆積しており、方形区画溝SD01以外の遺構や出土遺物は極めて希薄であった。調査対象地中央～南部においては、近世～近代の段階で本来の基盤層を削平するような造成が行われた可能性も考えられるため、今後は遺構の残存状況を慎重に見極めながら開発事業と遺跡の保護の調整に対処する必要がある。

未だ中屋遺跡の全容は明らかではないが、こうした確認調査等の積み重ねによって、少しずつ遺跡の様相が解明されていくものと期待される。

(鈴木京太郎)

参考文献

浜北市教育委員会 2002『中屋遺跡 範囲確認調査報告書』

中日本高速道路(株)東京支社・(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所 2010『中屋遺跡 第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 浜松市ー2』静岡県埋蔵文化財調査報告第234集

浜松市教育委員会 2014『平成24年度 浜松市文化財調査報告』

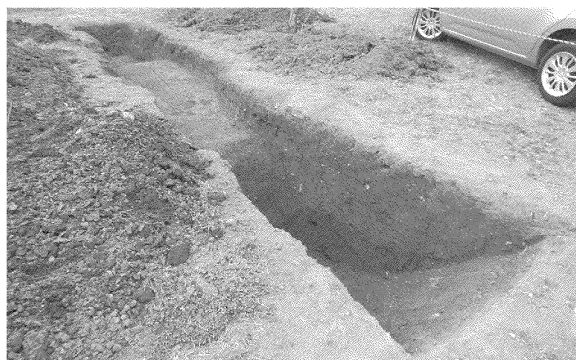
浜松市教育委員会 2019『平成29年度 浜松市文化財調査報告』



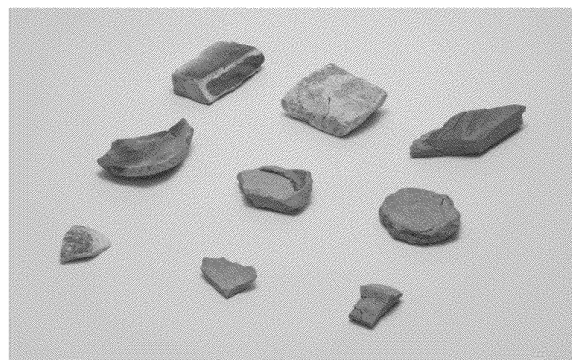
調査対象地遠景(南東から)



調査溝1(東から)



調査溝6(東から、手前が方形区画溝SD01)



主な出土遺物

報 告 書 抄 録

書名 (ふりがな)		平成 30 年度 浜松市文化財調査報告 (へいせい 30 ねんど はまつしぶんかざいちょうさほうこく)						
編著者名		鈴木京太郎、川西啓喜 ※第 2 部第 4 章						
編集発行機関		浜松市教育委員会 (浜松市市民部文化財課が補助執行) 浜松市市民部文化財課 〒 430-8652 浜松市中区元城町 103-2 TEL (053) 457-2466						
発行年月日		2020 年 2 月 28 日						
ふりがな 遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひばんいせき 日晩遺跡	浜松市 南区 増楽町	22134	4-2-13	34 度 41 分 27 秒	137 度 41 分 33 秒	2018 年 7 月 10 日	9.9 m ²	店舗看板設置 に伴う本発掘 調査
てんのういせき 天王遺跡	浜松市 東区 天王町	22132	2-3-10	34 度 44 分 6 秒	137 度 45 分 58 秒	2019 年 1 月 25 日 ～ 29 日	29 m ²	送電線鉄塔建 設に伴う本発 掘調査
なかやいせき 中屋遺跡	浜松市 浜北区 根堅	22136	6-3-36	34 度 50 分 24 秒	137 度 47 分 31 秒	2019 年 2 月 26 日 ～ 28 日	74 m ²	宅地造成に先 立つ確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
日晩遺跡	集落跡	奈良時代		土坑・溝		須恵器・土師器		
天王遺跡	集落跡	弥生時代後期		小穴・溝		弥生土器		
中屋遺跡	集落跡 寺院跡	鎌倉時代		土坑・小穴・溝・ 不定形大型遺構		山茶碗、山皿、 かわらけ、瓦、 中世陶器	大型方形区画溝の一部を 検出	
要約	<p>平成 30 年度に実施された小規模本発掘調査 (日晩遺跡 12 次、天王遺跡 9 次) と、大きな成果が得られた確認調査 (中屋遺跡 14 次) の 3 件の発掘調査について報告した。</p> <p>日晩遺跡は、浜松市南部の海岸平野の砂堤列上に位置する古墳時代後期から中世にかけての遺跡である。今回の調査では、土坑 3 基と溝 2 条が検出され、奈良時代の須恵器・土師器が出土した。当該時期に集落が展開していたと考えられる。</p> <p>天王遺跡は、天竜川沖積平野に位置する弥生時代後期と古代を主体とする遺跡である。今回の調査では、5 基の小穴と 4 条の溝が検出され、弥生土器が出土した。当遺跡では、これまで明確な遺構が確認されていなかったが、今回の調査で初めて明確な遺構を確認することができた。</p> <p>中屋遺跡は、天竜川の低位河岸段丘 (浜北面) 上に位置する鎌倉時代を中心とした遺跡である。過去の調査によって、東西約 160 m、南北約 200 m を囲む大型の方形区画溝の存在が明らかとなっている。今回の調査では、その溝の東側部分が検出されたほか、区画内部から土坑・小穴・不定形大型遺構が確認され、山茶碗、山皿、かわらけ、瓦、中世陶器が出土するなど、方形区画溝の位置や、区画内東部の遺構・遺物が良好に残存していることが確認された。</p>							

平成 30 年度 浜松市文化財調査報告

2020 年 2 月 28 日

発行 浜松市教育委員会

(浜松市市民部文化財課が補助執行)

印刷 有限会社 アプリ

